ビジネス実務学科（目次）

1）教養科目

文学	柴田　勝二	1
歴史学	蔦木　文湖	3
文化論	平澤　純子	5
法学	長沼　秀明	7
経済学	稲塲　建吾	9
自然科学	小島　　望	11
環境論	小島　　望	13

2）外国語科目

英語	近藤　真理	15
英会話	蒔田　裕美	17
中国語	王　　冰	19
韓国語	李　　芝善	21

3）専門科目

経営学	平澤　純子	23
キャリアデザインⅠ	赤城　知里	25
キャリアデザインⅡ	赤城　知里	27
簿記Ⅰ	稲塲　建吾・劉　　博	29
簿記Ⅱ	稲塲　建吾・劉　　博	31
情報処理Ⅰ	織戸　恒男	33
情報処理Ⅱ	織戸　恒男	35
ゼミⅠ	ビジネス実務学科専任教員	37
ゼミⅡ（環境学）	小島　　望	39
ゼミⅡ（簿記会計）	稲塲　建吾	41
ゼミⅡ（経営社会学）	平澤　純子	43
ゼミⅡ（財務管理論）	劉　　博	45
ゼミⅡ（仕事研究）	冨吉　光則	47
ゼミⅡ（マーケティングリサーチ論）	織戸　恒男	49
ゼミⅡ（産業心理学）	赤城　知里	51
ゼミⅢ（環境学）	小島　　望	53
ゼミⅢ（簿記会計）	稲塲　建吾	55
ゼミⅢ（経営社会学）	平澤　純子	57
ゼミⅢ（ビジネスと情報）	劉　　博	59
ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）	齋藤　篤史	61
ゼミⅢ（仕事研究）	冨吉　光則	63
ゼミⅢ（マーケティングリサーチ論）	織戸　恒男	65
ゼミⅢ（産業心理学）	赤城　知里	67
ゼミⅣ（環境学）	小島　　望	69
ゼミⅣ（簿記会計）	稲塲　建吾	71
ゼミⅣ（経営社会学）	平澤　純子	73
ゼミⅣ（財務管理論）	劉　　博	75
ゼミⅣ（企業研究Ⅲ）	齋藤　篤史	77
ゼミⅣ（仕事研究）	冨吉　光則	79
ゼミⅣ（マーケティングリサーチ論）	織戸　恒男	81
ゼミⅣ（産業心理学）	赤城　知里	83
経営管理論	平澤　純子	85
企業論	藤井喜一郎	87
中小企業論	藤井喜一郎	89
人的資源管理論	平澤　純子	91
財務管理論	劉　　博	93
マーケティング論	織戸　恒男	95
会計学	劉　　博	97
情報処理概論	原　かおり	99
文書作成	原　かおり	101

データ活用　原　かおり…… 103
インターンシップ　齋藤　篤史…… 105
流通ビジネス論　平野　英一…… 107
ベンチャービジネス論　織戸　恒男…… 109
秘書実務　原　かおり…… 111
コンテンツビジネス論　黄　　仙惠…… 113
サービスビジネス論　平野　英一…… 115
国際経営論　藤野　　洋…… 117
インターネットビジネス　劉　　博…… 119
簿記Ⅲ　稲塲　建吾…… 121
経営分析論　劉　　博…… 123
民法　三重野雄太郎…… 125
原価計算　稲塲　建吾…… 127
金融論　藤井喜一郎…… 129
会社法　三重野雄太郎…… 131
心理学　伊澤　利文…… 133
医療ビジネス論　一戸　真子…… 135
医療コミュニケーション論　一戸　真子…… 137
臨床心理学　赤城　知里…… 139
メンタルケア　井上　忠典…… 141
医療情報システム論　一戸　真子…… 143
産業心理学　赤城　知里…… 145
観光ビジネス論　齋藤　篤史…… 147
ホスピタリティ概論　冨吉　光則…… 149
ホテルビジネス基礎　冨吉　光則…… 151
ホテル経営論　齋藤　篤史…… 153
旅行業法　齋藤　篤史…… 155
観光マーケティング論　齋藤　篤史…… 157
かしこい旅行実務論　齋藤　篤史…… 159
エアラインビジネス　冨吉　光則…… 161
エアラインホスピタリティ　冨吉　光則…… 163
観光交通論　冨吉　光則…… 165
観光政策論　齋藤　篤史…… 167
ブライダルビジネスⅠ　岡本　尚也…… 169
ブライダルビジネスⅡ　岡本　尚也…… 171
アニメで学ぶ環境論　小島　　望…… 173
動物愛護　山田佐代子…… 175
ソーシャルメディア　劉　　博…… 177
生命の尊重　小島　　望…… 179
テーマパーク論　冨吉　光則…… 181
健康ビジネス論　一戸　真子…… 183
スポーツマネジメント論　大野　貴司…… 185
スポーツマーケティング論　織戸　恒男…… 187
スポーツ心理学　相羽枝莉子…… 189
特殊講義Ⅰ　劉　　博…… 191
特殊講義Ⅱ　小島　　望…… 193
特殊講義Ⅲ　小島　　望…… 195

4）こども学科開講科目

国語(書写を含む)　佐内　信之…… 197
生活　中野　英之…… 199
栽培　橋本　敏幸…… 201
演劇　中村　一規…… 203

文学　～文化としての文学～	柴田　勝二

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

西洋・中国との比較のなかで日本文化全体の特質を把握したうえで、古典から近現代に至る詩・劇・物語・小説の名作を取り上げ、そこに込められた主題や技法について講義する。日本文学を中心とするが、その特質を明らかにするために随時外国文学にも言及する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	日本文化の特質：西洋・中国との比較のなかで
第 2 回	神と仏：文学と仏像における表象
第 3 回	他者との共鳴１：詩歌①（万葉集・古今集）
第 4 回	他者との共鳴２：詩歌②（新古今集・連歌）
第 5 回	自然に映される自己：詩歌③（俳句・近代詩）
第 6 回	死と生の狭間で：劇①（夢幻能）
第 7 回	義理と人情の相克１：劇②（人形浄瑠璃）
第 8 回	義理と人情の相克２：劇③（歌舞伎）
第 9 回	虚構のなかの現実：劇④（三島由紀夫『近代能楽集』）
第 10 回	二つの世界の重なり１：物語①（伊勢物語・源氏物語）
第 11 回	二つの世界の重なり２：物語②（平家物語・雨月物語）
第 12 回	死をはらむ生者１：小説①（川端・谷崎）
第 13 回	死をはらむ生者２：小説②（鴎外・漱石）
第 14 回	せめぎ合う土着と外来：小説③（遠藤周作『沈黙』１）
第 15 回	せめぎ合う土着と外来：小説④（遠藤周作『沈黙』２）

予習・復習

・予習：テキストの該当部分を読んでおくこと。
・復習：学習した内容をまとめ、中間・期末レポートの作成をつつがなく行えるように準備する。

履修上の注意

・毎時間必ず出席すること。
・私語を慎むこと。私語がある場合は授業中に注意する。
・遅刻は 10 分まで許容する。遅刻２回で欠席１回に換算する。

到 達 目 標

・西洋・中国と対比して日本文学の特質を説明できる。
・日本文学の代表的な作品の特徴を説明できる。
・文学作品とその映像化の違いについて説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
日本文学への理解度（40%）	古典・近代の代表的な作家・作品の特徴を十分に説明できる。	古典・近代の代表的な作家・作品の標準的な特質をある程度説明できる。	古典か近代の代表的な作品の特質をある程度説明できる。	古典か近代の代表的な作品の特質をあまり説明できない。	古典か近代の代表的な作品の特質を説明できない。
日本文化への理解度（30%）	日本文化の特質を西洋・中国との比較で具体的に適切に説明できる。	日本文化の特質を西洋・中国との比較である程度説明できる。	日本文化の特質を西洋か中国との比較である程度説明できる。	日本文化の特質を具体的な次元ではあまり説明できない。	日本文化の特質を具体的な次元では説明できない。
作品への鑑賞と批評の能力（30%）	原作のテキストとその舞台化・映像化の差異を具体的に適切に説明できる。	原作のテキストとその舞台化・映像化の差異をある程度適切に説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異をある程度説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異をあまり説明できる。	原作のテキストとその舞台化か映像化の差異を説明できない。

評価方法

・毎時間提出する小レポート：20%
・中間レポート：30%
・期末レポート：50%

テキスト

・教科書名：『〈重ね〉と〈陰陽〉の日本文化――生命の美学』
・著 者 名：柴田勝二
・出版社名：新典社
・出 版 年（ISBN）：2025 年（9784787955203）

歴史学　～国際関係からみるドイツ現代史～	蔦木　文湖

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

国際社会の変化と密接に関わって展開してきた戦後ドイツの歩みと特にその変化に大きな影響を受けてきたベルリンを中心に、戦後のドイツ、ヨーロッパ、国際社会の歴史的変遷を明らかにする講義をする。

特に、ナチの歴史をめぐる問題、ベルリンの壁と人の移動、東西ドイツ統一、ヨーロッパ統合に重点を置き、ドキュメンタリーや映画などの映像資料、毎回授業の最後に提出してもらう小レポートなどで理解を深めるとともに、現代ドイツに対する参加者の関心に応えたテーマ（料理や季節のイベントなど）も随時取り上げた講義をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	歴史を学ぶことの意義（ガイダンス・授業の進め方）
第 2 回	ドイツ帝国の成立からナチ・ドイツの時代まで
第 3 回	過去と現在の結びつき～ドキュメンタリー「ホロコーストを生きのびて」から学ぶ～
第 4 回	テーマ学習～映画の中のドイツ史、ナチ時代の女性たち～
第 5 回	戦後ドイツの歩み①～第二次世界大戦から東西ドイツの分断へ～
第 6 回	戦後ドイツの歩み②～国際社会の対立とベルリンの壁建設～
第 7 回	戦後ドイツの歩み③～外交的方向転換と新しい世代の登場～
第 8 回	戦後ドイツの歩み④～民主化運動からベルリンの壁崩壊へ～
第 9 回	映像で知るベルリンの壁崩壊 ～ドキュメンタリー「ヨーロッパ・ピクニック」から学ぶ～
第 10 回	東西ドイツ統一をめぐる政治的葛藤と心の壁
第 11 回	ドイツ統一がもたらしたもの～映画「グッバイ・レーニン！」から学ぶ～
第 12 回	国際社会の中のドイツ①～移民・難民問題を中心に～
第 13 回	国際社会の中のドイツ②～ヨーロッパ統合の発展と葛藤～
第 14 回	日本とドイツ～過去をめぐる取り組みから学ぶ～
第 15 回	まとめ～学習の振り返りと到達度の確認～

予習・復習

・予習：配付されたプリントを読み、授業の概要を把握して授業のポイントを理解すること

・復習：プリントに書き込んだ内容を復習し、次回の授業につながる要点を整理すること

履修上の注意

授業への質問・簡単なコメントを小レポートとして毎回授業の最後に作成し、提出すること。小レポートのテーマは、講義の内容に即して授業内で毎回発表される。提出されたレポートの中からいくつかを次の講義で紹介し、学生自身の多様な意見をお互いに知るという双方向的な学びを通し、理解を深める。遅刻ややむをえぬ欠席については課題の提出で対応するため、その都度相談することが必須となる。

到 達 目 標

・私たちの住む日本の状況を常に念頭に置き、ドイツやヨーロッパの歴史を現代社会の問題として考察する。
・過去の歴史と現在のわたしたちとの結びつきを理解する。
・複合的・多層的な視点の獲得という歴史を学ぶ姿勢を身につける。
・授業で理解したことから、自身の考えを発展させまとめることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（60%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが多少不足がある。	授業内容を最低限理解している。	授業内容についての理解ができていない。
自身の考えを文章で記述する力（授業内レポート）（30%）	独創的で説得力のある内容を記述することができている。	論理が通った考えを記述することができている。	不足する点があるが、自身の考えを書くことができている。	最低限の自身の考えについて記述ができる。	自身の考えについての記述ができない。
授業を受ける姿勢（10%）	自身の問いを明確に持ち、積極的に授業から答えを得ようとする。	授業を通じて自身の問いを立て取り組む事ができる。	授業から何かを得ようとする姿勢がある。	授業に取り組むが、多少不足がある。	授業の理解に受け身である。

評価方法

学期末試験 60%、授業内レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

特になし。参考文献は適宜授業内で紹介するため、各自が必要に応じ参照すること。

文化論　～映像で学ぶ他者理解のための「文化」論～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1･2	後期	2	選択	教養科目　選択

授 業 概 要

この授業でいう「文化」とは「経営文化」「組織文化」「企業文化」という文脈の「文化」であり、「文化」を価値と規範の体系と定義しています。なんだか難しそうに聞こえそうです。ですが、「あの人と私とでは価値観が違う」とよく言うように、とても身近な話です。

相手がどういう価値・規範で働いているのか、どういう価値・規範で生きているのか。そんなふうに他者を理解する練習を重ねていきます。それは教養を高めることであり、「生涯現役で活躍する」上で必ず役に立つと思います。

具体的には次のようなことを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価についての説明
第 2 回	§1　国による「文化」の違い　その 1 「文化が違う」ということはどういうことなのか、考えてみよう。
第 3 回	§1　国による「文化」の違い　その 2 行動の違いの根底にある、規範の違いを探ってみよう。
第 4 回	§1　国による「文化」の違い　その 3 文化の違いを理解しあうことは、いかにして可能か考えてみよう。
第 5 回	§2　官と民による「文化」の違い 官にはどんな文化があるかを学ぶ。
第 6 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民の文化の違い、違いの要因を学ぶ。
第 7 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれの苦手を理解する。
第 8 回	§2　官と民による「文化」の違い 官と民、それぞれ学び合うべきところを考えてみよう。
第 9 回	これまでの学びの振り返り 授業の意図がつかめていたか、確認してみよう。
第 10 回	§3　「価値」による理解　その 1 自己理解：自分は何を大事にしている人なのかを理解しよう。
第 11 回	§3　「価値」による理解　その 2 企業理解：企業が追求する価値の表明たる経営理念、企業理念との向き合い方を学ぶ。
第 12 回	§4　「文化」による企業理解　その 1 企業が追求する価値の表明たる理念を浸透する方法を学ぶ。
第 13 回	§4　「文化」による企業理解　その 2 追求する価値が言動や企業の性格を規定することを学ぶ。
第 14 回	§4　「文化」による企業理解　その 3 企業の文化を誰がどのように体現しているかを理解しよう。
第 15 回	§4　「文化」による企業理解　その 4 企業の文化を自分なりに理解してみよう。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の 2 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は、遅刻した時間・頻度に応じて成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、次のような状態に到達することを目標とします。
1　あらゆる場で文化の違いに気づき、違う文化の理解に努めることができる。
2　文化という視点で企業を比較し、企業を理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（　50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。配付資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理も学力のうちです。自分で確実に実行してください。

法学　～法をめぐるＨとＪの物語～	長沼　秀明

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

ビジネス実務学科の教養科目として、私たちの生活を支える法律の枠組みをわかりやすく講義します。
ＨとＪという、どこにでもいる、ごく普通の２人の大学生のドラマをとおして、私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論を学びましょう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	一瞬のできごと：何かが起こったときに突如として意識される法律の存在
第 2 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか―**刑法**の基礎―（その１）
第 3 回	なぜ罪を犯すと処罰されなければならないのか―**刑法**の基礎―（その２）
第 4 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その１）
第 5 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その２）
第 6 回	罪を犯したＨの裁判―**刑事訴訟法**の基礎―（その３）
第 7 回	許せない！―事故を起こしたＨの民事責任：**民法** 不法行為法の基礎―
第 8 回	民事裁判手続―**民事訴訟法**の基礎―
第 9 回	病院と旅行会社の責任―**民法** 契約法の基礎―
第 10 回	Ｊと家族の物語―**民法** 家族法の基礎―
第 11 回	さいごの願い―法を決めるのは誰か：**憲法** 統治機構の基礎―（その１）
第 12 回	さいごの願い―法を決めるのは誰か：**憲法** 統治機構の基礎―（その２）
第 13 回	多数者でも侵害することのできない権利―**憲法** 基本的人権の基礎―（その１）
第 14 回	多数者でも侵害することのできない権利―**憲法** 基本的人権の基礎―（その２）
第 15 回	法律学を学ぶということ

予習・復習

・予習：次回の授業で扱われる内容に関する教科書の該当部分に目を通しておくこと。
・復習：授業で扱われた内容に関する教科書の該当部分を熟読すること。

履修上の注意

1）　民法については、ビジネス実務学科の専門科目として「民法」が開講されているので、本科目では基本的な枠組みのみを講義します。また、いわゆる六法のうち商法については、同じく専門科目として「会社法」が開講されているので、本科目では取り扱いません。
2）　受講学生諸君と対話を重ねながら授業を進めます。
3）　遅刻３回＝欠席１回として取り扱います。

到 達 目 標

1）　私たちの生活を支えている法律（刑法、刑事訴訟法、民法、民事訴訟法、憲法）の基礎理論のうち、その基本的な部分を理解することができるようになること。
2）　〈法的な考え方〉を身につけることができるようになること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容を十分に理解している。	授業内容をほぼ理解しているが多少の不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	授業内容について理解ができていない。
理解したことを文章で説明する力（30%）	他人に対し十分に説得し得る内容を記述することができる。	論理が通った説明文を書くことができる。	不足する点があるものの説明文を書くことができる。	最低限の内容についてのみ説明ができる。	内容についての説明ができない。
法的思考力（20%）	〈法的な考え方〉を十分に使いこなすことができる。	〈法的な考え方〉を身につけることができる。	〈法的な考え方〉を身につける努力をしている。	〈法的な考え方〉が足りない。	〈法的な考え方〉を知らない。

評価方法

毎回の授業の成果（51%）および定期試験の得点（49%）により厳正に評価する。

テキスト

・教科書名：『はじめての法律学―Hと Jの物語―』第７版
・著 者 名：松井茂記ほか
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：2025 年（9784641222502）

経済学　～身近な経済事象を理解しよう～

稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

ニュースや新聞に出てくるような経済事象について理解できるようになることを目的とした講義とします。
就活時や就社後に役立つ知識を吸収してください。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	ガイダンス　経済学の内容　：Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの概要を解説
第2回	Ⅰ　身近な経済用語編 株式(1)　株式、株式会社とは何か
第3回	株式(2)　株式の発行（発行市場）ならびに売買（流通市場）について
第4回	債券(1)　債券とは何か。株式、貸付金との違いについて
第5回	債券(2)　債券の評価とくに割引現在価値について
第6回	為替(1)　為替とは、円高・円安とは何かについて
第7回	為替(2)　為替換算と輸出、輸入について
第8回	小括
第9回	Ⅱ　ミクロ経済学編 需要と供給(1)　①需要曲線と供給曲線、②消費者余剰、生産者余剰、社会的余剰について
第10回	需要と供給(2)　需要の価格弾力性について
第11回	損益分岐点(1)　理論（経済学）上の損益分岐点について
第12回	損益分岐点(2)　実際（会計学）上の損益分岐点について
第13回	Ⅲ　マクロ経済学編 国民総生産　　国民総生産とは何か。その算出方法について
第14回	物価　　物価および物価指数とは何か。指数算出方式について
第15回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

・遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到達目標

1.　身近な経済事象を経済学の視点から理解する。
2.　上記 1 の理解をもとにして、経済といわれるもの以外の諸々の現象についても考えてみようとする力を付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準 期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
基礎力 （40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力 （30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢 （30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

配付資料

自然科学　～自然の「循環」と私たちの暮らし～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

自然が大切だと思う心を養うには、自然へ「興味を持つ」こと、そして「理解する」ことが必要です。本講義では、現代の社会情勢を把握しやすい自然環境の保全について共感し理解を深めるだけでなく、同時に社会情勢を把握題材を中心に扱うことで，学際的な講義を行います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	生物の分類（「種」とは何か？） 同種であれば繁殖可能，種が違えば繁殖はできないのだが…
第 3 回	森林機能と緑のダム１ 天然の森林と人工の森林の比較を通じて「水」が生み出される謎を探る
第 4 回	森林機能と緑のダム２ 白神のブナ林を破壊する開発計画「清秋林道」と，世界遺産「白神山地」の魅力と問題点
第 5 回	自然も人間社会も破壊するダム１ ダム建設を拒否するムラ「徳島県木頭村」の歴史と現在
第 6 回	自然も人間社会も破壊するダム２ ダムは洪水防止にはならず反対に洪水を増やすという事実
第 7 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる１ 諫早湾にすむ生き物たちと水質浄化の関係
第 8 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる２ 「諫早干拓事業」を通して考える現代の環境破壊型農林水産業
第 9 回	干潟の埋め立てが漁業と農業を衰退させる３ 「諫早干拓事業」をめぐる裁判からみえる日本の歪んだ公共事業の構図
第 10 回	サンゴと沖縄の暮らし１ 沖縄観光ガイドとサンゴの再生事業の闇
第 11 回	サンゴと沖縄の暮らし２ 海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ
第 12 回	サンゴと沖縄の暮らし３ 新たに建設される米軍基地に反対して辺野古に座り込む基地反対運動の歴史と今
第 13 回	サンゴと沖縄の暮らし４ 不条理な日米地位協定が沖縄の自治と文化・伝統を破壊する
第 14 回	山と海をつなぐ川２ 「山は海の恋人」の理由とサケ・マス類の研究から導き出される山と海とのつながり
第 15 回	文明の崩壊と自然破壊 ラパ・ヌイにおける古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることがあります。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

受講にあたっては、以下の規律を遵守してください。なお、公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上経過した際の入室は認めません。授業中のスマートフォン使用についても、許可しない限り一切禁止します。本講義では、これまでの常識を覆す事実を提示しますので、柔軟な視点と意欲を持って講義に臨まれることを期待しています。

到 達 目 標

「環境問題」に対して深い関心を持ち、それが遠い世界の出来事ではなく、自分自身の日常生活や現代社会と非常に密接につながっていることを体系的に理解できるようになること。講義を通じて提示される様々な事実やデータに基づき、環境を取り巻く現状を客観的な視点から把握し、多角的な分析を行う能力を養うことを目指します。最終的には、自身が置かれている環境や社会の構造を深く認識し、一市民として責任ある行動を選択・実践できるようになることが本講義の大きな目標です。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自ら進んで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

・教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30 の物語』
・著者名：小島望
・出版社名：農山漁村文化協会出版
・出版年：2010 年

環境論　～人と自然とのつながりを考える～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	教養科目　選択

授業概要

講義の前半では、自然科学および社会科学的な視点から、ヒトを含めた多様な生物のつながりとそれらを支える環境の全体像である「生物多様性」の本質について考察します。後半では、動物園の動物や身近なペットを題材に取り上げ、「生命のつながり」に関わる法的・倫理的な諸問題を扱います。

本講義で扱うすべてのテーマは、以下の4つの視座から分析・検証を行えるよう構成されています。①物事を多角的な視点から捉える、②事象を批判的に考察する眼を持つ、③常に弱者への配慮を忘れない、④科学が持つ限界を正しく認識する，これらの視点に基づいた問題設定を通じて、現代社会における環境のあり方を深く探求していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	野生動物への餌づけ 野生動物へ餌をあげることによる影響
第 3 回	野生動物の交通事故 野生動物の交通事故の原因と対策
第 4 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1 レッドリスト、レッドデータブックとは何か
第 5 回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2 生物の絶滅原因
第 6 回	動物園の役割と今後1 動物園は必要？動物園の実態とは？
第 7 回	動物園の役割と今後2 動物園を評価するための準備と予備知識
第 8 回	動物園の役割と今後3 動物園評価の方法とその意味
第 9 回	動物園の役割と今後4 動物園評価の発表
第10回	動物園の役割と今後5 動物園の将来像
第11回	ペットと私たちの生活1 身近なペット、イヌ・ネコ
第12回	ペットと私たちの生活2 外来生物が引き起こす問題、輸入規制対象となる飼育動物
第13回	ペットと私たちの生活3 飼育動物に関する法律
第14回	ペットと私たちの生活4 ペット産業の実態
第15回	ペットと私たちの生活5 イヌ・ネコの命を救う活動

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をします。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

本講義を履修した後は、環境問題への理解をより一層深めることができる「自然科学」や「環境論」をあわせて受講することを強くお勧めします。もちろん、それらの科目を先に修得している場合や、並行して履修している状態であっても全く問題ありません。各科目の繋がりを意識することで、より多角的な視点が得られるはずです。

なお、公共交通機関の遅延を除き、授業開始から 20 分以上経過した際の入室は認めません。講義の円滑な進行を妨げるため、時間厳守を徹底してください。また、授業中のスマートフォン使用についても、教員が許可した場合を除き一切禁止いたします。学修に集中できる環境づくりに協力してください。

到 達 目 標

「環境問題」という複雑な課題に対し、単なる個人の価値観や感情のみで判断するのではなく、科学的・倫理的・社会的な背景から多角的に検証できる「多面的視点」を養います。アニメ作品に描かれる象徴的な事象を分析することで、既存の枠組みにとらわれず物事を批判的に捉える眼を養い、自分とは異なる立場や弱者の視点、さらには科学が抱える限界をも考慮した深い洞察力の習得を目指します。本講義を通じて、フィクションの中の問いを現実の環境問題へと再構築し、論理的根拠に基づいた客観的な分析と判断ができるようになることを最終的な目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テキスト 30%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

英語　～*Business Talk* やさしいオフィス英語～	近藤 真理

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

『*Business Talk* やさしいオフィス英語』という教科書を使い、大学生が商社に履歴書を送り、面接を受けるまでの成長の過程において、ビジネスに必要な英語の語彙と表現を学び、受講生が就職活動をするとき、さらには入社してから必須となる英語の知識を身につけられるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第1回	オリエンテーション　自己紹介　教科書の説明など
第2回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第3回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第4回	Unit 1: 英語で履歴書を書いてみよう（3）確認と復習
第5回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第6回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第7回	Unit 2: 英語で応募書類を書いてみよう（3）確認と復習
第8回	これまでのまとめと復習
第9回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第10回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（2）オーラルプラクティス・ライティング
第11回	Unit 3: 英語での面接に備えよう（3）確認と復習
第12回	Unit 4: 英語で面接を受ける（1）ボキャブラリービルディング・リスニング
第13回	Unit 4: 英語で面接を受ける（2）オーラルプラクティス・ライティング
第14回	Unit 4: 英語で面接を受ける（3）確認と復習
第15回	レポート提出　これまでのまとめと復習

予習・復習

・予習：次の回に学ぶテキストの箇所を読んで、知らない語彙、表現を必ず辞書で調べておくこと。
・復習：授業後には、授業中にとったノートとテキストを使い、読み、書き、繰り返し発音して復習すること。

履修上の注意

授業には必ず英和辞典（電子辞書も可）を持参し、授業に積極的に参加すること。授業後には、授業中にとったノートとテキストを繰り返し書き、読み、繰り返し音声を聴き、発音して復習してくる（音声データは出版社のサイトからダウンロードできる）。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

到達目標

・英語の基本的な日常会話能力を習得することができる。
・英語圏における常識や教養を習得することができる。
・英語による履歴書やメールなどの文章表現力を身につけることができる。
・総合的な英語力を身につけることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
英語の基本的な日常会話能力（50%）	相手の言うことが理解でき、十分な会話の発信もできる。	十分ではないが、相手の会話が理解でき、意思疎通が可能である。	聞き取り能力はあるが、発信能力が不足している。	英語力に関する基本的な学力がやや不足し、努力を要する。	英語の基礎力からの再養成が必要である。
英語圏の異文化における常識や教養（20%）	異文化理解に必要な知識を十分にできている。	英語圏の異文化理解のための教養をおおむね修得している。	異文化理解のための文化的基礎力がやや不足している。	異文化理解に、基本的な教養が不足し、努力を要する。	基本的な教養、社会的通念の再要請が必要である。
英語による履歴書やメールなどの文章表現力（30%）	英語で業務に必要な文章を独力で十分に作成できる。	メールなどの一般的な英語の文章は作成できる。	ファーマルな英語を作成するのにやや努力を要する。	英語による日常的な文章作成に基本的能力がやや不足し、努力を要する。	英語による日常的な文章作成ができない。

評価方法

レポート 60%　受講態度 40%　授業参加点も含めます。

テキスト

・教科書名：『*Business Talk* やさしいオフィス英語』
・著 者 名：城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer
・出版社名：成美堂
・出 版 年（ISBN）：1997 年（978-4-7919-4711-9）

英会話　～海外出張、旅行の英会話～

蒔田　裕美

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

主に海外出張や旅行先の様々な場面で使用する英語表現を学ぶが、習得するフレーズは旅先に限らず、日常生活や、日本に来た外国人を観光案内する際にも大いに役立つ。本科目では、日常生活の基本的な英語表現を学び、実際に運用できるよう指導する。アクティビティやロールプレイを通して会話練習を行い、自信を持って英語でコミュニケーションがとれることを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	Unit 1: Preparing for the Trip
第 2 回	Unit 2: On the Airplane
第 3 回	Unit 3: Arrival and Passport Control
第 4 回	Unit 4: Banking and Leaving the Airport
第 5 回	Unit 5: Checking Into the Hotel
第 6 回	Unit 6: Hotel Facilities
第 7 回	Unit 7: Let's Eat!
第 8 回	Unit 8: Sightseeing
第 9 回	Unit 9: Making Small Talk
第 10 回	Unit 10: Shopping
第 11 回	Unit 11: Feeling Sick Getting Around
第 12 回	Unit 12: Getting Around
第 13 回	Unit 13: Checking Out of the Hotel
第 14 回	Unit 14: Heading Home
第 15 回	Presentation

予習・復習

・予習：テキストの単語の意味を調べ、問題をあらかじめ解いて分からない箇所を明確にしておく。

・復習：授業で学んだ英単語の発音練習をして、表現を自分のものにできるよう覚える。

履修上の注意

遅刻２回で欠席１回とみなす。授業開始から大幅に時間が過ぎても、参加の意欲があれば欠席扱いにしないので遅刻してもあきらめないで授業に参加すること。

到 達 目 標

・海外の様々な場面で自信を持って適切に話せるようになる。
・相手に伝わる発音や英語のイントネーションが身につく。
・海外でのマナや一慣習について理解できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（50%）	授業内容を超えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
表現力（50%）	場面に応じた多様な英語表現を用い、正しい発音で自分の意見を表明することができる。	相手に伝わる発音と適切な英単語で自分の意見を表現できる。	英語で最低限の意思疎通をすることができる。	英単語の並べ方や発音に改善が必要である。	英語を聞き取り、発音することができない。

評価方法

授業内確認テスト 50%、発表 50%

テキスト

・教科書名：『Simply Traveling Communication Anytime, Anywhere!』
・著 者 名： Diane H. Nagatomo、村瀬文子
・出版社名：金星堂
・出 版 年（ISBN）：2016 年（*978-4-7647-4020-4*）

中国語　～入門授業～

王　冰

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	1	選択	外国語　選択

授 業 概 要

本授業は中国語を初めて学ぶ学生を対象とした入門のものであり、まず中国語の標準語「普通話」の発音を勉強し、その後基礎的な文法項目、中国語の簡単な挨拶言葉や会話を体系的に学習する。

1　音節、声調、ピンイン（中国語独自の発音ローマ字表記）について説明し、母音、子音の発音を指導する
2　発音の練習を兼ねて、あいさつなどの中国語の基本表現を学ぶ
3　基本文型によって基本的な文法事項を学ぶ
4　練習問題や基本文型の応用練習などによって、基本文型を確実に身につけ、表現力を高める

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　中国と中国語について
第 2 回	発音１　中国語の音節、発音声調、軽声との組み合わせ及び声調符号の付け方
第 3 回	発音２　中国語の母音　単母音、複母音、鼻母音
第 4 回	発音３　中国語の子音　無気音と有気音　そり舌音
第 5 回	発音４　変調　（第三声の変調、“不”の変調、　“一”の変調、）とｒ化音
第 6 回	発音の総復習　発音総合トレーニング
第 7 回	第１課　你叫什么名字？（一）　単語・会話文・文法ポイント
第 8 回	第１課　你叫什么名字？（二）　応用練習・練習問題
第 9 回	第２課 你的爱好是什么？（一）　単語・会話文・文法ポイント
第 10 回	第２課你的爱好是什么？（二）　応用練習・練習問題
第 11 回	第３課 你家有几口人？　（一）　単語・会話文・文法ポイント
第 12 回	第３課你家有几口人？　（二）　応用練習・練習問題
第 13 回	第４課　現在几点？（一）　単語・会話文・文法ポイント
第 14 回	第４課　現在几点？（二）　応用練習・練習問題
第 15 回	総復習と「自己紹介」の発表会

予 習 ・ 復 習

履修者は積極的かつ主体的な予習・復習が求められる。予習・復習への取り組み方全般については、学期始めに担当教員から説明があるほか、各回の授業で求められる具体的内容については、学期中随時教員から指示がある。

・予習：教科書本文の音読および語彙確認（約 30 分）を求める
・復習：宿題の取り組み、文型練習および音読練習（約 30～60 分）を求める

履修上の注意

・履修希望者が 50 名以上の場合は、抽選を行うので第 1 回目の授業に必ず出席すること。
・30 分以上の遅刻３回は１回欠席とみなします。無断欠席 6 回以上で単位放棄とみなします。授業最終回には必ず参加すること。

到 達 目 標

本授業の到達目標は、発音が上手になり、初級学習の重要な文法や語彙及び本文会話をマスターすることである。
1 中国語の発音をマスターできる。(ピンインを正しく読み、書けるようになり、四つの声調を正確に発音できるようになる)。
2 初級中国語レベルの基本的な文法ポイントや簡単な自己紹介など会話表現ができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発音（30 %）	ピンイン・声調をほぼ正確に発音できる	発音は概ね正確（多少の声調誤りはある）	発音に不安定さがある	ピンイン・声調の定着が不十分	発音体系がほぼ未習得
文法理解（25 %）	基本文型を正確に運用できる	基本文型を理解し、指示があれば正しく使える	文型理解はあるが、運用時に誤りが多い	基本文型の理解が不安定	基本文型の理解が著しく不足
会話応用（25 %）	自己紹介や基本的日常会話をほぼ自立して行える;応用表現や語彙を自発的に拡張している	簡単な自己紹介や質問応答ができる	会話はできるが、支援が必要	簡単な自己紹介でも支援が必要	ほぼ何も話せない
学習態度（20 %）	予習復習が安定しており、小テストも安定して高得点	小テストの成績が安定し、課題の提出に問題がない	予習復習や課題の提出が不安定である	小テストの成績が低水準、予習復習が不十分	欠席が多い、予習復習と宿題の取り組みはほぼない

評価方法

授業参加度 30%（授業への取り組み・小テスト・課題提出・発表・予習復習等を含む平常点），必修課題への取り組み 10%，学期末筆記試験 60%を目安に評価する（詳しくは 担当教員が指示する）

テキスト

・教科書名：『好朋友 はじめての中国語』
・著 者 名：郭明輝
・出版社名：朝日出版社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（978-4-255-45356-9）

韓国語　～韓国語が読める・使える～

李　芝善

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	1	選択	外国語科目　選択

授業概要

言葉は文化の一部であり、他者の文化を理解するための入り口でもある。そのため、自他理解の出発点とも言える外国語の必要性は益々高まる一方である。外国語の中でも韓国語は、日本語と語順が似ている点で学びやすく短期間でも文字が読めるとても魅力的な言語である。この講義では、韓国語・韓国文化学習を通じて国際異文化理解を深めることを主たる目的とし、韓国語の基礎的なコミュニケーションに必要なハングル文字の読み書きはもちろん、簡単な読解と日常会話・観光ビジネス会話ができることを目指す。授業の７回目までは、発音の練習と読み書き単純な会話が中心で、正確な発音を身につけてもらい同時に聞く、書く、読む力をつけて行く。

基本の読み書きが終わったら毎回、基礎文法事項を活用し言語活動を行う。言語活動時には、異文化体験やリスニングのためにドラマや映画、音楽など韓国文化にも触れながら学習者が緊張せず、自由に話せるように指導する。さらに卒業後、韓国係会社の就職を考える学生のためにも韓国語能力試験（TOPIK）２～３級を目指したいと考えている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス及び韓国の文字（ハングル）と音韻体系
第 2 回	あいさつと韓国語の基本母音　◇「自己紹介」＊発表
第 3 回	ハングルの子音①「平音」　◇演習・文化体験（映像）
第 4 回	ハングルの子音②「平音」と「複合母音‘에（エ)’」 ◇演習・文化体験（映像）
第 5 回	ハングルの子音③「激音」子音④「硬音（濃音)」 ◇演習・文化体験（映像）
第 6 回	ハングルの複合母音　◇演習・文化体験（映像）
第 7 回	パッチムと発音の変化・読み書き練習・音楽　◇演習・文化体験（映像）
第 8 回	天気の表現―助詞「～は・～が」、肯定文・疑問文「～です・～ですか」◇会話演習
第 9 回	趣味を言う―指示代名詞「これ・それ・あれ」、助詞「～も」、疑問詞「何」 ◇会話演習
第 10 回	場所や存在の有無を説明する―「～にある・いる」「～にない」、位置名詞、 疑問詞「どこ」、助詞「～と」＊発表
第 11 回	好みを聞く「好きな料理について」否定形「～ない」◇会話演習
第 12 回	道案内「行きたい場所を聞く」願望の表現「～たい」◇会話演習
第 13 回	電車の乗り換え「動詞・形容詞の丁寧語及び過去形」◇会話演習
第 14 回	歴史・映画①『7 番房の贈り物』前半「1950 年以降の韓国社会を中心に」
第 15 回	歴史・映画②『7 番房の贈り物』後半「冤罪が生まれるシステムを考える」・まとめ
第 16 回	試験（筆記―持ち込み不可）

予習・復習

・予習：毎回、提示されるテキストを読んでくること。
・復習：小テストのために毎回提示される課題をやってくること。

履修上の注意

1. 外国語の授業なので、ペアで行う言語演習活動など授業への積極的な参加が求められる。
2. 30 分以内の遅刻でも授業への積極さを考慮し、出席とする。

到 達 目 標

1. ハングルの発音表記をマスターして、正確な発音と読み書きができる。
2. 基礎的な文法事項を応用して、韓国語で簡単なコミュニケーションができる。
3. 韓国語での多様な会話演習活動を通じてグローバルビジネスに必要な言語力を高める。
4. 韓国文化・韓国社会についての知識及び異文化理解を深める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
読み書き （ 40%）	ハングル文字が正確に読み書きでき、文章の構造も理解できる。	ハングル文字が正確に読み書きできる。	正確ではないが、ハングル文字が大体読み書きできる。	最低限のハングル文字しか読み書きできない。	指導しないとハングル文字が読み書きできない。
リスニング （ 20%）	会話の主旨や基本的な文脈、難しい語彙も理解できる。	会話の基本的な文脈や簡単な語彙が理解できる。	会話の簡単な語彙やよく使用される句が理解できる。	会話の簡単な語彙しか理解できない。	会話の極限られた語彙しか理解できない。
表現力 （ 40%）	語彙や文型、文法を正確に使え、さらに応用できる。	語彙や文型、文法を正確に使える。	語彙や文型、文法の使いに多少の間違いがある。	最低限の語彙や文型、文法しか使えない。	指導しないと単語や文型、文法を正確に使えない。

評価方法

平常点（50%―毎回の言語演習参加度 20%・簡単な小テスト 10%・課題 10%・発表 1 回 10%）、試験（50%）

テキスト

テキストのページ数と授業回数を考慮したところ、テキストの全てを活用することができないため、
テキストは使用せず、プリント教材を配付する。

経営学　～経営学で事象を見る・考える～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ビジネス実務学科には経営学関連科目がいろいろとありますが、その入門的な科目がこの「経営学」です。

同じ事象を目の前にしても、学んできた専門分野によって、つい気になって見てしまうところも、考えることも違うものですが、経営学はどこに着目し、何を研究してきたのでしょうか（事象のどこを見て何を考えてきたのか）。

この授業で経営学で事象を見る・考える練習をしてみましょう。ビジネス実務学科は「生涯現役で活躍できる」人材の育成を目指しています。生涯現役で活躍できるよう、自分で考え、学び、成長し続ける素地をつくっておきましょう。具体的には次のようなことを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 授業のねらい、授業の受け方、予習・復習のしかた、評価について説明する。
第 2 回	今までの学びとこれからの学び：「経営学」を例に大学での学び方を学ぶ
第 3 回	経営学を学ぶ意義：経営学で学んだことを、こう生かしてほしい
第 4 回	経営者とは：「経営者」の定義、経営者に必要な資質を学ぶ
第 5 回	経営理念その１：経営理念の必要性を理解する
第 6 回	経営理念その２：経営理念に必要なものを考える
第 7 回	経営戦略その１：経営戦略はどのように生まれるのか
第 8 回	経営戦略その２：経営戦略の次元を学ぶ
第 9 回	経営学の必要性：経営学はなぜ、どのように生まれたのか
第 10 回	組織と人の管理その１：コンフリクトマネジメントを学ぶ
第 11 回	組織と人の管理その２：経営組織論を学ぶ
第 12 回	確認：「経営学」を学び始める前と現在とでどんな学習成果があったかを確認する
第 13 回	マネジメントとは何か
第 14 回	企業は何のために：経営目的と社会目的
第 15 回	まとめとふりかえり

予習・復習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の２点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを１分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は、遅刻した時間・頻度に応じて成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃に、次のような状態に到達することを目標とします。
・常ではなく時々で良いので、世の中の事象を経営学的な視点で見ることができるようになる。
・授業で学んだことを生かして世の中の事象について自分の考えを述べることができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。配付資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理も学力のうちです。自分で確実に実行してください。

キャリアデザインⅠ　～社会が求める力の習得～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

社会人意識の養成と、自己評価を高める講義である。キャリアコンサルティング技能士として、学生および一般求職者を対象に、就職支援・キャリア相談に従事してきた実務経験をもとに、社会人を意識したトレーニングをし、学生から社会人になる心の準備を行うと同時に、他者との関わりを通じて自己評価を高めることができるようグループワークを用い指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業のねらい、意図を伝え、受講にあたり心構えを共有する
第 2 回	社会が求める力　社会で求められている力は何なのか検討し、学生と社会人の違いを学ぶ
第 3 回	コミュニケーション力基礎　コミュニケーションの基本スキル学ぶ
第 4 回	コミュニケーション力実践　基本スキルを活用しながら、グループでのワークを通じて、コミュニケーション力をブラッシュアップしコミュニケーションの楽しさを実感する
第 5 回	＜ゲスト回＞インターンシップについて　インターンシップとは何かを学び、インターンシップイベントの利用方法やナビサイトを使ったインターンシップ先検索方法を習得する
第 6 回	ビジネスコミュニケーション　ビジネスでのコミュニケーションの基本ついて学ぶ
第 7 回	自己理解を深める１　これまでの人生を振り返り、経験の意味を考える
第 8 回	自己理解を深める２　強みについて理解する（解説とワーク）
第 9 回	自己理解を深める３　これまでの体験を振り返る（解説とペアワーク）
第 10 回	学内企業説明会　学内企業説明会の活用や企業研究の方法を学ぶ
第 11 回	適職とは何か　適職について考える。ワークを通じ、固定概念を覆し、自分の可能性を広げる
第 12 回	キャリアアンカー　働く上で大切にしたいことは何かワークを用いて考える
第 13 回	人生を考える　どの様な人生を歩みたいかについてワークを通じて考える
第 14 回	インターンシップマナー　言葉遣いや気をつけることを学ぶ
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・授業を通じて社会人として働く意識を持てるようになる
・他者との関わりを通じて自己理解を深め、自分を肯定できるようになり自信をつくることができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）20%
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）20%
定期試験 60%

テキスト

必要に応じてプリントを配付

キャリアデザインⅡ　～就職活動に向けて準備をしよう～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

キャリアコンサルティング技能士として、学生および一般求職者を対象に、就職支援・キャリア相談に従事してきた実務経験をもとに、就職活動について理解し就職活動を行えるようにグループワークを用い実践的に指導する。就職活動のノウハウを扱うが、基本は、「社会人意識の養成」である。社会人としての文章の書き方、社会人としての話し方等、「社会人として」という視点を意識し、「社会人力を身に付けることで自ずと内定がついてくる」という共通理解のもと運営するため、就職活動だけではなく、就職後も役に立つカリキュラムである。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　インターンシップの振り返り　就活手帳の配付
第 2 回	＜ゲスト回＞業界職種企業研究　インターンシップイベントの案内　業界・企業・職種についての理解を深める
第 3 回	面接対策基礎　面接の流れ、基本質問とその主旨、ポイントを解説する
第 4 回	グループディスカッション基礎　グループディスカッションとは何かを学ぶ
第 5 回	グループディスカッション実践　実際にグループディスカッションを体験する
第 6 回	＜ゲスト回＞社会で働くとは①　（企業の採用担当者の講演）
第 7 回	社会で働くとは②　第 6 回の話をもとに社会で働くとはどういうことなのかグループでディスカッション
第 8 回	社会で働くとは③　社会で働くとはどういうことなのかグループで発表準備をする
第 9 回	社会で働くとは④　社会で働くとはどういうことなのかをグループ発表する
第 10 回	自己 PR の作成　書き方の原則、自分の個性を文字に起こすポイントを学ぶ
第 11 回	学生時代力を注いだ事の作成　書き方の原則、自分の個性を文字に起こすポイントを学ぶ
第 12 回	履歴書の作成　履歴書様式を使い、実際に記入していきます。一度作成してみる事で、今自分に足りていないものが何か？認識できる
第 13 回	キャリアビジョン　今後の人生を考え、今何をすべきか考える
第 14 回	＜ゲスト回＞志望動機の書き方・インターンシップイベントの案内
第 15 回	ビジネスマナー　社会人としての言葉遣いや意識したいマナーを学ぶ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・授業を通じて社会人として働く意識を持てるようになる
・自己理解・職業理解をし、自分の強みを活かして働くイメージができる
・他者との関わりを通じて、自信を持って就職活動に取り組むことができる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）30%
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）20%
定期テスト 50%

テキスト

必要に応じてプリントを配付する

簿記Ⅰ　～簿記の入門知識を学ぶ～	稲場 建吾、劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

簿記とは、企業の経営活動を記録・計算・整理して、企業の経営成績と財政状態をあきらかにする記帳技術です。簿記Ⅰにおいては、この簿記の入門的な知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	簿記の基礎概念(1)
第 2 回	簿記の基礎概念(2)
第 3 回	簿記上の取引概念(1)
第 4 回	簿記上の取引概念(2)
第 5 回	勘定と仕訳(1)
第 6 回	勘定と仕訳(2)
第 7 回	帳簿の記入(1)
第 8 回	帳簿の記入(2)
第 9 回	決算と財務諸表(1)、とくに試算表(1)について
第 10 回	決算と財務諸表(2)、とくに試算表(2)について
第 11 回	決算と財務諸表(3)、とくに財務諸表(1)について
第 12 回	決算と財務諸表(4)、とくに財務諸表(2)について
第 13 回	現金と預金(1)
第 14 回	現金と預金(2)
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
・復習：授業中に解いた問題

履修上の注意

1. 1年前期に簿記Ⅰと簿記Ⅱは同時に履修してください。この2科目で学習の想定範囲が完結するように構成されているためです。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①簿記の基礎概念が理解できる。②簿記上の取引が理解できる。③基本的な仕訳ができる。④転記ができる。

本講受講後に、全経簿記・基礎簿記会計には合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　3級商業簿記』
・著 者 名：渡部裕亘・片山　覚・北村敬子編著
・出版社名：中央経済社
・出 版 年（ISBN）：2026年(　　後日　　)

簿記Ⅱ　～簿記の基本知識を学ぶ～	稲場 建吾、劉　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

簿記Ⅰでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅱでは、引き続き、商業の小企業で必要とされる簿記上の基礎的な知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	商品売買(1)
第 2 回	商品売買(2)
第 3 回	売掛金と買掛金(1)
第 4 回	売掛金と買掛金(2)
第 5 回	その他の債権債務(1)
第 6 回	その他の債権債務(2)
第 7 回	手形(1)
第 8 回	手形(2)
第 9 回	固定資産(1)
第 10 回	固定資産(2)
第 11 回	収益と費用
第 12 回	合計残高試算表
第 13 回	精算表と財務諸表
第 14 回	伝票会計
第 15 回	重要論点の復習

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。
・復習：授業中に解いた問題

履修上の注意

1. 1年前期に簿記Ⅰと簿記Ⅱは同時に履修してください。この2科目で学習の想定範囲が完結するように構成されているためです。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

簿記Ⅰの目標は、①簿記の基礎概念が理解できる、②簿記上の取引が理解できる、③基本的な仕訳ができる、④転記ができる、でしたが、それを前提に、簿記Ⅱの目標は、⑤補助簿の作成ができる、⑥基本的な決算手続きができる、となります。

本講受講後に、全経簿記3級はもちろんですが、日商簿記3級に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　3級商業簿記』
　簿記Ⅰに同じ

情報処理Ⅰ　～パソコンの基本操作方法を学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ビジネス実務で必要なパソコンの知識と技能を習得するために、パソコンの使用方法とパソコン利用の基礎となるアプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel）の操作方法を、ハンズオン（体験型学習）形式で指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方と成績の評価方法についての説明／Microsoft（Office）365 の基本設定
第 2 回	パソコンの基本操作 ① Microsoft Teams の基本設定／パソコンを学ぶことの意義とパソコンの基礎の理解
第 3 回	パソコンの基本操作 ② Microsoft Word ファイルの作成（アプリの起動）／簡単な文字入力
第 4 回	パソコンの基本操作 ③ 簡単な文書作成とタイピング練習
第 5 回	インターネット検索 Web ブラウザと検索エンジンの理解／インターネット検索による情報収集
第 6 回	電子メールの設定と使用 ① ドメインの理解／Outlook の操作方法／電子メールの送受信／添付ファイルの送受信
第 7 回	電子メールの設定と使用 ② 電子メールの署名の設定／電子メールの書き方とマナー（件名・宛名・本文・署名）
第 8 回	Web 会議システム（Zoom）の基本操作 サインアップ／ダウンロード／サインイン／基本機能の理解／会議への参加など
第 9 回	Microsoft Word を使った文書作成 ① イラストを使ったチラシの作成（図形の組み合わせによるイラストの作成など）
第 10 回	Microsoft Word を使った文書作成 ② アンケート用紙の作成（文字・文章の編集やレイアウトなどの詳細設定など）
第 11 回	Microsoft Word を使った文章作成 ③ 施設利用申込書の作成（表の作成や行間・列幅の設定／塗りつぶしの装飾など）
第 12 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ① Excel の画面構成と機能の理解／表の作成と装飾（基礎）／表計算（基礎）
第 13 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ② Excel の画面構成と機能の理解（復習）／表の作成と装飾（応用）／表計算（応用）
第 14 回	Microsoft Excel を使った表作成と表計算 ③ グラフの種類と用途の理解／グラフの作成（縦棒・積み上げ縦棒・集合縦棒グラフ）
第 15 回	前期 定期試験対策（模擬試験）

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること（授業内で課題の指示あり）。
※タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. パソコンの基本機能と操作方法を理解する。
2. キーボードの文字入力・タイピングを習得する。
3. アプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel）の基本機能を理解するとともに、基礎的な操作方法を習得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
パソコンの基本操作（20%）	講義で取り上げていないパソコンの機能を応用することができる。	講義で取り上げたパソコンの機能を活用することができる。	パソコンの機能をある程度活用することができる。	パソコンの機能を活用することは不十分だが、アプリケーションソフトをある程度操作することができる。	アプリケーションソフトの操作が不十分である。
Microsoft Word の基本操作（30%）	講義で取り上げていない Word の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Word の機能を活用することができる。	Word の機能をある程度活用することができる。	Word の機能を活用することは不十分だが、Word で文章を入力することができる。	Word では不完全な文章しか入力できない。
Microsoft Excel の基本操作（50%）	講義で取り上げていない Excel の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Excel の機能を活用することができる。	Excel の機能をある程度活用することができる。	Excel の表計算は不十分であるが、Excel で表を作成することができる。	Excel では不完全な表しか作成できない。

評価方法

前期定期試験 40%、提出課題（合計 10 種類を予定）40%、受講態度 20%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「情報処理Ⅰ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

情報処理Ⅱ

～ビジネス実務におけるパソコンの実践的活用方法を学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ビジネス実務に必要なアプリケーションソフト（Microsoft Word／Microsoft Excel／Microsoft PowerPoint）の実践的活用方法を習得するために、就職活動や就職後に役立つ資料作成の技能をハンズオン（体験型学習）形式で指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や情報処理Ⅱの最終ゴール、成績の評価方法などについての説明など
第 2 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ① Word を使ったポスターの作成（イベントの告知）
第 3 回	Microsoft Word の実践的活用方法 ② Word を使ったレポートの作成（論文・レポートの書き方）
第 4 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ① Microsoft Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 1（日本の財政規模）
第 5 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ② Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 2（年収ランキング）
第 6 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ③ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 3（平均年収の推移）
第 7 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ④ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 4（生産性・経済成長）
第 8 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑤ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 5（データの代表値）
第 9 回	Microsoft Excel の実践的活用方法 ⑥ Excel を使った表計算とグラフの作成／データの解釈方法 6（相関係数の計算）
第 10 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ① 効果的なプレゼンテーション資料の作成 1（イベント案内資料の作成）
第 11 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ② 効果的なプレゼンテーション資料の作成 2（スライドデザインの活用）
第 12 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ③ 効果的なプレゼンテーション資料の作成 3（オリジナルテンプレートの作成）
第 13 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ④ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 1
第 14 回	Microsoft PowerPoint の実践的活用方法 ⑤ 自己 PR プレゼンテーション資料の作成 2
第 15 回	後期 定期試験対策（模擬試験）

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマを必ず事前に確認すること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：講義で学習した内容を必ずその日のうちに復習すること（授業内で課題の指示あり）。
※テキスト・データ入力が苦手だと感じている履修生は、情報処理Ⅰに引き続き、タイピングの練習を毎日必ず 30 分以上行なうこと。

履修上の注意

1. 事前に充電を完了させたノートパソコンを毎回必ず持参すること。
2. 受講者の理解度や課題の作業進捗などに応じて、授業内容を変更することがある(業界・企業のデータ分析／生成 AI のインプット・アウトプットの追加講義を予定)。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 文字の装飾や図形・画像の挿入、レイアウトのデザインなど、Microsoft Word の応用機能を習得する。
2. グラフの種類と用途を使い分けることができる（Microsoft Excel)。
3. スライド資料のストーリー作成と図・文字・色・レイアウトなどの装飾を表現することができる(Microsoft PowerPoint)。
4. 自己 PR プレゼンテーション資料を作成することができる（Microsoft PowerPoint)。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
Microsoft Word の機能の習得（20%）	講義で取り上げていない Word の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Word の高度な機能を活用することができる。	Word の高度な機能をある程度活用することができる。	Word の高度な機能を活用することは不十分だが、Word で文書・資料を作成することができる。	Word では不完全な文書・資料しか作成できない。
グラフの種類と用途の使い分け; Microsoft Excel（30%）	講義で取り上げていない Excel の機能を応用することができる。	講義で取り上げた Excel の高度な機能を活用することができる。	Excel の高度な機能をある程度活用することができる。	Excel の表計算は不十分であるが、Excel で表を作成することができる。	Excel では不完全な表しか作成できない。
スライド資料のストーリー作成と装飾の表現; Microsoft PowerPoint（20%）	講義で取り上げていない PowerPoint の機能を応用することができる。	講義で取り上げた PowerPoint の機能を活用することができる。	PowerPoint の機能をある程度活用することができる。	PowerPoint の操作は不十分であるが、スライド資料をある程度作成することができる。	PowerPoint では不完全な資料しか作成できない。
自己 PR プレゼンテーション資料の作成（30%）	自分の考えに反論する人も納得させることができる。	自分の考えを論理的に説明することができる。	自分の考えを他人に伝えることができる。	論理にあいまいさが残るが、ある程度自分の考えを伝えることができる。	自分の考えを伝えることができない。

評価方法

提出課題（合計 12 種類を予定）50%、後期定期試験 30%、受講態度 20%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「情報処理Ⅱ」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること)。

ゼミⅠ　～短期大学での学びの素地をつくる～	専任教員

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミは大学生活で重要な役割を果たします。最初のゼミとなるゼミⅠでは、人間関係づくり、大学での学びの基本姿勢やスタディスキルを習得します。また、2年間の短期大学生活と卒業後のキャリア形成に欠かせないメディアセンター、キャリアセンター、エクステンションセンターの利用方法を学びます。所属ゼミの各チューターがそれぞれの専門性を生かして指導をします。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	履修指導 時間割作成の指導
第 2 回	人間関係をつくる 自己紹介、グループワーク等
第 3 回	個別面談カード、かわたんシートの作成 大学にプロフィールや、短大２年間の目標などを伝えよう
第 4 回	学びの基本姿勢、スタディスキル 大学での望ましい・望ましくない姿勢・態度、授業の受け方等を学ぶ
第 5 回	アカデミックライティング入門 『簡易版　論文・レポートの書き方』でレポートなどに備える
第 6 回	・所属ゼミの各チューターの専門を生かしたゼミ活動 ・メディアセンターツアー ・キャリアセンターツアー ・エクステンションセンターツアー
第 7 回	
第 8 回	
第 9 回	
第 10 回	
第 11 回	
第 12 回	専門ゼミの選択・決定 １年後期から卒業まで所属するゼミの選定
第 13 回	学園祭（10 月開催予定）の準備 学園祭へのエントリーについて考えてみよう
第 14 回	大学での学びについて 専門分野を学ぶことの意味
第 15 回	総括 まとめと振り返り

予習・復習

別途、各チューターが指示します。

履修上の注意

別途、各チューターが指示します。

到 達 目 標

別途、各チューターが指示します。

ルーブリック

別途、各チューターが指示します。

評価方法

別途、各チューターが指示します。

テキスト

・教科書名：
・著 者 名：
・出版社名：
・出 版 年（ISBN）：・学科共通のテキストとして冊子『簡易版　論文・レポートの書き方』を配付します。
・その他各ゼミでテキストを使用する場合は、別途、各チューターが指示します。

ゼミⅡ(環境学)　～情報の収集と選択、問題解決能力を養う～　小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。おもに情報の整理や取捨、選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミの進め方、自己紹介など
第 2 回	レポートの書き方 文章作成のルール
第 3 回	レポートの書き方 文章作成における様々な手法
第 4 回	レポート作成 1 レポート作成のための図書選別
第 5 回	レポート作成 2 PC ソフト『Ward』による文章作成
第 6 回	レポート作成 3 レポート作成実践
第 7 回	レポート作成 4 レポート添削返却
第 8 回	動物福祉検定試験対策 映画『犬と猫と人間と』上映
第 9 回	動物福祉検定試験対策 人と動物の歴史について
第 10 回	動物福祉検定試験対策 家庭動物について
第 11 回	動物福祉検定試験対策 畜産動物について
第 12 回	動物福祉検定試験対策 実験動物・展示動物について
第 13 回	動物福祉検定試験対策 野生動物について
第 14 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座
第 15 回	進学・就職希望調査と就活対策講座 模擬面接・履歴書の書き方講座

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をします。
・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。なお、ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿など野外実習を行なうことがあります。

到 達 目 標

おもに情報の収集と選択問題解決能力を開発することを目標とします。またゼミ内での要望が多ければ、「動物福祉検定」資格修得のための講義を行ない、検定試験に臨みます（上記授業計画は「動物福祉検定」を前提に作成しています)。要望があまり多くなければ行なわず，授業計画もゼミ生の要望に合わせて修正します.

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅡ　～資格の勉強方法を修得しよう～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

いくつかの資格の紹介とその勉強(独学)方法を指導します。どの資格も大体方法論は同じで①参考図書を軽く読み、どこに何が書いてあるか確認する。②（過去）問題を解く。③解説を読む。④解説の意味が分からなかったら参考図書の該当箇所を読む。⑤このサイクルを何回か繰り返す、です。実際にやってみましょう。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	学園祭の準備
第 3 回	学園祭の準備
第 4 回	学園祭の準備
第 5 回	ECO 検定
第 6 回	メンタルヘルスマネジメントⅢ種
第 7 回	3 級ファイナンシャルプランニング技能士（学科）
第 8 回	3 級ファイナンシャルプランニング技能士（実技）
第 9 回	IT パスポート（ストラテジの分野は本学で勉強したものが出題されたりします）
第 10 回	基本情報技術者　科目 A
第 11 回	基本情報技術者　科目 B（アルゴリズムは抽象的なので、実際に PC で簡単なプログラムを動かしてみよう）
第 12 回	上記続き
第 13 回	全経簿記 3 級商業簿記（勉強方法）
第 14 回	全経簿記 3 級商業簿記（2 年後期の発表知識の前提として）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

・大まかな計画です。下記の事情により、授業計画(進度、目標など)を変更する場合もあります。
・セミ生の就活状況や希望によってはゼミⅡとゼミⅢの内容を入れ替える場合もあります。

到 達 目 標

いずれかの資格に興味を持ち、その資格の勉強を始めることを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	内容の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	内容の表面的な理解だけでなくその意味を深く理解している。	内容の理解はできる。	内容をわかろうと努力している。	内容が全く理解できない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

配付資料

ゼミⅡ（経営社会学）　～「できる人」研究～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

よく「あの人は仕事が『できる』」という言葉を聞きます。「できる」人ってどういう人のことでしょうか。どうしたら一歩でも近づけるのでしょうか。一緒にさぐってみませんか。

私（平澤）の専門領域である「人的資源管理論」や「経営社会学」には、手がかりが多少あります。漫画や動画などの親しみやすい教材もあります。

「卒業して社会でもやっていける」と思ってもらえるように、独学の力をつけてほしいので、社会に出る前に「読む」「見る」「考える」「伝える」練習をします。うまくできなくていいです。むしろ、学生のうちに失敗に慣れておいてください。具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅡの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	プレゼンについて学ぶ　1　プレゼンについての説明
第 3 回	プレゼンについて学ぶ　2　プレゼンのテーマを決める
第 4 回	プレゼンについて学ぶ　3　プレゼンの準備
第 5 回	プレゼンについて学ぶ　4　プレゼンに挑戦
第 6 回	「できる人」とは？　1　「できる」ってどういうこと？
第 7 回	「できる人」とは？　2　成果の再現性について
第 8 回	「できる人」とは？　3　「できる」の判別
第 9 回	「できる人」とは？　4　面接に生かせること
第10回	「できる人」とは？　5　「できる」のレベル
第11回	「できる人」とは？　6　マネできること
第12回	「できる人」とは？　少し読み応えのある文章をみんなで読んでみよう
第13回	「できる人」とは？　映像を見て考えてみよう（映像1）
第14回	「できる人」とは？　映像を見て考えてみよう（映像2）
第15回	まとめとふりかえり　学んだことを就職活動に生かす

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3）、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 「できる」とはどういうことか、自分の言葉で言える。
2 「読む」「見る」「考える」「伝える」のいずれか一つで構わないので、楽しめるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）：「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方・書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）：「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅡ　～ビジネスと情報～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミでは、「情報社会と企業活動」に焦点を当て、受講生の就職活動と就職後の活躍に備え、ビジネス企画、データ分析と文書作成におけるパワーポイント、エクセル、ワードなどのオフィスツールの知識と活用スキルについて指導します。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待します。

ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（1）基本スキル、個人面談
第 3 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（2）スマートアート、個人面談
第 4 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（3）アニメーション、個人面談
第 5 回	ビジネス企画とパワーポイントの活用（4）総合演習、個人面談
第 6 回	ビジネスデータとエクセルの活用（1）基本スキル、個人面談
第 7 回	ビジネスデータとエクセルの活用（2）関数の活用、個人面談
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り）
第 9 回	ビジネスデータとエクセルの活用（3）グラフの作成、個人面談
第 10 回	ビジネスデータとエクセルの活用（4）総合演習、個人面談
第 11 回	ビジネス文書とワードの活用（1）基本スキル、個人面談
第 12 回	ビジネス文書とワードの活用（2）表の作成、個人面談
第 13 回	ビジネス文書とワードの活用（3）スマートアート、個人面談
第 14 回	ビジネス文書とワードの活用（4）総合演習、個人面談
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ビジネス企画、データ分析と文書作成の知識を理解し、自分の言葉で説明できる。
・パワーポイント、エクセル、ワードのスキルを応用し、自らの可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

平常点・受講姿勢：１００%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅡ　～就職活動に向けて準備し、意識を高めていく～	冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ホテル業界、ブライダル業界、航空会社、観光業界を志望する学生が集うこの専門ゼミでは、就活に向かう心構え、自己分析・企業の選定等を、個人面談を繰り返しながら早期に開始する。ゼミ生全員が役割を担い、責任感を持って学内活動を実施する。本気で就活と向き合い、後悔しない就活を実践し各自の目標を実現するためのゼミ活動となる。観光庁が進めるこれからの観光産業を支える「観光 DX 検定」も講義に取り入れて、「初級資格」取得の一助とする。観光業界を志望するゼミ生の経験値を高め社会に出てから役に立つように、フィールドワークによる実践を体験する機会を作る。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、就活の考え方と取り組み方、ゼミ内役割分担、冨吉ゼミの目的
第 2 回	ガクチカ①　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備①
第 3 回	ガクチカ②　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備②
第 4 回	ガクチカ③　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備③
第 5 回	ガクチカ④　SDGs「金継ぎ」の実演－大学祭発表の準備④
第 6 回	データ分析①　ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）とデータサイエンス
第 7 回	データ分析②　需要予測「観光ＤＸ」初級対策
第 8 回	自己ＰＲ・ガクチカ・志望動機作成の鬼コツ、個人面談、理解度小テスト①
第 9 回	オンライン説明会・オンライン面接のコツ、業界・業種の絞り込み方法
第 10 回	冨吉ゼミ 2 年生（先輩）による合同就活座談会、先輩達からの業界別就活アドバイス
第 11 回	ホテル・ブライダル企業訪問（都内ホテルへの訪問、ホテル内アフタヌーンティー体験）
第 12 回	志望企業の絞り込み、逆求人サービスの活用方法、個人面談
第 13 回	指定教科書からの新たな学び発表会―人生における仕事とは、やりがいとは、使命感とは
第 14 回	面接・グループディスカッションを高度化するノウハウの伝授
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）の意味を理解し行動に反映し、レポート等の提出期限を遵守すること。
・授業計画は変更になることがある。
・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・ホテル・ブライダルのための企業訪問（アフタヌーンティー体験を含む）を実践する際は、交通費実費・飲食代（約４，５００円）の費用は個人負担となる。また取り組む際は対応マナーに留意する。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊を伴う見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．早い就活スタートを切りインターンシップと企業の説明会を効果的に活用するノウハウを習得する。
２．個人面談によりマンツーマンの就活サポートに慣れ、強い意志を持って納得のいく就活を行うことができる。
３．「ガクチカ」素材となる本ゼミ独自の日本の伝統文化である「金継ぎ」をマスターし、SDGs への理解を深める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが設定した項目の 50%程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・教科書名：苦しかったときの話をしようか ビジネスマンの父が我が子のために書きためた「働くことの本質」(1,650 円税込)
・著者名：森岡毅
・出版社名：ダイヤモンド社
・出版年：2019 年 4 月 11 日
・ISBN：978-4478107829

ゼミⅡ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクト、キャラクターやアイドルなどを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅠの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	マーケティングリサーチの基本的な概念 マーケティングリサーチに必要な要件／サンプリングの概念／インターネット調査の基本
第 6 回	調査企画（計画的なマーケティングデータの収集） 調査企画の手順／企画書作成の要件／企画書の内容／調査企画に関する考察
第 7 回	調査の種類・タイプ（データの収集方法） データ・情報取得手段の種類／定量調査と定性調査／その他の調査の分類方法
第 8 回	調査票設計（調査企画の具体化） 調査票の基礎知識と作成の留意点／尺度の理解(等間隔尺度など)／回答方法の分類
第 9 回	データ集計（ビジネス実務の意思決定に必要なデータの準備） 集計の方法と手順／単純集計／代表値／クロス集計／ウェイト集計／検定
第 10 回	定性調査における情報・データ処理の方法 定性情報とは？／分類／類型／再構成／取りまとめと結論／インサイトの抽出
第 11 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第 12 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第 13 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案（タレントの選定）
第 14 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第 15 回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡの発表（ゼミⅠの仮説強化）

予習・復習

・ 予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・ 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること。
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 企業のマーケティング活動におけるマーケティングリサーチの意義・役割、課題を説明することができる。
2. ビジネス課題を解決するための代表的なデータ収集・分析手法の重要性を理解し、『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ』を作成する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
マーケティングリサーチの説明（30%）	新たな手法を用いて結論を導き出すリサーチを企画することができる。	自発的な論理展開に必要なリサーチ技法を説明することができる。	明示された範囲のリサーチ技法を説明することができる	不十分だが、明示された範囲のリサーチ技法をある程度説明することができる。	リサーチ技法の説明が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅡの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- 講義で用いた資料はMicrosoft Teamsの「ゼミⅡ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

ゼミⅡ(心理学)　～聴く力が、あなたの強みになる～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

傾聴は、面接や職場の人間関係など様々な場面で重要な力である。基本技法をロールプレイやペアワークを通して実践的に学び、相手を尊重しながら関わる力を養い、社会で信頼関係を築くためのコミュニケーション能力の基礎を身につけるために体験的に指導する

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　ゼミの進め方　自己紹介
第 2 回	傾聴とは
第 3 回	傾聴カフェの運営準備①（コンセプトの検討）・個人面談
第 4 回	傾聴カフェの運営準備②（オペレーションの検討）・個人面談
第 5 回	傾聴カフェの運営準備③（装飾の準備）・個人面談
第 6 回	傾聴カフェの振り返り
第 7 回	傾聴スキルの習得①　３つの「きく」（解説と実習）
第 8 回	傾聴スキルの習得②　ノンバーバルコミュニケーション（解説と実習）
第 9 回	傾聴スキルの習得③　繰り返し（解説と実習）
第 10 回	傾聴スキルの習得④　要約（解説と実習）
第 11 回	傾聴スキルの習得⑤　感情の反（解説と実習）
第 12 回	傾聴スキルの習得⑥　共感（解説と実習）
第 13 回	傾聴スキルの習得⑦　質問（解説と実習）
第 14 回	傾聴トレーニング
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：次回の授業内容について調べる
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い内容である。
・教員と学生が双方向で対話しながら運営し、グループワーク等学生同士で刺激しあい気づきを得るカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

コミュニケーション力を高め、仲間と共に学べるようになる
対人援助や職場で求められる「傾聴」のスキルを、実習を通して身につける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
積極性（60%）	自ら進んで発言・ロールプレイに参加	求められれば積極的に参加	指示があれば参加	促されないと動かない	ほとんど参加しない
受講態度（40%）	常に集中し、他者を尊重して授業に参加している	概ね良好な態度で参加している	出席し最低限の参加ができている	集中を欠くことが多い	欠席・私語・不参加が目立つ

評価方法

授業での積極性（主体的に自ら進んで参加できるか）60%
受講態度（意欲的に参加できるか）40%

テキスト

必要に応じてプリントを配付

ゼミⅢ(環境学)　～環境問題を題材にした情報収取と分析方法を学ぶ～　小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する』」めの学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく興味をもって把握できる手法を身につけることを目的とします。おもにグループ単位での活動を基本とし、共同作業によって課題に取組むといったスタイルをとります。情報の整理や取捨選択、それに基づいた合意形成の図り方などについて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス ゼミのコンセプトや進め方，野外実習などについて
第 2 回	個別相談 ゼミ生の進学進路，その他の相談
第 3 回	個別相談 ゼミ生の進学進路，その他の相談
第 4 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題１
第 5 回	動物福祉検定試験対策 動物関連の諸問題２
第 6 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の情報整理
第 7 回	巡検事前学習 実習現場に行く前の事前準備
第 8 回	巡検 実習現場での体験・学び１
第 9 回	巡検 実習現場での体験・学び２
第 10 回	巡検事後学習 体験したことと関連事業についての情報整理
第 11 回	巡検事後学習 ディスカッション
第 12 回	インターネットや図書館を利用した情報収集方法について
第 13 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 1 グループ作成とワークショップの進め方の説明
第 14 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 2 発表
第 15 回	KJ 法を用いたワークショップ体験 3 まとめ

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあっての事前準備等の指示をします。
・復習：原則的に講義毎に必ず感想文あるいは成果物を提出してもらいます。これを基に復習をするようにしてください。

履修上の注意

本ゼミで行なう様々な取り組みに意欲的である学生を求めます。ゼミ内での要望が多ければ、イヌネコの譲渡施設や博物館見学、ゼミ合宿（北海道・旭山動物園に行く）などの野外実習を行なうことがあります。また実普段のゼミについても施要望が多ければ、動物愛護関連の資格講座を実施します。

到 達 目 標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内提出物 100%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅢ　～時事問題を使ってコミュニケーション力高める～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

2年後期のゼミⅣでの発表に対する準備です。いきなり発表してというのは辛いでしょうから、授業内でPCを使用して自分の興味を持ったニュースを検索して、それを資料化するという作業を行い、そして順次、他のゼミの方々に発表するという方式で指導します。聴き手側と発表側の間で質問と応答を通してコミュニケーション力を付けたいとおもいます。やらされてる感ではなく、就活で利用しようなど価値転換させて広い視野で捉えてください。面倒だとはおもいますが、若い今のうちこういう経験を積んでおいたほうがよいとおもいます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　：　ゼミⅢのやり方を説明。
第 2 回	発表資料の作成と発表。聴き手の立場の時は質問を考える。
第 3 回	同上
第 4 回	同上
第 5 回	同上
第 6 回	同上
第 7 回	同上
第 8 回	同上
第 9 回	同上
第 10 回	同上
第 11 回	同上
第 12 回	同上
第 13 回	同上
第 14 回	同上
第 15 回	同上

予習・復習

・予習：常にニュースに触れておいてください。

・復習：発表のあった内容に関して、その後の内容を追い続けてください。

履修上の注意

・授業内で、ニュースを検索し、資料を作成するのでPCを持参してください。
・セミ生の就活状況や希望によってはゼミⅡとゼミⅢの内容を入れ替える場合もあります。

到達目標

人の発表内容をよく聞いた上で質問するという、人に対して真摯な対応姿勢を身に付ける。
ちなみに、下記ルーブリックでは「聴き手側の姿勢」の評価が一番高くなっています。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発表側の姿勢（30%）	就活時や世の中に出た後に、聴き手のみんなが、有用な知識であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢（40%）	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

なし。

ゼミⅢ(経営社会学)　～「できる人」の思考・行動を学ぶ～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミⅡで「できる人」とはどんな人かを学びました。その成果を土台に、ゼミⅢでは「できる人」の仕事に対する考え方や行動を学び、私たちにも取り入れることができそうなところを一緒にさがしましょう。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅢの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する
第 2 回	個別面談　第1グループ
第 3 回	個別面談　第2グループ
第 4 回	就職活動報告プレゼン　その1　発表　第1グループ
第 5 回	個別面談　第3グループ
第 6 回	個別面談　第4グループ
第 7 回	個別面談　第5グループ
第 8 回	就職活動報告プレゼン　その2　発表　第2グループ
第 9 回	「できる人」から学ぶ　その1　学びの共有の仕方を説明
第10回	「できる人」から学ぶ　その2　営業の達人から学ぶ
第11回	「できる人」から学ぶ　その3　コンサルタントから学ぶ
第12回	就職活動報告プレゼン　その3　発表　第3グループ
第13回	「できる人」から学ぶ　その4　独学の達人から学ぶ
第14回	「できる人」から学ぶ　その5　「できる」をめぐる対談から学ぶ
第15回	まとめとふりかえり：「できる」人の多様な思考・行動様式から何を取り入れるか

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の3点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を1分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3）、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 「できる」人の思考・行動様式の多様性に気づく。
2 「できる」人の思考・行動様式から自分に取り入れられることを見つける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）：「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方・書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）：「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅢ　～ビジネスと情報～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミでは、「情報社会と企業活動」に焦点を当て、受講生の就職活動と就職後の活躍に備え、ビジネス企画、データ分析と文書作成におけるパワーポイント、エクセル、ワードなどのオフィスツールの応用知識と活用スキルについて指導します。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待します。

ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ゼミの狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	企業活動で取り扱うデータ、個人面談
第 3 回	一般事務における計算処理、個人面談
第 4 回	業務データの分析方法、個人面談
第 5 回	業務上の問題発見と課題解決、個人面談
第 6 回	Excel によるクロス集計の活用演習、個人面談
第 7 回	Excel によるピボットテーブルの活用演習、個人面談
第 8 回	中間まとめ（前半までの授業内容の振り返り）
第 9 回	バランスの可視化とレーダーチャートの作成演習（Excel）、個人面談
第 10 回	相関関係の可視化と散布図の作成演習（Excel）、個人面談
第 11 回	成長性の可視化と Z チャートの作成演習（Excel）、個人面談
第 12 回	ABC 分析とパレート図の作成演習（Excel）、個人面談
第 13 回	Excel データ分析の総合演習（１）、個人面談
第 14 回	Excel データ分析の総合演習（１）、個人面談
第 15 回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・企業データの利活用の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・企業データ分析の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

平常点・受講姿勢：１００%（授業内小課題の提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅢ（企業研究Ⅱ）

～観光産業のホスピタリティーについて学びます～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

このゼミでは観光関連産業全般について学びます。接客業務でのホスピタリティーやコミュニケーション能力、顧客対応力、関係協力機関との対応、ビジネスマナー、チームワーク、協調性などの重要性を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光を取り巻く環境
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	企業研究：運輸関連業界（航空、鉄道、バス、船舶他）
第 6 回	企業研究：宿泊業界（ホテル、日本旅館）
第 7 回	企業研究（テーマパーク、レジャー関連）
第 8 回	企業研究（旅行会社の役割、業務内容、海外・国内・訪日旅行）
第 9 回	個別面談
第10回	個別面談
第11回	業界研究：ホテル、旅行会社のホスピタリティー
第12回	業界研究：MICE、イベント業界
第13回	業界研究：地方自治体観光課、観光協会の役割
第14回	観光立国を目指す日本
第15回	まとめ

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

履修上の注意

・観光産業や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「観光関連産業全般」が理解出来て興味を持つことにより就職先の選択肢のひとつとする。
・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（40%）、受講態度（60%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ゼミⅢ　～就活戦線を一緒に乗り切り納得のいく結果を導く～	冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

2年生前期は、就活本番という最も大切な時期となる。1年生後期に学んだノウハウと準備をあますことなく発揮し、タイミングを逃さず、最大の効果を上げるため、講師が企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した有益な活動を行う。就活を進めていくと志望する業界や希望職種が変わることもあり、自分自身の変化にも柔軟に対処する精神力とスピード感を養う。面接・グループディスカッションを高度化し、結果につなげていく。観光業界を志望するゼミ生の経験値を高め社会に出てから役に立つように、フィールドワークによる実践を体験する機会を作る。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、これまでの就活の状況チェック、今後の就活戦略
第 2 回	ESの見直しと改善、個人面談
第 3 回	メール・電話のマナーの振り返り
第 4 回	面接の改善①、面接の高度化
第 5 回	面接の改善②、個人面談
第 6 回	インターネットサービスの活用方法①　ハローワーク
第 7 回	インターネットサービスの活用方法②　indeed、キャリタスUC
第 8 回	就職情報サイトの活用方法①　基本、理解度小テスト①
第 9 回	就職情報サイトの活用方法②　実践、個人面談
第10回	6月の対応方法と連携①、個人面談
第11回	6月の対応方法と連携②
第12回	7・8月の対応方法と連携③、個人面談
第13回	AIを深掘り①　生成ＡＩの基礎
第14回	AIを深掘り②　生成ＡＩの応用
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポート提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）の意味を理解して行動に反映し、レポート等の提出期限を遵守すること。
・授業計画は変更になることがある。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊施設の見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．業界・業種ごとの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．就職活動の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．就職活動の現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅢ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクト、キャラクターやアイドルなどを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅡの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅡ「カワイイプロダクト ポジショニングマップⅡ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定性調査(インタビュー)の企画書作成 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 6 回	定性調査(インタビュー)の企画書作成 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 7 回	定性調査(インタビュー)の実施 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 8 回	定性調査(インタビュー)の実施 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第10回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第11回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第12回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第13回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案(タレントの選定)
第14回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第15回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢの発表(ゼミⅡの仮説強化)

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 仮説の確認と強化を目的とした定性調査を企画し、実施することができる。
2. 定性調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅢ』を作成する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
定性調査の企画と実施（30%）	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる。	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる。	提示された仮説の確認に必要な調査を実施することができる。	指示された手法の範囲内で調査を実施することができる。	調査が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅢの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ゼミⅢ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

ゼミⅢ　（心理学）～聴く力で、人と自分の可能性をひらく～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	前期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

傾聴の基本姿勢と技法を理論と実践の両面から学び、相手の気持ちに寄り添いながら話を聴く力を身につけることを目的とする。ロールプレイやグループワークを通して、自分の聴き方のくせやコミュニケーションの特徴に気づき、より安心感のある対話ができるように指導する。並行して就職活動についても指導する

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	就職活動準備①「自己 PR」の作成・個人面談（進路について）
第 3 回	就職活動準備②「学生時代力を注いだこと」の作成・個人面談（進路について）
第 4 回	就職活動準備③履歴書エントリーシートの作成・個人面談（進路について）
第 5 回	就職活動準備④面接対策・個人面談（進路について）
第 6 回	傾聴スキルの習得②　ノンバーバルコミュニケーション（解説と実習）
第 7 回	傾聴スキルの習得③　繰り返し（解説と実習）
第 8 回	傾聴スキルの習得④　要約（解説と実習）
第 9 回	傾聴スキルの習得⑤　感情の反映（解説と実習）
第 10 回	傾聴スキルの習得⑥　共感（解説と実習）
第 11 回	傾聴スキルの習得⑦　質問（解説と実習）
第 12 回	傾聴トレーニング①（解説と実習）・個人面談（進路について）
第 13 回	傾聴トレーニング②（解説と実習）・個人面談（進路について）
第 14 回	傾聴トレーニング③（解説と実習）・個人面談（進路について）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・傾聴の基本姿勢と技法を身につけ、相手の気持ちを尊重した対話ができるようになる

・就職活動に必要な基本的なスキルを理解し、自分の強みや希望を踏まえて主体的に就職活動を進めることができるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
積極性（60%）	自ら進んで発言・ロールプレイに参加	求められれば積極的に参加	指示があれば参加	促されないと動かない	ほとんど参加しない
受講態度（40%）	常に集中し、他者を尊重して授業に参加している	概ね良好な態度で参加している	出席し最低限の参加ができている	集中を欠くことが多い	欠席・私語・不参加が目立つ

評価方法

授業での積極性（主体的に自ら進んで参加できるか）60%
受講態度（意欲的に参加できるか）40%

テキスト

必要に応じてプリントを配付

ゼミⅣ(環境学)　～卒業プレゼンテーション発表～　小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

本ゼミでは、環境問題についての学習を「情報の収集と選択、問題解決能力を開発する」ための学習であると位置づけ、複雑な環境問題の問題点をわかりやすく理解するための手法を身につけることを目的とします。その成果として、環境問題を題材にしたレポート作成およびパワーポイントによるグループ発表の方法について指導していきます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	個別進路相談
第 2 回	個別進路相談
第 3 回	パワーポイントの作成準備１ 卒業プレゼン発表についてのガイダンス
第 4 回	パワーポイントの作成準備２ テーマの決定
第 5 回	パワーポイントの作成１ 発表計画書の作成
第 6 回	パワーポイントの作成２ 発表計画書の作成
第 7 回	パワーポイントの作成３ 発表計画書の提出と内容確認，修正
第 8 回	パワーポイントの作成４ 発表計画書の提出と内容確認，修正
第 9 回	パワーポイントの作成５ 進行状況確認
第 10 回	パワーポイントの作成６ 進行状況確認
第 11 回	パワーポイントの作成７ 進行状況確認
第 12 回	パワーポイントの作成８ 発表前最終確認
第 13 回	パワーポイントの作成９ 発表前最終確認
第 14 回	パワーポイントによる発表１ 各ゼミ生，または各グループ毎のプレゼン発表
第 15 回	パワーポイントによる発表２ 各ゼミ生，または各グループ毎のプレゼン発表

予習・復習

・予習：次回の講義でテーマを扱うにあって事前準備等の指示をすることがあります。
・復習：卒業プレゼンを作成する際には、進捗状況について頻繁に報告するようにしてください。

履修上の注意

指示がない限り、特に必要ありません。

到 達 目 標

環境問題を題材に、情報の収集と選択、問題解決能力の養成を目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

卒業プレゼン発表 80%、講義時間内提出物 20%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

ゼミⅣ　～会計の歴史について見てみよう～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

抽象的すぎるのでやや具体的な会計学という分野を導入口にして学問とは何かを指導します。それにあたっては、まず、①会計の役割および必要性を歴史的な観点から確認します。つぎに、②過去に会計学上で問題とされてきたいくつかの事項を見ます。そして、③現在問題とされているいくつかの事項を考察します。会計が、もっといえば様々なことが、なぜ研究されるのか理解できるとおもいます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第1章）1
第 3 回	会計とはなにか、会計の歴史をどうみるか（下記テキストの第1章）2
第 4 回	複式簿記（第2章）1
第 5 回	複式簿記（第2章）2
第 6 回	期間計算（第3章）1
第 7 回	期間計算（第3章）2
第 8 回	近代会計の成立環境（第4章）1
第 9 回	近代会計の成立環境（第4章）2
第10回	発生主義（第5章）1
第11回	発生主義（第5章）2
第12回	会計プロフェッションの生成（第6章）1
第13回	会計プロフェッションの生成（第6章）2
第14回	近代会計制度の成立（第7章）1
第15回	近代会計制度の成立（第7章）2

予習・復習

・予習：担当者によって発表される教科書の範囲を毎回読んできてください。

・復習：発表を聞いた後、再度その範囲を読み直してください。

履修上の注意

ガイダンス時に、いくつか候補を挙げるので、その候補の中からこのゼミで使用する本をゼミ員のみなさんに選択してもらいます。つまり、下記の「使用教科書」が選択されれば、授業計画のようになりますが、違うものが選択されれば、計画は異なるものとなります。ご了承ください。

到 達 目 標

①会計の必要性を理解できる。②会計学上ではどのようなことが問題となっているかを理解できる。③会計学上の問題は、会計学内部からだけでなく社会の変化から問題が発生することを理解できる。④会計学の範囲の広さを理解できる。⑤様々なことが研究されていることが理解できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
発表側の姿勢（30%）	就活時や世の中に出た後に、聴き手みんなが、有用な情報であったとおもえるような発表であったと認められる	発表用の資料に関して、自分が理解した上で人に分かり易く伝えようという努力が認められる。	発表用の資料に関して、時間をかけて作成した努力が認められる。	発表用の資料に関して量が少なく、質が低い。	発表用の資料を作成しない。もしくは出来ない。
聴き手側の姿勢（40%）	強く興味をもち他の事象などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。

評価方法

上記ルーブリックによる。

テキスト

・参考書名：『会計の時代だ』
・著 者 名：友岡　賛
・出版社名：ちくま新書
・出 版 年（ISBN）：2006 年(978-4480063298)

ゼミⅣ（経営社会学）～学習成果確認と社会に出る準備～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

最後のゼミです。卒業後の新天地でうまくやっていってほしいので、私（平澤）の失敗談も伝えつつ、社会に出る前に知っておいてほしいことを学んでいただきます。

卒業時に短期大学士（ビジネス実務）の学位を授与されます。短期大学士（ビジネス実務）として高校卒よりも一つ上の処遇を受けるにふさわしいことを自ら証明するために学位請求プレゼンもしていただきます。「学位請求」というと難しそうですが、プレゼンの準備・方法はもちろん指導しますので、ご安心ください。

具体的には次のようなことを指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 2年間におけるゼミⅣの位置づけ、ねらい、内容、評価について理解を共有する。
第 2 回	社会にでる準備１　新社会人にありがちな失敗について
第 3 回	社会に出る準備２　新社会人として好スタートを切るために
第 4 回	社会に出る準備３　新生活への準備について
第 5 回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その１　スキルを学ぶ目的について
第 6 回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その２　ビジネスマインド、時間管理
第 7 回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その３　コミュニケーション、メール
第 8 回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その４　PC4スキル、ビジネス思考
第 9 回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その５　資料作成、会議
第10回	仕事に必要なスキルを学ぶ　その６　リーダーの心得、自己成長
第11回	学位請求プレゼン　1　学位請求プレゼンのやり方の説明
第12回	学位請求プレゼン　2　発表　第１グループ
第13回	学位請求プレゼン　3　発表　第２グループ
第14回	学位請求プレゼン　3　発表　第３グループ
第15回	総括　（かわたんシートなどによる２年間の学びのふりかえり）

予習・復習

予習・復習に求めることは学習成果の確認と実践、要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の３点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②できるようになったこと、③授業を受けて「こうしよう」と思ったこと。要するに学習成果の確認です。学んだことは実践してみてください。

・予習：前回のポイントと、自分に及ぼした影響を１分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 ゼミについては遅刻・欠席する場合、事前に連絡をください。
2 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は成績に反映させます。
3 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
4 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。
5 上記 1～4 は「あたりまえ」にしてください。連絡（上記 1）や手続き（上記 2, 3）、説明（上記 4）への対応が、適切な時に適切にできないと、苦労するからです。

到 達 目 標

このゼミが終わるころ、次のような状態に到達することが目標です。
1 社会に出るために「できるだけの準備をした」と言える。
2 短期大学士（ビジネス実務）として高校卒より一段上の処遇を受けるに値すると自分で言える。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
伝える力（ 50%）	提出物・発表で課した要件を超えた自発的な工夫がある。	提出物・発表で課した要件は満たしている。	提出物・発表で課した要件はほぼ満たしている。	提出物・発表で課した要件をほとんど満たしていない。	提出物を出さない、発表をしない。
姿勢・行動（ 50%）	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体にも貢献している。	自分のやるべきことをやり、ゼミ全体をも意識できている。	自分のやるべきことは自分でできている。	自分のやるべきことを自力でできないこともある。	自分のやるべきことを自力でできていない。

評価方法

提出物・発表等（50%）：「伝える力」に対応します。考察が深いほど、読み手や聞き手にわかりやすい言い方・書き方ができているほど高く評価します。
受講態度 （50%）：「姿勢・行動」に対応します。自分のやるべきことはもちろん、ゼミ全体の運営に貢献する姿勢・行動を評価します。

テキスト

・「教科書」はありませんが、ゼミで一緒に読む本を適宜指示します。
・教室で配られる資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理は、自分で確実に実行してください。

ゼミⅣ　～ビジネスと情報～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

ゼミでは、企業ESG（環境・社会・ガバナンス）情報分析の基礎や金融経済のしくみ、就職活動における業界・企業研究だけでなく、就職後の活躍と資産形成にも役立つ知識と活用スキルについて指導します。ゼミの専門知識を応用し、自らの視野と可能性をさらに広げることを期待します。

ゼミ生の進路（就職・進学）については主に個人面談を通じて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業の狙い、全体像、進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	ESG・金融経済に関する基礎学習、個人面談
第 3 回	企業のESG情報開示・日経電子版を使って記事検索、個人面談
第 4 回	ESGスクリーニング（1）業界研究、個人面談
第 5 回	ESGスクリーニング（2）企業研究、個人面談
第 6 回	ESGスクリーニング（3）財務・非財務情報の分析、個人面談
第 7 回	個別企業研究（1）、個人面談
第 8 回	個別企業研究（2）、個人面談
第 9 回	個別企業研究（3）、個人面談
第10回	ポートフォリオの作成、個人面談
第11回	投資家アピールの作成、個人面談
第12回	発表ポスターの制作（1）、個人面談
第13回	発表ポスターの制作（2）、個人面談
第14回	ポスター提出と最終発表
第15回	期末まとめ（後半の授業内容の振り返り）

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ESG 情報の知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ESG 情報分析のスキルを応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０％）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０％）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０％）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

平常点・受講姿勢：１００％（授業内小課題の提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

ゼミⅣ　（企業研究Ⅳ）～社会人になる～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

このゼミでは社会人になる心構えと、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー、ESG、社会保障制度について指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション
第 2 回	個別面談
第 3 回	個別面談
第 4 回	個別面談
第 5 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー①
第 6 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー②
第 7 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー③
第 8 回	社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナー④
第 9 回	企業の求める人材
第10回	個別面談
第11回	個別面談
第12回	ESG（環境、社会、ガバメント）について①
第13回	ESG（環境、社会、ガバメント）について②
第14回	社会保障制度について
第15回	まとめ

予習・復習

・予習：ゼミ内で適宜指示します。

・復習：ゼミ内で適宜指示します。

履修上の注意

・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・社会で必要なビジネスマナー、社会常識、コミュニケーション、ビジネスマナーを理解して身に付ける。
・ＥＳＧの概略について理解して説明できる様にする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０％）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

受講態度（70%）、課題レポート及び授業内の理解度テスト（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ゼミⅣ　～就活の仕上げと、社会人への準備～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

就職活動を継続する学生と、内々定を獲得した学生、双方の指導を行いながら、講師の企業在籍時に担当した採用担当・人材育成の実務経験を反映した社会人となるためのオフィスワーク、先を読んだ思考、働き方改革について、総合的に今必要な技術・教養を習得する。この授業を通じて皆さんは、教員と学生の枠を超えた「人生の先輩・後輩」となっていく。また、今後必要となる社会人に向けてＡＩの基礎を学び、応用する力を付け、リスキリングについても理解を深められる講義を展開する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、就職活動の総括、大学祭出展・卒業研究の擦り合わせ
第 2 回	PC 操作・オフィスソフトの高度化
第 3 回	大学祭出展の準備①
第 4 回	大学祭出展の準備②
第 5 回	ＰＣ力を強化！　タッチタイピング２級・ショートカットキーのマスター
第 6 回	働き方改革（フレックスタイム、ワーケーション）
第 7 回	第２新卒とは、転職の時代をどう考えるか
第 8 回	ゼミⅣ前半の研究発表、理解度小テスト①
第 9 回	プレゼンテーションの基礎知識―PPT・画像修正機能の活用
第 10 回	卒業研究―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミの実践（フィールドワーク）の準備
第 11 回	卒業研究―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミの実践（フィールドワーク）
第 12 回	ファイナンス（金融・年金・社会保険・新ＮＩＳＡ・ｉＤｅＣｏ）の基礎と考え方
第 13 回	ＡＩ実用化時代とその活用方法、リスキリング（学び直し）の重要性
第 14 回	卒業研究発表―観光と環境を学ぶ冨吉ゼミのフィールドワークレポート提出
第 15 回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を２回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

履修上の注意

・ほうれんそう（報告、連絡、相談）と提出期限の遵守、のゼミのルールを守ること。
・企業訪問の実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることある。
・観光業界に特化したフィールドワークでは、宿泊を伴う見学、インバウンド対応のための英会話習得、伝統工芸を通じた交流、食品ロス防止、等の活動を行う。学生負担の経費が必要となる場合もあり、早めに伝達の上、積極的に取り組むこととする。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．社会人になる準備として、最低限出来なければならないビジネスマナーを習得する。
２．タッチタイピング、PC 操作、プレゼン力、生成 AI 等の基礎を習得し、社会人となる準備ができる。
３．卒業研究となる観光に関するフィールドワークを通じてＰＤＣＡサイクルを習得する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが設定した項目の 50%程度しか理解していない。	授業内容を最低限レベルの理解として習得している。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の提出）　　５０％
・理解度小テスト（前半・後半、２回実施）　３０％
・最終課題レポート　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ゼミⅣ(マーケティングリサーチ論)

～マーケティングリサーチの技法を用いたカワイイプロダクト研究～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とマーケティングリサーチの技法を用いて、ゼミ生が「カワイイ」と感じる化粧品やファッション関連プロダクト、キャラクターやアイドルなどを対象に、企業のマーケティング戦略実現のために必要とされる計画的なデータ収集・分析の論理と技法を指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングリサーチとは？(ゼミⅢの復習と応用) マーケティングとマーケティングリサーチ(マーケティング・マネジメントプロセス)
第 2 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ① ゼミⅢ「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の完成度を高めるための企画立案
第 3 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ② 「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」の各象限に適したブランドの追加
第 4 回	研究対象とするカワイイプロダクトの選定 ③ 第3回講義で追加されたブランドのアトリビュートの考案
第 5 回	定量調査(アンケート)の企画書作成 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 6 回	定量調査(アンケート)の企画書作成 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 7 回	定量調査(アンケート)の実施 ① 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その検証を行うための調査
第 8 回	定量調査(アンケート)の実施 ② 第2～4回で選定したブランドとアトリビュートを仮説とし、その確認と強化のための調査
第 9 回	調査結果の整理と取りまとめ ① カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第10回	調査結果の整理と取りまとめ ② カワイイプロダクトに関するインサイトの抽出／ブランドとアトリビュート再検討
第11回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ① グループワークによる「カワイイプロダクト ポジショニングマップ」へのブランド再配置
第12回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ② グループワークによる各象限に配置されたブランドのアトリビュート再考
第13回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ③ グループワークによる各象限の特徴を表したユーザーイメージの考案(タレントの選定)
第14回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの作成 ④ グループワークによる各象限のペルソナの設定
第15回	カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣの発表(卒業制作の完成)

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること(他に、授業内で提出課題の指示あり)。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 自身がカワイイと感じる化粧品やファッション関連プロダクトの「特徴」、「買った（利用した）理由」、「満足しているところ」、「不満を感じているところ」などを、日頃から意識的に考える習慣を身につけること
2. ゼミ生の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 仮説の検証を目的とした定量調査を企画し、実施することができる。
2. 定量調査の結果を反映させた『カワイイプロダクト ポジショニングマップⅣ（卒業制作）』を完成させる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
定量調査の企画と実施（30%）	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる。	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる。	提示された仮説の検証に必要な調査を実施することができる。	指示された手法の範囲内で調査を実施することができる。	調査が不完全である。
カワイイプロダクトポジショニングマップⅣの作成（70%）	根拠を示して説得力のある意見を述べるだけではなく、新たな論点を提示することができる。	根拠を示して説得力のある意見を述べることができる。	他者への賛成意見・反対意見を述べることができる。	単なる感想しか述べることができない。	発言しない。

評価方法

受講態度 70%、提出課題 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ゼミⅣ（織戸ゼミ）」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

ゼミⅣ　（心理学）～心理学的に物事を捉える力の習得～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
2年	後期	2	必修	専門科目　必修

授業概要

日常生活や対人関係、心の悩みなど身近な心理学のテーマについて、学生一人ひとりが関心のあるテーマを選び、資料を収集しながら自分なりの理解を深め、発表を行う。後半では、代表的な心理療法の基礎を取り上げ、それぞれがどのように人の変化や成長を支えているのかを検討する。心理療法を単なる「治療技法」としてではなく、「人が自分らしく生きる力を回復していくプロセス」として捉えることを目指し、実習を用いて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	心理学について研究する①　テーマの策定・個人面談（進路について）
第 3 回	心理学について研究する②　文献研究・個人面談（進路について）
第 4 回	心理学について研究する③　発表準備・個人面談（進路について）
第 5 回	心理学について研究する④　発表準備・個人面談（進路について）
第 6 回	心理学について研究する⑤　研究発表会
第 7 回	心理学について研究する⑥　研究発表会
第 8 回	心理学について研究する⑦　研究発表会
第 9 回	心理学について研究する⑧　研究発表会
第 10 回	自分でできる心理療法①　アサーショントレーニング（解説と実習）
第 11 回	自分でできる心理療法③　催眠療法　自律訓練法（解説と実習）
第 12 回	自分でできる心理療法④　認知行動療法　（解説と実習）
第 13 回	自分でできる心理療法⑤　マインドフルネス　フォーカシング（解説と実習）
第 14 回	自分でできる心理療法⑥　コンパッション・フォーカスト・セラピー（解説と実習）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・興味のある心理学のテーマについて調べて発表することで、「なぜ人はこう感じるのか」「なぜこう行動するのか」を理解し、自分自身や将来の仕事、人間関係に活用できる。

・心理療法の考え方を通して「自分の心を整える力」と「人の心に寄り添う力」を身につけ、日常生活や将来の対人援助・職場の人間関係に活かせる基礎力を養う。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
積極性（40%）	自ら進んで発言・ロールプレイに参加	求められれば積極的に参加	指示があれば参加	促されないと動かない	ほとんど参加しない
研究発表（40%）	調査内容を整理したうえで、自分の経験や将来の活用と結びつけてわかりやすく発表できている	内容を正しく理解し、調査結果を自分の言葉で整理して発表できている	基本的な内容を理解し、調べたことを概ね説明できている	理解や整理が不十分で、発表がわかりにくい部分がある	発表しないまたは調査・理解・発表のいずれも著しく不十分である
受講態度（20%）	常に集中し、他者を尊重して授業に参加している	概ね良好な態度で参加している	出席し最低限の参加ができている	集中を欠くことが多い	欠席・私語・不参加が目立つ

評価方法

授業での積極性（主体的に自ら進んで参加できるか）40%
受講態度 20%
研究発表の内容 40%

テキスト

必要に応じてプリントを配付

経営管理論　～映像で学ぶ経営者の役割～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1･2	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

「経営管理論」に関する定義は必ずしも明らかではありません。ですが、「経営者は経営管理を担当するので、経営管理者ともいう」（奥村悳一 1997『経営管理論』有斐閣、19 頁）というくらいですから、この授業では「経営者」について、特に経営者の役割を中心に学ぶこととします。ビジネスの現場では「経営者の視点」を求められますから、経営者を目指していない人にも役立つはずです。

まだ正社員として働いた経験がなく、身近に「経営者」がいない方々にも理解できるように、ドラマや映画を使って、できるだけ具体的に授業を進めます。次のようなことを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：授業のねらい、授業の受け方、予習・復習の仕方、評価の仕方 §1　この授業で学ぶこと
第 2 回	§2　所有と経営の分離：所有経営者と専門経営者
第 3 回	§3　経営者の役割：様々な学説
第 4 回	§4　戦略的意思決定その 1　戦略的意決定とは具体的にどんな意思決定か
第 5 回	§5　戦略的意思決定その 2　戦略的意思決定の性質について
第 6 回	§6　執行管理その 1：学説
第 7 回	§7　執行管理その 2：具体的内容
第 8 回	§8　経営者に求められる能力・資質その 1： 今までの学びを生かして経営者に求められる能力・資質を考える
第 9 回	§9　経営者に求められる能力・資質その 2： トップマネジメントにとって重要な「概念的スキル」「対人スキル」を学ぶ
第 10 回	§10　経営者に求められる能力・資質その 3： 戦略的意思決定においてトップマネジメントに求められる能力・資質を学ぶ
第 11 回	§11　コーポレートガバナンスその 1：概念・しくみ・目的
第 12 回	§12　コーポレートガバナンスその 2：必要性・意義
第 13 回	§13　経営者論：経営者の比較その 1
第 14 回	§14　経営者論：経営者その 2
第 15 回	§15　まとめとふりかえり

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の 2 点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを 1 分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は、遅刻した時間・頻度に応じて成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃、つぎのような状態に到達することを目標とします。
1 「経営者」が何をするのか、具体的に言えるようになる。
2 「経営者」を観察する視点を持つ。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（ 50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。配付資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理も学力のうちです。自分で確実に実行してください。

企業論　～企業の原理と経済形態について学ぶ～	藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

経営学は管理論と企業論から構成されている。企業論では主として私企業、公企業、公私合同企業といった企業の経済形態を学ぶ。まず企業や株式会社の概念と形態、企業における所有・経営・支配の関係と経営目的などを取り上げる。次に取締役会、監査役会などの会社機関とコーポレート・ガバナンスの問題を検討する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション：シラバスを確認し、講義の概要、目的、スケジュールについて説明する。
第 2 回	会社の経営とはどんなことかについて講義する。
第 3 回	会社はどのようにして社会に役立っているのかについて講義する。
第 4 回	会社は誰が動かしているのかについて講義する。
第 5 回	会社はどのような方針で動いているのかについて講義する。
第 6 回	会社はどんな仕組みで動いているのかについて講義する。
第 7 回	会社は他の会社とどのように協力しているのかについて講義する。
第 8 回	会社はどのようにして物を作るのかについて講義する。
第 9 回	社員は仕事をどのように分担しているのかについて講義する。
第 10 回	社員はなぜ働くのかについて講義する。
第 11 回	社員はなぜ組織にとどまろうとするのかについて講義する。
第 12 回	社員はどのような報酬を求めるのかについて講義する。
第 13 回	社員はどのようにして育てられるのかについて講義する。
第 14 回	会社はどのようにして商品を提供するのかについて講義する。
第 15 回	会社の利益はどのようにして測定するのかについて講義する。

予習・復習

・予習：授業のレジュメを把握し、授業資料の該当箇所と新聞・WEB サイトの日本の産業と企業に関する記事をよく読むこと。
・復習：配付した資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

履修上の注意

1. 企業論の基礎知識を就活にも活かすつもりで受講すること。
2. 講義内容の変更等授業の重要事項が第１回目に説明される。単位認定にかかわるので必ず第１回目の授業に出席すること。
3. やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをすること。

到 達 目 標

① 日本企業の組織・行動・成果を理解するために必要な教養的知識・技能を学ぶことができること。
② 経営学検定初級合格に必要な知識を得ることができること。
③ 独力で企業の仕組みを理解し、説明することができること。
④ 学んだ知識を、企業等での経営企画、調査等に活かすことができること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	企業経営の現実を理解しているうえ、経営問題を探ることができる	企業経営の仕組みを十分に理解している	企業経営の理解にはやや努力を要する	企業経営の理解にはかなり努力を要する	企業経営の仕組みついて理解できていない
課題解法能力（20%）	経営課題についてアドバイスもできる	経営課題ついて十分理解し、問題解法もできる	特に経営現場やマーケティングについての課題解法にはやや努力を要する	経営学の課題の解法にはかなりの努力が必要である	企業経営の課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート（　20%）	企業経営やケースを巡って論文まで書ける	経営現場の他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った経営課題説明文を記述することができる	ケース・スタディについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケース・スタディについて説明文を書くことができない
統計的分析能力（10%）	経営財務について統計的分析に優れている	経営財務について統計的分析が良くできている	経営財務についての統計的な分析にやや努力を要する	経営財務についての統計的な分析にかなり努力を要する	企業経営や財務についての統計的な分析ができていない
歴史的知識（10%）	企業経営の歴史について詳しい	企業経営の歴史について理解している	企業経営の歴史を知るにはやや努力が必要である	企業経営の歴史を知るにはかなり努力を要する	企業経営の歴史について分かっていない

評価方法

学期末試験 70%、理解度テスト（授業内１回・授業資料持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していく。

中小企業論　～日本人労働者の大半が中小企業の社員である～	藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

我々の身近にある中小企業は、商店街の中小小売店、青果店、飲食店、対個人サービス業の理容店・クリーニング店、町工場や大企業の下請け企業、陶磁器産地のメーカーのような地場産業といった製造業など多様である。授業では、中小企業の経営形態と経営特質、経営課題について学んでいく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション：シラバスを確認し、講義の概要、目的、スケジュールについて説明する。
第 2 回	中小企業の定義と特徴：中小企業基本法などから中小企業の定義を講義する。
第 3 回	日本における中小企業の歴史的変遷について講義する。
第 4 回	中小企業の創業：創業の要件、企業形態、株式会社の設立について講義する。
第 5 回	中小企業経営①中小企業経営者、中小（法人）企業の経営指標と経営課題について講義する。
第 6 回	中小企業経営②経営組織、経営戦略、経営管理、マーケティングについて講義する。
第 7 回	中小企業の事業承継：事業承継のパターン、事業承継の課題について講義する。
第 8 回	中小製造業：概要、変化、産業集積について講義する。
第 9 回	中小非製造業：商業、サービス業、旅行業、中小サービス業の課題について講義する。
第 10 回	中小企業財務：財務諸表、財務分析の基本、財務戦略について講義する。
第 11 回	中小企業信用格付：金融機関による格付と信用格付機関による格付について講義する。
第 12 回	中小企業金融システム：中小企業の資金需要と資金調達の形態、制度融資について講義する。
第 13 回	中小企業金融実務/企業の資金繰り、資金需要の優先順位、負債による調達について講義する。
第 14 回	中小企業金融実務/資本による調達（CF）と資産による調達（ABL）について講義する。
第 15 回	中小企業問題と中小企業政策：中小企業の低生産性問題、中小企業政策について講義する。

予習・復習

・予習：授業のレジュメを把握し、参考書の該当箇所をよく読むこと。

・復習：配付した参考資料を読み、授業時に示す課題について回答レポートを作成すること。

履修上の注意

1. 講義内容の変更等授業の重要事項が第1回目に説明される。単位認定にかかわるので必ず第1回目の授業に出席すること。
2. 講義テーマに沿った講義資料を適宜提供するため、授業欠席を避けること。
3. やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをすること。

到 達 目 標

① 中小企業の本質を理解できること。
② 中小企業経営の現状や課題解決に対する基本的な分析力を身につけることができること。
③ 日本の中小企業における制度融資について学び、学んだ知識を、中小企業での経営企画等に活かすことができること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	中小企業経営の現実を理解しているうえ、経営問題を探ることができる	中小企業経営の仕組みを十分に理解している	中小企業経営の理解にはやや努力を要する	中小企業経営の理解にはかなり努力を要する	中小企業経営の仕組みついて理解できていない
課題解法能力（20%）	中小企業の経営課題についてアドバイスもできる	中小企業の経営課題ついて十分理解し、問題解法もできる	特に中小企業の経営現場やマーケティングについての課題解法にはやや努力を要する	中小企業経営の課題の解法にはかなりの努力が必要である	中小企業経営の課題解法はできていない
解法を文書で説明する力・レポート（20%）	中小企業経営やケースを巡って論文まで書ける	中小企業経営現場の他人を説得する内容が記述することができる	経営学の論理が通った経営課題説明文を記述することができる	ケース・スタディについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケース・スタディについて説明文を書くことができない
統計的分析能力（10%）	中小企業経営財務について統計的分析に優れている	中小企業経営財務について統計的分析が良くできている	中小企業経営財務についての統計的な分析にやや努力を要する	中小企業経営財務についての統計的な分析にかなり努力を要する	中小企業経営や財務についての統計的な分析ができていない
歴史的知識（10%）	地域経済、地場産業や中小企業経営の歴史について詳しい	地場産業や中小企業経営の歴史について理解している	中小企業経営の歴史を知るにはやや努力が必要である	中小企業経営の歴史を知るにはかなり努力を要する	中小企業経営の歴史について分かっていない

評価方法

学期末試験 70%、理解度テスト（授業内1回・授業資料持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していく。

・参考書名：『中小企業論』
・著 者 名：藤井　喜一郎［著］
・出版社名：時潮社
・出 版 年（ISBN）：2022年8月（ISBN）978-4-7888-0759-4

人的資源管理論　～映像で学ぶヒトの管理～

平澤　純子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

ヒトを集めてきて、指示をすれば、人は働いてくれるでしょうか。実際にはそんなに簡単ではありません。では、どうしたら働いてくれるのでしょうか？この授業はそんなことを、ドラマや映画を使いながら学んで、考える授業です。

ほぼ毎回、人的資源管理論の理論・概念でドラマや映画のなかの出来事を見て、考えたことを書いて授業内レポートとして出していただきます。ヒトの管理に正解があるわけではありませんが、こうした思考の訓練は働くときに、ヒトを管理する立場になったときに役立つはずです。「生涯現役で活躍できる」人材になるために、考える練習を一緒にやってみましょう。この授業では具体的には次のようなことを講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	総論その１　人的資源管理論とはどのような学問か 人的資源管理論の成り立ち、人的資源管理論の対象・領域・課題について学ぶ。
第 2 回	総論その２　人的資源の特性、「人間観」について 「人間観＝人間をどういう存在として捉えているか」の重要性を学ぶ。
第 3 回	総論のふりかえり 第１回、第２回の授業で学んだ重要な概念が理解できているか、確認する。
第 4 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか　その１ 採用：採用戦略、採用の種類・方法、難しさについて学ぶ。
第 5 回	ヒトと仕事をどう結びつけるか　その２ 配置：配置の種類や配置に対する考え方について学ぶ。
第 6 回	ヒトをどのように働かせるか 採用すれば働いてくれるわけではない。働いてもらうためになすべきことを学ぶ。
第 7 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理　その１ 二つの管理方法を比較し、それぞれの特徴や長所・短所を学ぶ。
第 8 回	コミットメントによる管理、コントロールによる管理　その３ コミットメントはいかにして引き出すことができるのかを学ぶ。
第 9 回	ヒトは育てるものか、育つものか 育成：能力開発は誰が、どこが担うのか、能力開発における選択と自己責任を学ぶ。
第 10 回	ヒトは育てるものか、育つものか 評価、報酬：報酬はお金とはかぎらないことを学ぶ。
第 11 回	リーダーシップ論 リーダーシップの型と、それぞれの型の長所・短所を学ぶ。
第 12 回	経営においてヒトとは何か　その１ ヒトの確保と維持に何が必要かを考えてみる。
第 13 回	労使紛争、労使関係管理 雇用調整をめぐる紛争を手がかりに、労使紛争の痛みと労使関係の維持・管理を学ぶ。
第 14 回	経営においてヒトとは何か　その２ 結局、経営においてヒトとは何なのか、自分なりの答えを持つ。
第 15 回	まとめとふりかえり 授業の意図がつかめていたか、確認する。

予 習 ・ 復 習

予習・復習に求めることは確認・要約です。あえて復習から述べます。

・復習：毎回の授業の後で次の２点を確認してください。①「へえ」と思ったこと、②学んだ概念や理論が、ここにも当てはめることができるのではないかと思う経験や出来事を探してみてください。

・予習：前回の授業のポイントを１分間で人に説明できるように整理してください(要約)。

履修上の注意

1 電車の遅延など、合理的理由のある遅刻は、証明書を提出してください。こうした手続のない遅刻は、遅刻した時間・頻度に応じて成績に反映させます。
2 やむを得ない欠席は「履修のてびき」に記載の手続きをしてください。
3 授業計画や評価方法を変更せざるを得ない場合（例：感染症拡大防止をめぐる行政措置）には説明します。授業の中での説明、掲示板、teams、メールによる説明がありえます。

到 達 目 標

この授業が終わる頃に、次のような状態に到達することを目標とします。
1　企業で働くとき、どのように管理されるのかイメージを持つことができる。
2　ヒトを管理する側が直面する問題について自分なりに考えをもつことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（　50%）	指導内容を深く理解した上で自分の意見や考えを持つことができている。	指導内容を十分理解できている。	指導内容を理解できていないところがある。	指導内容の最低限は理解している。	指導内容をほとんど理解できていない。
受講態度（　50%）	意欲的に受講し、教室全体に大きなプラスの影響を与えている。	意欲的に受講し、教室全体にプラスの影響を与えている。	おおむね意欲的に受講している。	意欲的に受講しているとは言えない。	意欲が見られない。

評価方法

・学期末試験（50%）：ルーブリックの「理解度」にあたります。
　　試験は授業をどのくらい理解・吸収して成長できているかを重要視します。
・受講態度　（50%）：ルーブリックの「受講態度」にあたります。

テキスト

教科書はありません。配付資料や teams にアップロードされる資料の受け取りや管理も学力のうちです。自分で確実に実行してください。

財務管理論

～企業の「資金調達」は、あなたの「資産形成」。株式会社の仕組みと「お金」の育て方～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

企業が新しい挑戦をするためには莫大なお金が必要ですが、そのお金はどこから来るのでしょうか？ 実は、巡り巡って私たち「家計」のお金が企業を支えているのです。

本授業では、大航海時代のリスク管理から始まった「株式会社」の歴史を紐解きながら、株式や債券といった資金調達の仕組みを学びます。企業の視点（どうやってお金を集めるか）を学ぶことは、裏を返せば、投資家の視点（どうやってお金を増やすか＝資産形成）を学ぶことと同じです。

経済の血液である「お金」の流れを理解し、社会を見る解像度を一気に高めることを目指して講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：授業の狙い、全体像、進め方、評価方法
第 2 回	景気が良い・悪いってどういうこと？：生活者視点で読み解く経済の仕組み
第 3 回	銀行のお金は誰のもの？：私たちが金融システムを支えているという真実
第 4 回	大航海時代から始まった？：「株式会社」誕生のドラマと歴史
第 5 回	会社のオーナーになるということ：株式の発行と「株主」の権利
第 6 回	株はどこで売買されている？：株式市場と流通のメカニズム
第 7 回	株価はなぜ動くのか（1）：ニュースや社会情勢が与えるインパクト
第 8 回	株価はなぜ動くのか（2）：企業の業績や期待値が与えるインパクト
第 9 回	前半のまとめ：ここまでの知識を定着させる（復習問題・解説）
第 10 回	銀行以外から借金する方法：「社債（債券）」という資金調達
第 11 回	貸したお金はどれくらい増える？：債券の「利回り」とリスク
第 12 回	企業の「資金調達」は、家計の「資産運用」である（1）：貯蓄から投資へ
第 13 回	企業の「資金調達」は、家計の「資産運用」である（2）：リスクとリターンの関係
第 14 回	企業の「資金調達」は、家計の「資産運用」である（3）：人生 100 年時代のマネーリテラシー
第 15 回	総まとめ：財務管理の仕組みを理解して、社会へ出る準備をする（期末課題の作成と提出）

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・財務管理論の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・財務管理論の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点・受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
・期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

マーケティング論

～ビジネスの本質理解とマーケティング戦略立案のための発想法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

『マーケティング』は「ファイナンス（財務・経理）」と「アドミニストレーション（管理全般）」とともに企業体を構成する機能であり、業種・職種を問わず、身につけるべきビジネス実務の知識である。そのマーケティングの考え方の枠組みとビジネスにおけるマーケティング戦略立案・戦術策定の発想法を、担当教員の広告会社マッキャン・ワールドグループ及びインターネット調査会社 GMO リサーチ社での実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	マーケティングとは？ 企業のマーケティング活動の定義／マーケティングを学ぶための基本的な考え方
第 2 回	マーケティングの本質 マーケティングファネルという考え方／具体的事例で学ぶマーケティングの本質
第 3 回	マーケティングリサーチ マーケティングの実施管理プロセスとその起点となるマーケティングリサーチ
第 4 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）① Segmentation ｾｸﾞﾒﾝﾃｰｼｮﾝ／Targeting ﾀｰｹﾞﾃｨﾝｸﾞ／Positioning ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ
第 5 回	競争優位性の確立の基本と発想法（有利な立ち位置でビジネスを進める；STP）② Segmentation ｾｸﾞﾒﾝﾃｰｼｮﾝ／Targeting ﾀｰｹﾞﾃｨﾝｸﾞ／Positioning ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ
第 6 回	製品戦略 4P／4C ① 何を売るのか／Product と Customer Value（製品／顧客にとっての価値）
第 7 回	価格戦略 4P／4C ② いくらで売るのか／Price と Cost（価格／購入までの時間を含めたトータルコスト）
第 8 回	広告・プロモーション戦略 4P／4C ③ どのように知らせるのか／Promotion と Communication（販売促進／顧客との関係構築）
第 9 回	販売チャネル戦略 4P／4C ④ どのように届けるのか／Place と Convenience（流通／購入・利用の利便性）
第 10 回	ネーミングとパッケージ 製品名・サービス名称・店舗名の考案／マーケティングにおける役割／ブランドの基本
第 11 回	ブランディング ブランドの定義・種類と役割の変遷／ブランド価値の重要性／ブランドエクイティ
第 12 回	サービスマーケティング モノとサービスの違い／サービス品質の構成要素／顧客接点の重要性
第 13 回	Web マーケティング Web サイトへの集客手法／Web サイトでの接客／ターゲティング・リターゲティング
第 14 回	企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第 15 回	企業のマーケティング活動の実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予習・復習

- 予習：毎回講義で取り上げるテーマに関して、身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、簡潔にまとめておくこと（他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配付するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

2. 自身が利用している身近な製品・サービスや店舗・施設等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
3. 講義回は未定であるが、マーケティングデータの収集ノウハウやブランディングを講義テーマとして、外部講師（元ハイエンドブランドのマーケティングディレクター）の招聘を予定している。
4. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
5. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
6. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. マーケティング戦略立案のための基本的な考え方の枠組み（フレームワーク）である「STP (Segmentation／Targeting／Positioning)」を説明することができる。
2. マーケティング戦術策定のための手段である「4P (Product、Price、Place、Promotion)／4C (Customer Value、Cost、Convenience、Communication)」を説明することができる。
3. 身近な製品・サービスや店舗・施設等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
STP の説明（30%）	STP の知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	STP のフレームワークを用いて分析し説明できる。	STP の基本とフレームワークを説明できる。	STP の基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	STP の基本もフレームワークも十分に説明できない。
4P／4C の説明（30%）	4P／4C の知識の習得にとどまらず、分析力や創造力まで習得できている。	4P／4C のフレームワークを用いて分析し説明できる。	4P／4C の基本とフレームワークを説明できる。	4P／4C の基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	4P／4C の基本もフレームワークも十分に説明できない。
企業のマーケティング活動の説明（40%）	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配付する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「マーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

会計学　～計算よりも「意味」を知ろう！企業の「お財布」事情～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

「会計」と聞くと、難しい計算や帳簿付けをイメージしていませんか？ 実は、会計は「ビジネスの言語」であり、計算よりも「意味」を知ることが重要です。会計の意味がわからなければ、企業の実態やビジネスの勝敗を正しく理解することはできません。

本授業では、専門的な計算技術よりも、「会計情報を通して企業の活動成果を読み解く力」に重点を置きます。実際の企業事例を交えながら、売上、費用、利益といった基礎用語の本当の意味や、決算書の読み方を学びます。社会に出たとき、数字に踊らされず、自らビジネスの良し悪しを判断できる「会計に強い人材」になるための第一歩となるよう講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	なぜ、会計（ビジネスの言語）を学ぶのか？（授業の全体像、評価方法、受講上の注意点）
第 2 回	「売上」の正体：商品を売ったお金は誰のもの？
第 3 回	ツケ払いのルール：なぜ商品を先に渡すのか（信用取引の仕組み）
第 4 回	稼ぐために必要なお金：「費用」と「浪費」の違い
第 5 回	その商品はいくらで作れる？：ビジネスの基本「原価計算」
第 6 回	結局、いくら手元に残るの？：売上－費用＝「利益」の構造
第 7 回	円安・円高ってどっちが得？：為替と税金が利益に与える影響
第 8 回	前半のまとめ：ここまでの知識を定着させる（復習と解説）
第 9 回	【実践編 1】会社の「売上」を伸ばすには？経営者の視点で考える
第 10 回	【実践編 2】会社の「利益」を最大化するには？儲かる仕組みの作り方
第 11 回	会社の通信簿：決算書は誰のためにあるのか
第 12 回	その会社は本当に儲かっているか？：「損益計算書（P/L)」の読み方
第 13 回	会社の健康状態を診断する：「貸借対照表（B/S)」の読み方
第 14 回	黒字倒産はなぜ起きる？：お金の流れを追う「キャッシュフロー計算書」
第 15 回	総まとめ：後半の振り返りと期末課題提出

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・会計学の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・会計学の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点・受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
・期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

情報処理概論　～データと情報の世界を学ぶ～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

AI の開発が進み、社会や産業は大きく変化しています。これからのデジタル化社会において、データサイエンスや AI に関する知識は必要な教養といえます。本講義「情報処理概論」では、情報機器の仕組みや各種情報技術を学び、データサイエンスの基礎的な理解を深めます。あわせて、情報を扱う際の留意点や情報セキュリティについても指導し、現代社会における課題や問題点について考察します。さらに、IT パスポート試験の問題も扱い、実践的な知識とスキルの習得を目指して指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション、情報処理とコンピュータ、コンピュータの種類
第 2 回	ハードウェアとソフトウェア、コンピュータの歴史
第 3 回	入力装置と出力装置
第 4 回	主記憶装置と補助記憶装置
第 5 回	コンピュータの世界は 0 と 1（コンピュータの扱うデータ）
第 6 回	ソフトウェアとファイルの形式
第 7 回	データベースの仕組み
第 8 回	ネットワーク方式とプロトコル
第 9 回	通信回線と送信方式
第 10 回	セキュリティと脅威の種類
第 11 回	セキュリティ対策
第 12 回	情報セキュリティマネジメント
第 13 回	様々なシステム（システムと導入までの流れ）
第 14 回	情報に関する法制度
第 15 回	AI 最新技術の活用例と AI の留意事項

予習・復習

・予習：情報に関するニュースに関心を持ち、自身で考えること（講義内で取り上げます）。

・復習：講義内で取り扱った用語について、自身で調べ確認をすること。
　　講義内で扱った、IT パスポートの練習問題を再度解いてみること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。
遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。

到 達 目 標

・情報に関する用語を理解することができる。
・コンピュータの仕組みについて理解することができる。
・情報を扱うことのリスクを考え、行動することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
用語理解度（30%）	用語を十分に理解し説明ができる。	用語を十分に理解している。	おおよその用語を理解している。	用語を少しは理解している。	用語をまったく理解していない。
仕組理解度（30%）	仕組みを十分に理解し説明ができる。	仕組みを十分に理解している。	おおよその仕組みは理解している。	仕組みを少しは理解している。	仕組みがまったく理解できていない。
情報リテラシー（40%）	扱う情報の重要性を正確に判断し処理できる。	扱う情報の重要性を正確に判断できる。	扱う情報をおおよその区別はできる。	扱う情報の種類を区別できない。	扱う情報の重要性がわからない。

評価方法

学期末試験（50%）　　授業内課題（30%）　　授業態度（20%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。
全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します）。

文書作成　～MS-Word スペシャリストを目指す～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

MOS（Microsoft Office Specialist）Word は、Word の利用能力を証明する資格試験です。本授業では、資格試験に対応できるスキルを身につけられるよう指導します。資格試験に必要な操作や機能を習得することで、ビジネス文書や各種資料を作成できる能力が向上します。また、授業内では模擬試験問題を解き、実際の試験に備えた対策も行います。MOS Word の取得を目指しながら、実務で活用できる Word の操作力を身につけることを目的としています。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明　タイピング練習の方法　初級の文書作成
第 2 回	ビジネス文書の基本ルール、ビジネス文書の種類、基本的なフォーマット 敬称の種類、頭語と結語、前文と末文
第 3 回	記号と特殊文字、検索と置換、行間、段落の間隔、インデント、書式のコピー、書式のクリア
第 4 回	セクション区切り、段組、段組のある文書の作成
第 5 回	表の作成、表の編集（余白、間隔の設定、結合と分割、高さと幅の調整）
第 6 回	リストの作成、編集（行頭文字、レベルの設定、変更、リスト番号）
第 7 回	表、リスト、段組を含む新規文書の作成
第 8 回	図の挿入、図の書式設定、図の編集、SmartArt の挿入と編集
第 9 回	テキストボックス、図形へのテキスト追加、図の扱い方
第 10 回	文書のスタイル、ページの背景、文書のプロパティ、印刷設定
第 11 回	脚注や文末脚注、資料文献、引用文献、目次の作成
第 12 回	図やテキストボックスを含む新規文書の作成
第 13 回	コメントと変更履歴
第 14 回	総合演習
第 15 回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

・予習：次回講義部分のテキストを読んでくること。

・復習：講義内で扱った練習問題を繰り返し解いてみること。
　　理解が不十分な箇所は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。
遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
また、課題の提出がない場合は出席をしていても単位付与はできません。
資格取得を目標としている学生向けの講義です。
毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。
パソコンの充電は充分にしておいてください。

到 達 目 標

・Microsoft Office Specialist(Word)の資格取得。
・自分の力で、目的のデータを作成することができる。
・他者の作成したデータを理解し、編集することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
資格取得への姿勢 (50%)	MOS 資格の取得。	MOS 資格取得への十分な知識がある。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
応用力 (発想能力) (25%)	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	基本を十分に理解し、機能を組み合わせて結果を出せる。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
読解力 (判断能力) (25%)	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか判断ができない。

評価方法

課題提出（3 回）（60%）　　授業内課題（20%）　　授業態度（20%）

テキスト

・教科書名：『よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Word 365 対策テキスト&問題集』
・著 者 名：株式会社富士通ラーニングメディア
・出版社名：FOM 出版（株式会社富士通ラーニングメディア）
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-86775-069-8）

データ活用　～MS-Excel スペシャリストを目指す～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

MOS（Microsoft Office Specialist）Excel は、Excel の利用能力を証明する資格試験です。本講義「データ活用」では、資格試験に対応できるスキルを身につけられるよう指導します。試験に必要な操作や機能を学ぶことで、Excel を活用したデータ分析や表計算、グラフ作成などができるようになります。さらに、授業内では模擬試験問題を解き、実際の試験に備えた対策も行います。MOS Excel の取得を目指しながら、ビジネスや学習で役立つデータ活用力を養うことを目的としています。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明、タイピング、表計算ソフトの画面構成、基本操作
第 2 回	表の編集：コピーと貼付け、挿入と削除、オートフィル機能
第 3 回	表の編集：テキストの配置、インデント、セルの結合、数値の書式、書式のコピー
第 4 回	表の編集：セルのスタイル、複数シートの扱い、範囲名の設定と参照
第 5 回	データを視覚的にまとめる、条件付き書式
第 6 回	テーブルの作成、スタイルとオプション設定、フィルターと並び替え
第 7 回	関数：相対参照と絶対参照、構造化参照、SUM、AVERAGE、MAX、MIN
第 8 回	関数：相対参照と絶対参照、構造化参照、COUNT、COUNTA、COUNTBLANK
第 9 回	IF 関数と文字列関数：IF、LEFT、RIGHT、MID、UPPER、LOWER、LEN、CONCAT、TEXTJOIN
第 10 回	グラフの編集：グラフシートの作成、グラフの書式設定、グラフの編集
第 11 回	グラフと表の総合演習：要素の追加と変更、データ系列の追加
第 12 回	データの互換：txt、csv、xml のインポート、検索と移動、ハイパーリンクの設定
第 13 回	改ページプレビュー、ヘッダー・フッター、ウィンドウの分割、ファイルのプロパティ
第 14 回	ツールバーの管理、印刷設定、ファイルのエクスポート、ブックの検査、メモとコメント
第 15 回	MOS 試験対策：まとめ、模擬試験問題

予 習 ・ 復 習

・予習：次回講義部分のテキストを読んでくること。

・復習：講義内で扱った練習問題を繰返し解いてみること。
　　理解が不十分な箇所は次の講義までに解決すること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。
遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
また、課題の提出がない場合は出席をしていても単位付与はできません。
資格取得を目標としている学生向けの講義です。
毎授業、パソコンを持参してください。授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。
パソコンの充電は充分にしておいてください。

到 達 目 標

・Microsoft Office Specialist(Excel)の資格取得。
・関数を応用して、目的のデータを作成できるようになる。
・他者の作成したデータを理解し、編集できるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
資格取得への姿勢 (60%)	MOS 資格の合格。	MOS 資格取得への十分な知識がある。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
応用力 (発想能力) (20%)	使用したことのない機能でも自分で調べ活用できる。	基本を十分に理解し、機能を組み合わせて結果を出せる。	ヒントを与えれば、問題に解答できる。	指示通りに操作はできるが、理解が不足している。	1 つ 1 つの機能の理解が足りない。
読解力 (判断能力) (20%)	作成者の意図を理解した上で、データをアップグレードできる。	作成者の意図を理解し、編集作業ができる。	ヒントを与えれば理解し、編集作業ができる。	指示通りに操作はできるが、自分自身で判断ができない。	どのようにしたらよいか判断ができない。

評価方法

課題提出（3 回）（60%）　　授業内課題（20%）　　授業態度（20%）

テキスト

・教科書名：『よくわかるマスター　Microsoft Office Specialist　Excel 365 対策テキスト&問題集』
・著者/製作：株式会社富士通ラーニングメディア
・出版社名：FOM 出版（株式会社富士通ラーニングメディア）
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-86775-056-8）

インターンシップ　～現場実習を通して職場意識を高めよう～	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社において様々な業界との取引や社員教育・育成などの実務経験に基づき、企業等での現場実習を体験します。これに先立ち現場実習のための準備として、仕事や就職活動の方向性の確認、現場実習に向けての履歴書の作成、ビジネスマナーの習得等を行います。実習後は報告書の作成と報告会等を行います。実習と事前・事後指導を通して、就職活動・就職への意識を高めるための指導をする。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	履修者の選考
第 2 回	授業の進め方
第 3 回	＜事前指導＞
第 4 回	＜事前指導＞履歴書等、必要書類の作成
第 5 回	＜事前指導＞実習先に関する研究
第 6 回	＜事前指導＞実習本番への準備（マナー）
第 7 回	＜事前指導＞実習報告の準備（プレゼン準備）
第 8 回	〔現場実習〕
第 9 回	〔現場実習〕各々の実習先での現場実習
第 10 回	〔現場実習〕日報の記載・提出
第 11 回	〔現場実習〕お礼状の作成と送付
第 12 回	≪事後指導≫
第 13 回	≪事後指導≫実習の内容と成果について
第 14 回	≪事後指導≫各自 PowerPoint を使用してのプレゼン
第 15 回	実習報告会

予習・復習

・予習：実習先への提出書類作成準備、実習先での留意事項、マナーなどのおさらい

・復習：日報を作成して、学んだことを振り返る。実習報告会の準備、就職活動と就職に活かせることをまとめておく。

履修上の注意

・履修者選考（第１回授業で実施）の合格者だけが履修登録をすることができます。
なお定員は最大でも８名程度です。
・履修者の選考は、前期科目履修状況（特に遅刻・欠席)、面接等総合的に行います。
・後期総合ガイダンスの日に説明会を実施します。
・現場実習はもちろん、事前・事後指導も、授業時間外に実施する場合があります。もちろん、事前の調整・連絡は致しますので、連絡のチェックを怠らないようにして下さい。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は原則不可とし、正当な理由のない遅刻、欠席の累計が６回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・ビジネス現場で実際に働く事を通じて、仕事の流れや職場における人間関係のあり方などを体験する。
・働く事の面白さと難しさ、働く事の意義を考えるとともに、就職への意識を高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

現場実習（50%)、事前・事後における受講態度（50%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

教科書はありません。必要な資料は適宜配付しますので、受け取りと管理を各自適切に実行してください。

流通ビジネス論

～流通業の現実と流通業の様々なタイプを学ぶ～

平野　英一

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

流通とは、生産と消費の間の懸隔をつなぐための社会的な仕組みであり、その構成要素は具体的には生産者、卸売業者、小売業者、消費者といった主体からなる。流通ビジネスに関わる企業がどんなに優れた製品を工場で生産しても、また農家がどんなにおいしい果物を栽培したとしても、最終的に消費者の手に渡るには流通というしくみがなくてはならないのである。流通現象を理解するための基礎理論を具体例や事例を用いながらわかりやすく学習していく。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	1.流通の概念とその役割: 流通ビジネスへのイントロダクション
第 2 回	2.流通の社会的役割と流通機構
第 3 回	3.流通ビジネス事例研究①「セブンイレブン」(コンビニエンスストア)
第 4 回	4.流通機能（1）所有権の流れに関する機能
第 5 回	5.流通機能（2）財（商品）の流れに関する機能
第 6 回	6.流通機能（3）情報の伝達に関する機能
第 7 回	7.流通ビジネス事例研究②「ドン・キホーテ」(ディスカウントストア)
第 8 回	8.消費者と流通
第 9 回	9.生産者と流通
第 10 回	10.流通ビジネス事例研究③「サミット」(総合スーパー)
第 11 回	11.流通ビジネス（商業）の存立基盤　～取引数単純化の原理とは～
第 12 回	12.小売業の役割と機能
第 13 回	13.小売業の構造と諸形態（諸業態）
第 14 回	14.流通ビジネス事例研究④「国分（こくぶ)」(大手食品老舗卸売業、創業 320 年)
第 15 回	15.流通ビジネスの新動向と未来像

予習・復習

・予習：事前に提示される資料を読み込み、これらについての理解を深め、不明な点や自身の問題意識をまとめ、その上で授業にのぞむことが予習として必要である。
・復習：授業で不明な点や問題意識に対する認識が明確となり、知識をえることになるが、そこから応用として、学習した理論や枠組みが、自身に身近な企業でどのように適合しまた異なる事項は何かなどを整理することが求められることと、授業で説明した以外の別企業の事例を分析することや問題解決の提案をまとめてもらうことが求められる。

履修上の注意

・授業開始後 10 分以上遅れての教室入室は遅刻とする。また、遅刻 3 回で欠席 1 回となる。
・当該授業では、予習（授業資料を事前に読んでおくこと)、そして授業後の課題があるのでこれらを毎回こなしていくことが求められる
・少人数の授業であれば、グループでの議論などの時間をとり、議論内容について授業最後に発表してもらうことを予定している
・休まず授業に出席し、毎回の課題などをこなしていくことが求められる
・マイクロソフト社の Teams を活用し授業資料を事前に配信する（使い方等は、授業時に説明する）
・やむを得ない理由等により、授業担当者が出講できない場合などは、Teams を活用しオンラインで授業を行うことがある

到達目標

流通ビジネスの社会的役割や流通ビジネスの機能に関する基本的な学問的枠組みを学習する。特に、流通に関する基礎理論や分析手法を学び、流通現象をみる視点を身につけ流通の本質的意義に関する理解を深める。当該授業科目は流通の基礎を学ぶ授業であるだけに、その教育上の到達目標は基本的な流通の知識を身につけ知見を深め理解を徹底することとなる。

流通ビジネスの社会的役割や流通ビジネスの機能に関する基本的な学問的枠組みを学習する。特に、流通に関する基礎理論や分析手法を学び、流通現象をみる視点を身につけ流通の本質的意義に関する理解を深める。当該授業科目は流通の基礎を学ぶ授業であるだけに、その教育上の到達目標は基本的な流通の知識を身につけ知見を深め理解を徹底することとなる。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要

となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②，③の力を身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

受講者たちは、まず流通のしくみと現実について基本的な知識・知見をまずは身につける。それから、それを前提に流通に関する現象や問題に対して理解ができるような力をつける。そしてそうした問題・現象に対して深く思考・考察するとともに、他者や外部の人にわかりやすく説明できるようになることが行動目標となる。さらに、流通の新しい動きに対して自分の意見をまとめ述べ、表明することができるようになること、すなわち判断し評価し提案することができるようになることが最終的な到達目標である。

ところで、私たちはコンビニエンスストアやスーパー、専門店で買物をしますが、そういった店舗で売られている商品がどこからどのようにして小売店に辿り着いたのか、また、どのような人が関与し、どのような働きをしているのかについてはそれほど考えたことはないと思います。流通とは、商品の生産と私たち消費者の消費を有機的に結びつける極めて重要な活動で、流通の良し悪しが私たちの生活の質を規定するといっても過言ではありません。しかも、消費の側である私たち消費者と密接であるため、消費者の変化が敏感に影響することも特長の一つでしょう。本授業では、その中核をなす小売業と卸売業に焦点をあて、実際の事例を採り入れながらマーケティングや経営の戦略を学びます。この授業を受けることにより、流通のしくみや現在の流通業が直面している問題について知ることができ、流通ビジネスの変化についての知識も会得できるようになります。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②，③の能力の身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
① 学習した内容の理解度（40%）	学習した内容について十分に理解した上で、それを応用できる	学習した内容について概ね理解できている	学習した内容の知識や枠組みの基本的事項について、理解ができている	学習した内容の基本的知識や枠組みが断片的な側面のみ理解できている	学習した内容の理解が十分ではなく、積極的に学習を深める必要がある
② 実際の事例・具体例に対する分析力・考察力（30%）	実際の事例・具体例に対する分析や考察が十分かつ適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が概ね適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が部分的には適切であるといえる	実際の事例・具体例に対する分析や考察が適切ではなく、みずから他の例の学習を行う必要がある	実際の事例・具体例に対する分析や考察が不適切であり、事前を再度行い、授業を再度学習する必要がある
③ 問題・課題への解決力改善のための提案力（30%）	問題・課題に対して適切な認識ができていて、優れた解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して一定の認識ができていて、概ね妥当な解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して認識が曖昧で、解決・改善のための提案がなされているが不充分である	問題・課題に対して認識が正しくなく、解決・改善のための提案も適切ではない	問題・課題に対して認識が完全に誤っており、このため解決・改善のための提案も誤ったものとなっている

評価方法

・最終レポートまたは最終筆記試験（40%）、授業時・授業後の課題（40%）、授業への積極的参加（発言、質問への回答など）（20%）
・最終レポートまたは最終筆記試験は、授業の最後または試験期間中に課される
・授業時または授業後に課題が課され、これを提出することで課題の得点となる

テキスト

テキスト（教科書）は指定しないが、参考書として以下を提示する
・参考書名：『 新・流通と商業（第６版）』
・著者名：鈴木安昭著【東伸一・懸田豊・三村由美子 補訂】
・出版社名：有斐閣
・出版年（ISBN）：2016 年（978-4-641-16467-3）

ベンチャービジネス論

～自ら考え主体となって働くことの意義と大切さを学ぶ～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

起業する・しないに関わらず、将来のビジネス実務において、自ら考え主体となって働くことの意義と大切さを学ぶために、「ベンチャースピリット／アントレプレナーシップ」を『起業家の精神と行動能力』と定義し、担当教員の GMO インターネットグループへの参画で得た実務経験に基づいて、ベンチャービジネスの具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容	
第 1 回	イントロダクション（ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを学ぶことの重要性） ベンチャービジネスの定義／伝統的企業との違い／イノベーションとは？	
第 2 回	(1) 事業機会の発見とアイデア考案	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス①
第 3 回	(1) 弱者が圧倒的に勝つための法則	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス②
第 4 回	(1) 儲ける仕組み（ビジネスモデル）	(2) ケーススタディ 萌芽期のベンチャービジネス③
第 5 回	(1) 目標を達成するための作戦	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦①
第 6 回	(1) 事業計画の立案（ﾘｰﾝｽﾀｰﾄｱｯﾌﾟ）	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦②
第 7 回	(1) ベンチャーのマーケティング	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦③
第 8 回	(1) チームビルディング	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦④
第 9 回	(1) 事業の成長	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑤
第 10 回	(1) お金の調達	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑥
第 11 回	(1) 総括 ①：ベンチャースピリット	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑦
第 12 回	(1) 総括 ②：ゴールの先にあるもの	(2) ケーススタディ 水道を救え AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦⑧
第 13 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 14 回	ベンチャービジネスの実例を調べる（グループワークによる資料作成） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	
第 15 回	ベンチャービジネスの実例を発表する（グループによるプレゼンテーション） ビジネスモデル／戦略目標と戦術／成長の要因／ベンチャースピリットなど	

予習・復習

- 予習：教科書の指定された範囲を必ず講義までに読み、自分の意見をまとめておくこと （他に、授業内で事前準備の指示あり）。
- 復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー） に記入し、次回講義までに必ず提出すること （他に、授業内で提出課題の指示あり）。

※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 授業内容は、前半「(1)講義形式」、後半「(2)指定テーマ及びケーススタディについてのディスカッション（反転授業・アクティブラーニング形式)」とする。
2. 経済や産業の変化、最先端テクノロジーの進化や業界のトレンドを自ら学び、どの事象が自身にとって重要な出来事なのかを考え、将来のキャリアの方向性を見出すこと。
3. ベンチャー（スタートアップ）企業のホームページやニュース記事、起業家の著書などを調べる習慣を身につけること。
4. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
5. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
6. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. 自ら考え主体となって働くために（もしくは、起業・事業創造に）必要不可欠なマインドセットとスキルであるベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解する。
2. 「ベンチャービジネスの実例（または、オリジナルのビジネスプラン)」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解（40%）	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップの理解にとどまらず、事業構想力まで習得できている。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップを理解している。	ベンチャービジネスの特徴を理解している。	ベンチャービジネスの特徴をある程度理解している。	ベンチャースピリット／アントレプレナーシップもベンチャービジネスの特徴も理解していない。
ベンチャービジネスの実例の説明（60%）	特定のベンチャービジネスについて、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	特定のベンチャービジネスについて、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	特定のベンチャービジネスについて、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	特定のベンチャービジネスについて、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

前期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

・教科書名：水道を救え ―AI ベンチャー「フラクタ」の挑戦―
・著 者 名：加藤 崇
・出版社名：新潮社
・出 版 年（ISBN)：2022 年（978-4-10-610973-7)
※講義で用いた資料は Microsoft Teams の「ベンチャービジネス論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること)。

秘書実務　～オフィスで役立つスキルを身につける～

原　かおり

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

近年、「ハラスメント」という言葉が広く使われるようになり、職場での問題がニュースで取り上げられています。また、リモート業務やAIの導入により、働き方や職場環境が変化し、これまで以上にコミュニケーション力が求められています。本授業「秘書実務」では、「秘書」という職種に限定せず、ビジネスマナーや一般的な礼節に関する知識など、社会人に必要な基礎知識を幅広く学びます。さらに、授業内では秘書検定の問題にも取り組み、実践的なコミュニケーション能力を身につけることを目指して講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画の説明　秘書の資質とは
第 2 回	第一印象：身だしなみ・表情・目線・美しい所作
第 3 回	コミュニケーション基礎：伝わる話し方・わかりやすい話し方・上手な聞き方
第 4 回	言葉使いー正しい敬語の使い方：尊敬語・謙譲語・丁寧語・美化語
第 5 回	コミュニケーション応用：ビジネス会話マナー　クッション言葉・ビジネス慣用句 信頼される話し方
第 6 回	一般知識：カタカナ用語・略語・ビジネス用語（労務・会計・法律）
第 7 回	仕事のマナー：社内編（役割と業務内容）
第 8 回	仕事のマナー：社外編（アポイント・訪問時のマナー）
第 9 回	郵便の知識（種類と扱い）・会議の知識（種類と形式、必要な業務）
第10回	電話対応：基本対応・取り次ぎ・クレーム電話の対応・携帯電話のマナー
第11回	ビジネス文書の基本ルール：社内文書・社外文書・文書の取り扱い
第12回	ビジネス文書の基本ルール：社交文書・メール・FAX・お決まりのフレーズ
第13回	ビジネスでの慶事・弔事のマナー
第14回	プレゼンテーション資料の作成・ZOOM面接のチェック項目
第15回	ハラスメントを考える・まとめと振り返り

予習・復習

・予習：予告された内容について、調べ予習をすること。

・復習：講義内で出てきた用語について自身で調べ覚えること。また、日常使えるスキルは即実践すること。
　　講義内で解いた秘書検定の問題を再度自身で解いてみること。

履修上の注意

授業開始後 30 分までの入室は遅刻として受講を認めます。30 分を超えての入室の場合は欠席扱いとします。
遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとなり、欠席 6 回以上で単位付与はしません。
授業の進行状況によって、講義内容が前後する場合があります。

到 達 目 標

・ビジネス用語を理解し、使えるようになる。
・場面に応じた立ち居振る舞いができるようになる。
・自分の意思や考えをきちんと伝えられるようになる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
用語理解度（30%）	十分に理解した上で、実践で応用できる。	用語を理解し、実践で活用できる。	ヒントがあれば、用語と意味が一致する。	用語は知っているが意味と一致していない。	各用語についての理解ができていない。
相手の立場を理解し行動する（30%）	相手の立場を理解し、期待以上の行動ができる。	相手の立場を理解し、行動することができる。	相手の立場を理解しているが、行動があと一歩及ばない。	相手の立場を理解しているが、行動ができない。	相手の立場を理解できない。
伝達能力（40%）	伝えたい内容をすべて、正確に伝えることができる。	伝えたい内容を伝えることができる。	伝えることはできるが、確認が必要なレベル。	伝えるべき内容に誤解を招く表現がある。	伝えたい事がまとまらない。

評価方法

学期末試験（50%）　　授業内課題（30%）　　授業態度（20%）

テキスト

指定のテキストはありません。毎授業、ワークシート形式のプリントを配付します。
全講義が終了した時に、各自のオリジナルテキストが完成します。
プリントを入れるファイル（A4 版）を用意してください（初回の講義で説明します)。

コンテンツビジネス論　～日韓エンタメ産業の比較～

黄　仙惠

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

・コンテンツビジネスの概念を整理し、ジャンルごとの特性について講義する。
・自身の利用・体験を踏まえ、ファン（消費者）の視点から消費者行動を分析・考察する。
・コンテンツ関連のビジネス事例を通じて、その成功要因を理解する。
・グローバルな視野を念頭に置き、今後のコンテンツ市場の展望について理解を深める。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	（総合）オリエンテーション
第 2 回	（総合）コンテンツビジネスの概念と IP ビジネス
第 3 回	（映像）グループワークショップとディスカッション（テーマ：日韓における国際協業）
第 4 回	（音楽）グループワークショップとディスカッション（テーマ：J-POP と K-POP の比較）
第 5 回	（ドラマ）「番組」から「商品コンテンツ」への変貌（発表とディスカッション）
第 6 回	（音楽）K-POP にみるグローバル戦略（発表とディスカッション）
第 7 回	（漫画）スマートフォンに適するウェブトゥーンの現状（発表とディスカッション）
第 8 回	（ゲーム）e スポーツの出現と興行ビジネスの実態（発表とディスカッション）
第 9 回	（公演）ライブの強みとデジタルメディアの最先端（発表とディスカッション）
第 10 回	（ニューメディア）メタバース、新たな産業への可能性（発表とディスカッション）
第 11 回	（文化政策）韓流と文化政策（発表とディスカッション）
第 12 回	（海外展開）クールジャパン戦略と海外展開の支援策（発表とディスカッション）
第 13 回	（SNS）ファンダム形成によるビジネス事例（発表とディスカッション）
第 14 回	（プラットフォーム）配信サービスとグローバル（発表とディスカッション）
第 15 回	（映画）国際共同制作、映画際の役割（グループ発表とディスカッション）

予習・復習

・予習：事前レポート作成または発表準備

・復習：授業内容のまとめと事後レポート作成

履修上の注意

本授業は、今後実社会で活動するうえで必要となるコンテンツビジネスに関する基礎的な教養を身につけることを目的とし、幅広く総合的な内容で構成する。その一環として、各自がテーマを設定し、毎回の授業においてテーマ発表を行う。なお、授業内容は受講学生の習熟度に応じて変更する場合がある。遅刻および私語については、成績評価において厳正に対処する。(※遅刻 3 回で欠席 1 回としてカウントする。授業開始後 20 分以内は遅刻扱い、20 分以上の遅刻は欠席扱いとする)。

授業進行の都合上、ノートパソコンの持参を求める。

到 達 目 標

・コンテンツビジネス業界に関する実践的な基礎知識を身につけることができる。
・コンテンツ市場の構造および最新トレンドについて説明することができる。
・市場ごとに異なるコンテンツの特性について説明することができる。
・コンテンツビジネスにおけるグローバル展開の必然性について説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 (30%)	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 (25%)	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文書で説明する力（レポート) (25%)	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
参加意欲 (20%)	グループ発表やディスカッションに参加し、8回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、6回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、4回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加し、2回以上発言する。	グループ発表やディスカッションに参加せず、発言しない。

評価方法

・中間レポート（複数）：40%
・授業への取り組み（出席）・発表（相互評価）：30%
・期末レポート：30%

テキスト

教科書に加え、適宜スライドを使用し、学生の視覚的理解の向上を図る。スライド資料は毎回授業後配布する。なお、配布資料、課題および各種連絡事項は、すべて Microsoft Teams を通じて共有する。
・教科書名：韓国ドラマ全史 なぜ世界的ヒットを連発できるのか？
・著 者 名：黄仙惠
・出版社名：ディスカヴァー携書
・出 版 年（ISBN）：2025 年（9784799331323）

サービスビジネス論～商品とは異なるサービスのビジネスの魅力と特質を知る～

平野　英一

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

経済のサービス化が進展し、多くの企業はサービスの生産と販売を手掛けるようになり、一般の消費者の約 70%程度の消費支出の対象がサービスとなっている。本授業ではサービスの概念、分類、特性などについて学習し、そのビジネスの特質について学習する。近年サービスに関する研究が進み、多様な知見の集積と体系化が図られてきた。特に、サービスに関してはサービスマーケティングという研究分野での研究が積み上げられ、一定の学問知識体系が構築されてきた。本講義では、サービスマーケティングの観点から、サービスのビジネスとは、モノ（製品）を基軸におく従来のビジネスとは何がどのように異なるのか、考察を行う。サービスに関する眼を養い、批評し分析する力を身につける。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	1.サービスの範囲と概念: イントロダクションとして
第 2 回	2.サービスの分類とサービス・エンカウンター
第 3 回	3.プロダクト（製品）vs. サービス: プロダクトとサービスの違いは何か
第 4 回	4.サービスビジネス事例・業界研究①「日本航空（JAL)」(エアラインビジネス)
第 5 回	5.サービスを捉えるフレームワーク①: 劇場アプローチとサーバクション・システム
第 6 回	6.サービスを捉えるフレームワーク②: 7Ps（サービスマーケティングの 7Ps)
第 7 回	7.サービスをめぐる設備環境のデザインと有形化戦略
第 8 回	8.サービスビジネス事例・業界研究②「JR 東日本」(鉄道ビジネス)」
第 9 回	9．プロダクト（製品）としてのサービスの製品戦略とその品質管理
第 10 回	10. サービスの価格設定
第 11 回	11. サービスビジネス事例・業界研究③「ホテル業界」(主要ホテルや星野リゾートのビジネス)
第 12 回	12. サービスのプロモーション戦略
第 13 回	13. .サービスの流通戦略
第 14 回	14. サービス・ドミナント・ロジックの論理と枠組み: プロダクト・ドミナント・ロジック vs. サービス・ドミナント・ロジック
第 15 回	15. サービスビジネスの新動向とサービスビジネス研究の今後の行方

予 習 ・ 復 習

・予習 : 事前に提示される資料を読み込み、これらについての理解を深め、不明な点や自身の問題意識をまとめ、その上で授業にのぞむことが予習として必要である。
・復習 : 授業で不明な点や問題意識に対する認識が明確となり、知識をえることになるが、そこから応用として、学習した理論や枠組みが、自身に身近な企業でどのように適合しまた異なる事項は何かなどを整理することが求められることと、授業で説明した以外の別企業の事例を分析することや問題解決の提案をまとめてもらうことが求められる

履修上の注意

・授業開始後 10 分以上遅れての教室入室は遅刻とする。また、遅刻 3 回で欠席 1 回となる。
・当該授業では、予習（授業用の資料事前に読んでおくこと)、そして授業時・授業後の課題があるのでこれらを毎回こなしていくことが求められる
・少人数の授業であれば、グループでの議論などの時間をとり、議論内容について授業最後に発表してもらうことを予定している
・休まず授業に出席し、毎回の課題や授業後の課題などをこなしていくことが求められる
・マイクロソフト社の Teams を活用し授業資料を事前に配信する（使い方等は授業時に説明する）
・やむを得ない理由等により、授業担当者が出講できない場合などは、Teams を活用しオンラインで授業を行うことがある

到 達 目 標

昨今注目が高まるサービスのビジネスは従来のプロダクト（製品、モノ）を基軸とするビジネスと比べ、複雑で高度な理論体系が構築されている。これら高度で複雑な知見を身につけ、サービスビジネスに関わる現象を分析できる能力を身につけることが本授業の目的である。また、現実のサービスに係るビジネス現象を正しく把握し、問題や課題の発見、そうした事項の原因の解明、そして解決策の提案などの実践的な能力を発揮することが受講者達の到達目標である。そして、極力サービスビジネスのコンサルタントとしての基本的な能力を涵養することが最終的なねらいといえる。

サービスの概念は複雑で広範に及ぶものであるが、今日多くの企業が扱うのが”サービス“であり、製品を扱う企業であっても何らかのかたちでサービスを理解しておくことが重要といえる。例えば、モノをつくっているメーカーであっても、保証やアフターサービスのため、また顧客からの声を聴くためにサービス事業を行っているのである。何より、大学の教育は重要かつ高額なサービス商品である。サービスの生産者・提供者という立場だけではなく、サービスの受益者・利用者として、サービスビジネスの知見を身につけ、それに関する観察眼を養うことは大いに役立つものと思われる。

このことを段階的に分解して理解すると、まず学習内容の理解（①学習内容の理解）が重要となる。理解するためには、事前に資料・参考書・WEB 上の正しく適切な情報などを授業前に読み込み、不明な点は自ら調べ、それでもわからない点や問題意識を持って授業にのぞみ、そして授業での完璧な理解を得ることがまず重要となる。続いて、理解をもって得た知識、知見を活用して、実際の事例や具体例を分析し考察できる能力（②分析力・考察力）を身に付け磨いていくことが求められる。これを実現するには、授業時によく聴き想像力をはたらかせて、授業以外で関心や問題意識のある事例や具体例の現状や課題を適切に認識し、その原因を分析したり、構造的な問題を正しく見極めたりすることができるようになることが肝要である。さらに、求められるのが、③応用力（課題や問題の解決力、提案力）が求められる。実際の流通ビジネスの現場を想定した課題や問題が授業後の課題として提示され、それに対する自身の課題・問題に対する改善、解決のための具体的な提案を示せるかどうかがこの能力といえる。さらに、企業等で働いていれば、④実績・成果（結果）が求められる、ということになるが、大学での授業では①、②，③の能力の身に付けて発揮できる状況になることが到達目標となる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
① 学習した内容の理解度（40%）	学習した内容について十分に理解した上で、それを応用できる	学習した内容について概ね理解できている	学習した内容の知識や枠組みの基本的事項について、理解ができている	学習した内容の基本的知識や枠組みが断片的な側面のみ理解できている	学習した内容の理解が十分ではなく、積極的に学習を深める必要がある
② 実際の事例・具体例に対する分析力・考察力（30%）	実際の事例・具体例に対する分析や考察が十分かつ適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が概ね適切である	実際の事例・具体例に対する分析や考察が部分的には適切であるといえる	実際の事例・具体例に対する分析や考察が適切ではなく、みずから他の例の学習を行う必要がある	実際の事例・具体例に対する分析や考察が不適切であり、事前を再度行い、授業を再度学習する必要がある
③ 問　題・課題への解決力改善のための提案力（30%）	問題・課題に対して適切な認識ができていて、優れた解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して一定の認識ができていて、概ね妥当な解決・改善のための提案がなされている	問題・課題に対して認識が曖昧で、解決・改善のための提案がなされているが不充分である	問題・課題に対して認識が正しくなく、解決・改善のための提案も適切ではない	問題・課題に対して認識が完全に誤っており、このため解決・改善のための提案も誤ったものとなっている

評価方法

・最終レポートまたは最終筆記試験（40%）、授業時・授業後の課題（40%）、授業への積極的参加（発言、質問に対する回答、口頭発表など）（20%）
・最終レポートまたは最終筆記試験は、授業の最後または試験期間中に課される
・授業時または授業後に課題が課され、これを提出することで課題の得点となる

テキスト

テキスト（教科書）は指定しないが、参考書として以下を提示する
・参考書名：『サービスマーケティング入門』
・著者名：山本昭二
・出版社名：日本経済新聞社（日経文庫）
・出 版 年（ISBN）：2007 年（9784532111342）

国際経営論　～国際的な企業戦略、国際展開の仕組みを知る～

藤野　洋

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

世界はグローバルな規模で大きく変化しています。グローバリゼーション、情報化、ネットワーク化などの言葉に代表されるように国家や企業にとって従来とは違う状況が作り出され、国や企業を取り巻く環境は大きく変貌を遂げています。これを踏まえて、海外進出企業について深く学びます。日本企業の海外展開、多国籍企業、国際経営戦略、国際マーケティング、国際経営マネジメント、新興市場など国際経営に関する内容を学びます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション:国際経営論の内容
第 2 回	国際経営戦略
第 3 回	国際マーケティング
第 4 回	海外生産
第 5 回	技術移転と海外研究開発
第 6 回	国際経営マネジメント①
第 7 回	国際経営マネジメント②
第 8 回	前半（1～7回）のまとめとレポート作成
第 9 回	北米・欧州の中の日本企業
第 10 回	アジアの中の日本企業
第 11 回	新興国市場と日本企業
第 12 回	サービス企業の海外進出
第 13 回	国際経営の新展開
第 14 回	分断の国際経営
第 15 回	後半（9～14回）のまとめとレポート作成

予習・復習

・予習：事前に配布する講義資料の該当箇所を授業の前に必ず読んでおくこと

・復習：授業での教員の発言も含め、どのような内容であったかを思い起こし講義資料を利用して確認する

履修上の注意

・この科目は経営学総論、経営学、経営管理論、経済学などと多様なつながりがあるので、関連科目を履修していることが望ましい。
・始業時刻には着席しておくこと。遅刻は 15 分以内の場合に認めます（15 分超の遅刻は欠席として扱います)。ただし、公共交通機関の遅延等で挙証資料の提出が可能、かつ大学が把握している事情がある場合には救済措置を検討します。

到 達 目 標

(1)海外進出企業の実態や課題について理解し、特徴について説明できる。
(2)より専門的な知識を深め、企業の国際展開について分類して論ずることができる。
(3)個々の国際企業を国際的な企業戦略の視点から見る眼を養う。国際展開の仕組みや経営を考える力を養い、マーケットと経営の関連性についての意識を高めながら、常に競争状況、社会的背景、戦略の三つの視点から企業を観察し表現することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（60%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる	授業内容をほぼ100%理解している	理解はしているが授業内容について理解が多少不足している	授業内容を最低限理解している	授業内容についての理解ができていない
課題を文章で説明する力（レポート）（40%）	他人を説得する内容が記述できること	論理構成が整った説明文を記述することができる	不足する点があるが、説明文を書くことができる	最低限の内容について説明ができる	内容についての説明ができない

評価方法

１．第 8 回・第 15 回以外の回に課すレポート 40%（授業の内容に基づき出題する）
２．第 8 回と第 15 回のレポート 60%（第 8 回（前半のまとめ)、第 15 回（後半のまとめ）の授業の後に実施し、終了時間内に回収します)

テキスト

テキストは使用しません。参考書は、吉原英樹著『国際経営　第 5 版』有斐閣 2021 年です。

インターネットビジネス　～就活前に知っておきたい、IT とビジネスの必須知識～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

私たちが普段何気なく使っている Amazon、Instagram、LINE、YouTube。これらはいすれも「インターネットビジネス」の成功例です。しかし、なぜ無料で使えるサービスが莫大な利益を生むのか？

本授業では、実際の企業事例を紐解きながらインターネットビジネスの「裏側（仕組みと収益モデル）」を講義します。ハードウェアや通信の基礎知識から、最新のフィンテックやシェアリングエコノミーまでを網羅的に学ぶことで、サービスの「利用者」から、インターネットを活用したビジネスを「企画・運営する側」へと視野を広げることを目指します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション：授業の全体像と進め方、評価方法および受講上の注意点
第 2 回	スマホや PC の中身はどうなっている？：コンピュータとハードウェア
第 3 回	アプリはなぜ動くのか：コンピュータとソフトウェア
第 4 回	0 と 1 で世界を表現する：コンピュータとデジタル情報
第 5 回	世界中とつながる仕組み：インターネットの構造
第 6 回	モノがネットにつながる未来：IoT とビッグデータ
第 7 回	場所にとらわれない働き方と技術：クラウド技術とテレワーク
第 8 回	「つながり」を価値に変える：ICT とソーシャルメディア
第 9 回	大切なデータを守る：情報資産と情報セキュリティ
第 10 回	IT で勝つための企業戦略：情報技術とビジネス戦略
第 11 回	「基本無料」でなぜ儲かる？：インターネットビジネスとフリーミアム戦略
第 12 回	「場」を提供するビジネスモデル:インターネットビジネスと三者間市場（プラットフォーム）
第 13 回	所有から利用へ：シェアリング・エコノミー
第 14 回	共感が資金を集める：クラウドファンディング
第 15 回	お金の常識が変わる：インターネットとフィンテック

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計 6 回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・インターネットビジネスの基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・インターネットビジネスの知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点：７０%（授業内リアクションペーパーの提出をもって総合評価する）
・期末試験：３０%（配付資料やノート等は持込可）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

簿記Ⅲ　～簿記の応用を学ぶ～	稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	4	選択	専門科目　選択

授業概要

簿記Ⅰ・Ⅱでは、商業の小企業で必要とされる簿記上の入門的、基礎的な知識および技術を修得しました。簿記Ⅲでは、簿記Ⅰ・Ⅱよりは高度な、商業の中企業で必要とされる簿記上の知識および技術を講義します。

授業計画

授業回	授業内容	授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス	第 16 回	中間試験
第 2 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(1)	第 17 回	株式会社の純資産(1)
第 3 回	簿記Ⅰ・Ⅱ(3級レベル)の復習(2)	第 18 回	株式会社の純資産(2)
第 4 回	現金預金(1)	第 19 回	株式会社の純資産(3)
第 5 回	現金預金(2)	第 20 回	リース会計
第 6 回	有価証券(1)	第 21 回	外貨取引
第 7 回	有価証券(2)	第 22 回	税効果会計
第 8 回	手形	第 23 回	決算(1)
第 9 回	その他の債権債務	第 24 回	決算(2)
第 10 回	一般商品販売(1)	第 25 回	本支店会計(1)
第 11 回	一般商品販売(2)	第 26 回	本支店会計(2)
第 12 回	固定資産(1)	第 27 回	連結会計(1)
第 13 回	固定資産(2)	第 28 回	連結会計(2)
第 14 回	引当金(1)	第 29 回	連結会計(3)
第 15 回	引当金(2)	第 30 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 「簿記Ⅰおよび Ⅱ」の単位取得者、または、日商簿記検定 3 級もしくは全商簿記 2 級商業簿記程度の学習をすでに終えている人が対象です。
2. 毎回電卓を持参してきてください。
3. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①やや高度な個別処理が理解できる。②決算が理解できる。③本支店会計が理解できる。
本講受講後に、全経簿記 2 級商業簿記には合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　2 級商業簿記』
・著 者 名：渡部裕亘・片山　覚・北村敬子編著
・出版社名 ：中央経済社
・出 版 年（ISBN）：2026 年(　　後日　　)

経営分析論

～ブラック企業回避から株式投資まで。使える「会社を見る目」を養う～

劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

「有名な会社だから安心」「給料が高そうだから志望する」。その選び方で、本当にあなたの未来は守れるでしょうか？企業が公開している決算書は、重要な判断材料です。経営分析とは、企業の「健康状態」を冷静に診断するスキルです。

本授業では、難しい数式の暗記はありません。前半は「就活生視点」で、ブラック企業を回避し、長く安心して働ける「ホワイト企業」を見抜く方法を学びます。後半は「投資家視点」で、株価や配当の仕組みを理解し、資産を増やすための企業評価スキルを養います。

経営分析に強い人材になり、キャリアと資産形成の両面で「賢い選択」ができるようになることを目指して講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：授業の狙い、全体像、評価方法
第 2 回	会社の「健康診断」入門：イメージや噂に騙されない、正しい情報の集め方
第 3 回	【就活編 1】給料が良い会社の秘密：経営成績と「平均年収」の関係
第 4 回	【就活編 2】その会社、10 年後はどうなっているか？：「成長性」の見抜き方
第 5 回	【就活編 3】本業で稼ぐ力はあるか？：「収益性」とビジネスモデル
第 6 回	【就活編 4】倒産リスクを見抜く：「安全性」と自己資本比率
第 7 回	【就活編 5】お金の流れは嘘をつかない：「キャッシュフロー」のパターン
第 8 回	中間まとめ：自分が入りたい「良い会社」の定義とは？
第 9 回	【投資分析編 1】資産を有効活用できているか？：「総資産回転率」
第 10 回	【投資分析編 2】会社の総合力を判定する：「ROA（総資産利益率)」
第 11 回	【投資分析編 3】株主のお金をどう増やした？：「ROE（自己資本利益率)」
第 12 回	【投資分析編 4】株価は割安か、割高か(1)：「PBR（株価純資産倍率)」
第 13 回	【投資分析編 5】株価は割安か、割高か(2)：「PER（株価収益率)」
第 14 回	【投資分析編 6】株主への還元を知る：「配当性向」と「配当利回り」
第 15 回	総まとめ：経営分析スキルを活用し、キャリアと資産をデザインする

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・経営分析論の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・経営分析論の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点・受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
・期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

民法　～「人生の必修科目」～

三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

民法とは、私たち一般市民の間の関係について定めた法律である。

法律というと、皆さんには「難しい」、「お堅い」などと思われるであろう。しかし、コンビニでお茶を買うのも、大学に来るのに電車やバスに乗るのも「契約」という法律に定められた行為に基づくものである。また、婚姻（結婚）も法律に定められた行為である。これらは、全て民法に規定されている。そうすると、民法というのは実は私たちにとって非常に身近なもので、生きていくうえで否が応でも関わらざるを得ない法律だということが分かって頂けるだろう。

また、皆さんには、法律は、私たちを縛るルールであると思われるかもしれない。確かにそういった側面があることは否めないが、一方で、法律は私たちを守ってくれるものでもある。交通事故に遭った場合に被害弁償をしてもらう、配偶者に浮気されたので離婚してもらうなどといったような場合に民法の知識があれば、泣き寝入りしなくて済むであろう。

本講義では、私たちの生活に直接関わりうる事柄を中心に取り上げながら、民法の基本を学んでもらう。民法を学ぶことで、皆さんが一市民として幸せに生きていくためにも必要な知識・素養が得られるであろう。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	契約とは？①
第 3 回	契約とは？②
第 4 回	債務不履行①
第 5 回	債務不履行②
第 6 回	意思表示①
第 7 回	意思表示②
第 8 回	意思表示③
第 9 回	消費生活と法
第 10 回	契約各論①
第 11 回	契約各論②
第 12 回	不法行為①
第 13 回	不法行為②
第 14 回	家族関係
第 15 回	相続・遺言

予 習 ・ 復 習

・予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
・復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①初回授業で注意事項・授業運営方針について話す。全員がそれを理解していることを前提に授業運営がなされる点、ご了承頂けているものとして進めていく。
②本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
③自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
④授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。授業に積極的に「参加」して欲しい。

到 達 目 標

①現代社会における様々な法的問題や私たちの日常生活に直接関わる法的事象について、関心を持ち、自身に関わる事柄として考えることができる。
②具体的な法的事例を切り口にして法律学を学び、各事例に関わる条文、判例、概念などを理解するとともに、それらを活用して具体的事例について妥当な解決策を導き出すことができる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

授業内のテスト　70%
授業内課題など提出物　30%

テキスト

・教科書名：ストーリーから学ぶ民法ナビ
・著 者 名：出雲孝ほか
・出版社名：みらい
・出 版 年：2021 年
・ISBN：978-4-86015-540-7

※参考書
・参考書名：概説　生命倫理学
・著 者 名：三重野雄太郎ほか
・出版社名：大学教育出版
・出 版 年：2025 年
・ISBN：978-4-86692-339-0

原価計算　～真実の原価は算定できるのか？～

稲場　建吾

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

原価計算はおもに、(1) 企業外部の利害関係者に有用な会計情報を作成するため、もしくは (2) 企業内部の経営管理者に有用な会計情報を作成するために利用されています。この科目ではとくに、前者の目的に対して原価計算がどのように利用されているかを理解できることを目標に、原価計算の仕組みを講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	原価計算の基礎(1)
第 3 回	原価計算の基礎(2)
第 4 回	材料費の計算(1)
第 5 回	材料費の計算(2)
第 6 回	労務費の計算
第 7 回	経費の計算
第 8 回	製造間接費の計算
第 9 回	個別原価計算(1)
第 10 回	個別原価計算(2)
第 11 回	個別原価計算(3)
第 12 回	総合原価計算(1)
第 13 回	総合原価計算(2)
第 14 回	総合原価計算(3)
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：復習が次回の予習になります。復習は必ずしてきてください。

・復習：授業中に解いた問題を活用して理解を深めましょう。

履修上の注意

1. 毎回電卓を持参してきてください。
2. 遅刻は欠席扱いとします。ただし、公共交通機関の遅延などによる場合は、当然に出席扱いとします。

到 達 目 標

①原価計算の意義、目的などの基礎知識が理解できる。②費目別計算、部門別計算、製品別計算という原価計算の基本的手続きが理解できる。③個別原価計算、総合原価計算などの計算ができる。
本講受講後に、少なくとも全経簿記 2 級工業簿に合格してもらいたいとおもいます。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の経済事象などと結びつけて考えていることが質問内容などからうかがえる。	強く興味を持っている様子が質問内容などからうかがえる。	興味を持っている様子が受講態度などからうかがえる。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などからうかがえる。	興味を全くもっていない様子が受講態度などからうかがえる。

評価方法

試験の成績 70%（内訳：基礎力 40%＋発展力 30%）、受講姿勢(毎回の質問・感想コメントが主)30%

テキスト

・教科書名：『新検定簿記講義　2 級工業簿記』
・著者名：岡本　清、廣本敏郎編著
・出版社名：中央経済社
・出 版 年（ISBN）：2026 年(　　後日　　)

金融論　～生活スキルとしてのお金の知識と判断力を学ぶ～	藤井喜一郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

日常生活を支えるのは、稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどのお金を介した社会との関わりである。授業では、銀行や証券会社が何をやっているのか、金融市場においてどのような取引が行われているのか、などについて学んでいく。そして、株式ゲームを学び、株式や投資信託での資産運用の方法についても講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	イントロダクション・成績評価方法を説明し、授業全体の概要と目的について講義する。
第 2 回	生活から金融を考えるというテーマを講義する。
第 3 回	お金と経済について講義する。
第 4 回	人生とお金というテーマを講義する。
第 5 回	稼ぐ・使うというテーマを講義する。
第 6 回	生活を設計する①というテーマを講義する。
第 7 回	生活を設計する②というテーマを講義する。
第 8 回	貯める・遺すというテーマを講義する。
第 9 回	お金を借りるというテーマを講義する。
第 10 回	生活者のリスクについて考える①というテーマを講義する。
第 11 回	生活者のリスクについて考える②というテーマを講義する。
第 12 回	お金を増やす①というテーマを講義する。
第 13 回	お金を増やす②というテーマを講義する。
第 14 回	お金について相談するというテーマを講義する。
第 15 回	持続可能な社会を創るというテーマを講義する。

予習・復習

・予習：

① 株式投資の実務を学ぶので、教室で配られた証券口座を使って株を売買します。資金は仮資金（数字）です。この仮資金１千万円を使い切ってください。株式現物の取引ができるようになります。

② 金利と為替レート、日経平均株価など金融に関するニュース等をまとめておいてください。これらの指標を追っていくと、十年後、金融ビジネスに迷わないかもしれません。

・復習：証券投資用語、金融専門用語を読めるように努め、講義資料などを復習しておいてください。

履修上の注意

特に個人向け金融知識に関心を持って、講義を受けていただきたい。
・資料は教室で配布する。
・受講中の飲食、雑談は禁止する。
・受講中の PC、スマホ、携帯の利用は原則禁止する。
・20 分以上の遅刻は欠席扱いとする。

到 達 目 標

現在の日本社会は、“三無”と特徴づけることができる。“お金が無い”“時間が無い”“心にゆとりが無い”ということである。お金が、お金を生む。お金が無いなら、借りる必要がある。授業では、最新の資料を用いて、資金貸し借りの基本原理を学んでいく。特にお金を介した生活スキル・金融リテラシーの知識を身に着けることを目標としている。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
課題解法能力（20%）	金融リテラシーを理解し、お金を介した生活スキルを身に付けている	金融の仕組みを十分に理解している	資金調達者と運用者についての理解にはやや努力を要する	資金調達手法など授業内容の理解にはかなり努力を要する	金融の仕組みについて理解できていない
解法を文書で説明する力・レポート（20%）	個人の資金運用者、または資金調達者としての稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどの金融リテラシーについてアドバイスもできる	個人と法人の資金運用者、または資金調達について十分理解し、問題解法もできる	特に金融リテラシーについての課題解法能力はやや不足している	資金調達と運用面の課題の解法にはかなりの努力が必要である	金融ビジネスの課題解法はできていない
統計的分析能力（10%）	個人金融と企業金融について論文まで書ける	金融の実務について他人を説得する内容が記述することができる	論理が通った金融課題説明文を記述することができる	ケースについて説明不足があるが、説明文を書くことができる	ケースについて説明文を書くことができない
歴史的知識（10%）	個人と法人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析に優れている	特に個人におけるお金を稼ぐ・使う・貯める・借りる・増やすなどについて統計的分析が良くできている	金融資産価格の推移についての統計的な分析にやや努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析にかなり努力を要する	金融資産価格の推移についての統計的な分析ができていない

評価方法

学期末試験 70%、理解度テスト（授業内 1 回・授業資料持ち込み可）20%、受講態度 10%。

テキスト

最新の情報をもとに講義を進める。だから講義の中では特定の教科書は使用しない。毎回の講義では、随時よい文献などを紹介していく。

会社法　～会社のしくみ～

三重野雄太郎

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、企業の仕組みや運営について定めたルールである、会社法について講義する。会社法は、（広義の）商法の一部であり、商法は、商売をする人々の間での法律関係について定めた法律である。一般に、取引については、民法で規定されているが、商売人同士の取引の場合には、民法ではなく、商法が適用される。商法は、商売をする人々が円滑に商売活動をできるようにするための法律である。いわば、商法は、商売をする人々が効率よく利益を上げられるように合理性を追求している。しかしながら、当然のことであるが、利益を上げるためなら何をしても良いというわけにはいかないだろう。いくら企業が利益を上げて日本経済が活性化したとしても、不正な企業活動によって社会に害を与えることがあってはならない。そこで、商法は、商売活動の合理化を目指す一方で、商売活動が公正に行われるよう、その適正化も目指している。この両者のバランスの取れた法規制というのが商法にとっての永遠の課題であろう。　多くの皆さんは、将来、企業に就職するであろう。自身が勤める企業がどのような仕組みで動いているのかは、企業人として当然知っていなければならない。また、上述のように、商法においては、商売活動の合理化（効率）と適正化（公正）のバランスを取ることが必要である。こうした視点を持って商法を学ぶことは、自社の利益を守ることと公正な企業活動とをいかに両立させていくかという、企業人にとっての重要問題に直面した時のためにも有益であろう。

多くの皆さんは、企業に就職することになろう。自身が勤める会社がどのような仕組みで動いているのかを知っておくべきであることは言うまでもない。また、将来、株主として株を所有したりなどする人もいるだろう。自身に直接的に関わる問題として、当事者意識を持って学んでもらいたい。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	会社の意義と種類
第 3 回	株式会社の仕組み
第 4 回	株式会社の設立
第 5 回	株式の意義
第 6 回	株式譲渡
第 7 回	株主総会①
第 8 回	株主総会②
第 9 回	取締役
第 10 回	取締役会
第 11 回	代表取締役・監査役
第 12 回	社債
第 13 回	組織再編
第 14 回	解散・清算
第 15 回	株式会社の仕組みの全体像の再確認と会社をめぐる今後の諸問題

予習・復習

予習：教科書の該当箇所を精読し、毎回指示する予習課題に取り組む。疑問点を書き出しておく。
復習：教科書の該当箇所と配布資料を再確認し、理解できた点、できなかった点をまとめる。

履修上の注意

①初回授業で注意事項・授業運営方針について話す。全員がそれを理解していることを前提に授業運営がなされる点、ご了承頂けているものとして進めていく。
②本授業を履修して下さる場合、本シラバスの内容について熟知・了承頂けているという前提で教員は対応する。
③自身に関わる事柄として、当事者意識を持って学ぶこと。
④授業は基本的に講義形式で行うが、発問して答えてもらったり、グループワークをしてもらったり、みんなでディスカッションをしたりなどの活動を取り入れることもある。授業に積極的に「参加」して欲しい。
⑤授業中にミニレポートを課す予定である。成績評価にも関わるので真剣に取り組まれたい。
⑥本シラバスの記載事項については、受講人数その他の事情により変更することがありうる。

到 達 目 標

①商売活動の効率性と公正性のバランスの取れた社会とはいかにあるかという問題について当事者意識を持ち、そうした社会の実現に向けて主体的かつ積極的に考え、行動することができる。
②企業がどのような仕組みで動いているのか説明できる。
③自身の考えを根拠をもって論理的かつ的確に表現できる。
④立場の異なる人の考えに耳を傾け、理解しようと努める態度を養う。
⑤他者と議論して問題に対する妥当な結論を見出すことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（70%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容をひととおり理解しているが、多少不足がある。	授業内容について最低限の理解はしている。	授業内容について理解できていない。
論理的思考力・表現力（30%）	他人を納得させられるくらいに説得力ある論理的な文章が書ける。	根拠を挙げて、論理的な文章が書ける。	論理性・説得性に不足があるが、根拠を示しながら文章を書ける。	最低限の内容を示す文章が書ける。	課題で問われている内容に即した文章を書けていない。

評価方法

授業内テスト　70%
授業内課題など提出物　30%

テキスト

・教科書名：『基礎から学ぶ商法第 2 版』
・著 者 名：小柿徳武ほか
・出版社名：有斐閣
・出 版 年（ISBN）：2026 年　4641233691

心理学　～こころのはたらきを理解する～	伊澤　利文

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

この授業では、まず人間の「心」についての基礎を学んでゆきます。生物としての人間という視点から心理学の基礎的な知識を習得します。次に、他の動物にはみられない人間心理の特徴的な部分についての学習に進みます。そして最終的に、みなさん自身を含めた「人間」という存在の理解を目指して講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、および心理学の歴史　－心への関心はいつ生まれたのか？－
第 2 回	「心」はどこにあるのか？　－脳の構造と人間心理との関係－
第 3 回	知覚　－感覚を使った世界とのつながり方を知る－
第 4 回	学習　－新しいことが「出来るようになる」メカニズムについて－
第 5 回	記憶　－新しいことを「覚える（覚えておく）」メカニズムについて－
第 6 回	感情　－自分の周りの世界を「彩る」メカニズムと人間の生活について－
第 7 回	注意　－自分の周りの何かに「気づく」メカニズムについて―
第 8 回	ストレス　－さまざまなタイプのストレスと心身への影響について－
第 9 回	発達　－人間が「成長する」メカニズムについて－
第 10 回	言語　－人間が「会話」し「理解する」仕組みについて－
第 11 回	思考　－人間だけが持つ「考える」メカニズムについて－
第 12 回	意識　－「意識がある」とは心理学的にどのような状態なのか？－
第 13 回	パーソナリティ　－性格を科学的に理解することの意味－
第 14 回	社会心理　－社会生活における「情報処理」と「他者」の役割について－
第 15 回	睡眠と夢　－人間の「眠り」と「夢」のメカニズムについて－

予習・復習

・予習：インターネットなどを使って、各回のテーマに関連する予備知識をつけておくことが望ましい。

・復習：スマホなどで撮影した画像から、授業ノートを分かりやすく清書することが望ましい。

履修上の注意

授業には積極的な態度で望み、心と身体の基本的なメカニズムを理解するよう努めること。欠席した分だけ、得られる情報量が少なくなることを意識してください。そのため、この授業では「遅刻 2 回で欠席 1 回」の扱いとしますので注意するように。

到 達 目 標

・科学的な視点から心理学の基礎を学ぶ。
・科学的な視点から世界を眺め、必要な場合には状況を分析して対処できるようになる。
・この授業で得られた心理学の知識を、今後の生活で活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（４０％）		授業内容をほぼ理解できている。	授業内容の理解が多少不足している。	授業内容を大まかにではあるが理解している。	出席不足などから授業内容を理解していない。
関心度（３５％）	授業内容を越えた領域まで興味を示している。	授業に大きな関心を持って望んでいる。	授業内容への好奇心が多少不足している。	授業内容への関心があまり持てていない。	授業内容にほぼ関心がなく出席しているだけである。
発信力（２５％）	自分の疑問点を分かり易く簡略に質問できる。	教員からの質問に対して自分の考えを口頭で表現できる。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できる（挙手）。	教員からの質問に対して自分の意見を発信できない。	

評価方法

・定期テスト　：　７０％
・発表　：　２０％
・受講態度　：　１０％

テキスト

・使用しません。資料が必要な場合に、適宜プリントを配布します　。

医療ビジネス論　～成長と進化を続ける医療ビジネス～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

様々なテクノロジーの恩恵や研究成果を受けて、医療ビジネスは現在急速に成長と進化を遂げている領域となった。近未来には国内外における最大マーケットになることも期待されている。医療ビジネスの特徴や諸課題について理解を深め、今後どのような展開をしていくかについても含め講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	医学史からみた医療－医療はビジネスなのか？
第 2 回	医療ビジネスの特徴と範囲
第 3 回	医療ビジネスにおける人的資源の重要性と人件費
第 4 回	医療ビジネスにおける材料費、薬剤費、医療関連サービス等の重要性
第 5 回	医療ビジネスが抱える諸問題
第 6 回	開設主体による病院経営の特徴と違い
第 7 回	ブランド病院
第 8 回	異業種参入
第 9 回	医療費増大とセルフケアの重要性
第 10 回	遠隔医療の発展
第 11 回	AI ホスピタル
第 12 回	先端医療とビジネス
第 13 回	未病ビジネス
第 14 回	未来の医療ビジネス
第 15 回	命を扱うビジネスに重要な視点－倫理、教育・研修、安全、質

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. 医療ビジネスの扱う領域について理解できる。
2. 医療ビジネスの特徴について説明できる。
3. 医療を取り巻く急速な変化とニーズについて理解できる。
4. 医療ビジネスの課題と問題点について説明できる。
5. 未来の医療ビジネスの方向性について創造できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 （ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 （ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
創造する力 （ 20 %）	独創的に創造することができる。	ほぼ 100%創造することができる。	創造することはできるが、不十分である。	十分に創造することができない。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：図解入門業界研究　最新　病院業界の動向とカラクリがよ～くわかる本[第 4 版]
・著 者 名：中村恵二、山口大樹著
・出版社名：秀和システム
・出 版 年（ISBN）：2024 年（978-4798071961）

医療コミュニケーション論

～良質な医療コミュニケーションは患者の回復を促進する～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

様々な人間関係においてコミュニケーションは最も重要な役割を果たすが、医療現場における医療コミュニケーションもまた、患者の回復や医療安全に直接影響を与える重要な要素であることについて講義する。グループワークを通してコミュニケーションの具体的なあり方についても理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	コミュニケーションの本質と目的
第 2 回	コミュニケーションの手段（バーバル・コミュニケーション、ノンバーバル・コミュニケーション）
第 3 回	コミュニケーション・スキル
第 4 回	意思決定能力とコミュニケーション
第 5 回	信頼関係とコミュニケーション
第 6 回	五感からの情報とコミュニケーション
第 7 回	医療コミュニケーションの特徴
第 8 回	患者・患者家族―医療従事者間コミュニケーション
第 9 回	チーム医療におけるコミュニケーション
第 10 回	グループワーク①あいさつ、ホスピタリティ
第 11 回	グループワーク②告知
第 12 回	グループワーク③傾聴・共感
第 13 回	グループワーク④意思決定支援
第 14 回	良質な医療コミュニケーションと患者の QOL(Quality of Life)
第 15 回	良質な医療コミュニケーションと患者・家族満足度、医療のアウトカム

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. コミュニケーションの本質について理解できる。
2. コミュニケーションの手段・方法について説明できる。
3. 患者・家族―医療者関係について理解できる。
4. 医療コミュニケーションの特徴について理解できる。
5. 良質な医療コミュニケーションについて実践できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力（ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
実践力（ 20 %）	積極的に実践することができる。	ほぼ 100%実践することができる。	実践できるが、十分ではない。	あまり実践できない。	実践できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：メディカルスタッフのための基礎からわかる人間関係論
・著 者 名：山蔦圭輔、本田周二著
・出版社名：南山堂
・出 版 年（ISBN）：2021 年（978－4525504519）

臨床心理学　～生きづらさを理解し支えるための学問～

赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

臨床心理学を「心の病気を知る学問」としてだけでなく、「人が悩みやつらさを抱えながら生きていく過程を理解し、支えるための学問」として学ぶ。公認心理師・臨床心理士として心理カウンセリングを行ってきた実務経験に基づき、うつ病・不安障害・適応障害などの代表的な精神疾患について基礎的な知識や青年期に特有の心の揺れや悩みについても取り上げ、実際の職場場面を踏まえながらグループワークを用い指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業のねらい、意図を伝え、受講にあたり心構えを共有する
第 2 回	臨床心理学とは　心の健康やストレスについて考える
第 3 回	青年期の病理①　恋愛関係の心理（解説と事例検討）
第 4 回	青年期の病理②　親子関係の心理（解説と事例検討）
第 5 回	青年期の病理③　友人関係の心理（解説と事例検討）
第 6 回	主な精神疾患①　うつ病・不安障害（解説と事例検討）
第 7 回	主な精神疾患②　適応障害・統合失調症・依存（解説と事例検討）
第 8 回	主な精神疾患③　パーソナリティ障害（解説と事例検討）
第 9 回	主な心理療法①　グループアプローチ（解説と実習）
第 10 回	主な心理療法②　クライエント中心療法　認知行動療法（解説と実習）
第 11 回	主な心理療法③　催眠療法　自律訓練法（解説と実習）
第 12 回	主な心理療法④　マインドフルネス　コンパッション・フォーカスト・セラピー（解説と実習）
第 13 回	事例検討① 見立てと方針を考える（グループワーク）
第 14 回	事例検討② グループ発表
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・主な精神疾患と青年期の心理的課題について理解することができる。
・代表的な心理療法の考え方を学ぶとともに、自分や身近な人の心の不調に気づき、適切に関わりながら自分自身の心を大切にできるようになる

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）３０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期試験（レポート）５０％

テキスト

必要に応じてプリントを配付

メンタルケア　～こころの健康を保つために～	井上　忠典

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

現代社会において仕事をする上で、職務や対人関係によるストレスは避けては通れない課題である。本授業において、このような課題に対して、自他の心を理解し適切に対処する力を養うために、ストレス対処・感情調整・コミュニケーション等を学び、心理テストやロールプレイにより実践的に習得する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンスとメンタルケアの意義 メンタルケアが「職業人の基礎力」であることを理解する
第 2 回	ストレスとは何か ストレスの定義（ストレッサー・ストレス反応）とその基本構造を理解する
第 3 回	ストレス反応と心身への影響 身体的・心理的・行動的反応、自分のストレスサインに気づく
第 4 回	ストレスコーピング①（基本） 問題焦点型・情動焦点型コーピング、状況に応じた対処法の違いを理解する
第 5 回	ストレスコーピング②（実践）、 リラクセーション／生活習慣／セルフケア、自分に合ったストレス対処法を持つ
第 6 回	感情の理解 感情の役割／基本感情／感情と行動の関係、感情を否定せず捉える視点を持つ
第 7 回	感情コントロール 感情調整／アンガーマネジメント、感情を適切に扱う方法を理解する
第 8 回	認知（考え方）のクセ 認知の歪み／自動思考／思考と感情の関係、自分の思考パターンに気づく
第 9 回	自己理解と自己受容 自己概念／強み・弱みの理解／自己肯定感、自分の特徴を客観的に捉える
第 10 回	コミュニケーションの基礎 言語・非言語コミュニケーション、伝える・聴くの基本を理解する
第 11 回	傾聴と共感 傾聴技法（あいづち・くり返し・要約）、相手を理解する姿勢を身につける
第 12 回	アサーション（適切な自己主張） 受動・攻撃・アサーティブの違い、自他を尊重した表現をする
第 13 回	対人関係のストレスと対処 対人葛藤／職場の人間関係、人間関係のストレスに対処する
第 14 回	メンタル不調の理解と支援 メンタル不調の理解／相談行動／支援資源、不調への気づきと相談の重要性を理解する
第 15 回	学習内容の職場での活用 自身のメンタルケア計画を立てる

予 習 ・ 復 習

・予習：授業テーマについて、インターネットで調べて自分なりに理解し、疑問点を明確にしてください。また、前回までの復習が次回の予習となります。そのつながりを意識しながら予習をしてください。

・復習：授業中に配布した資料をもとにして、心理テストやグループワークでの体験も加えて、授業内容の振り返りと再学習を行ってください。

履修上の注意

・心理テストやロールプレイを行いながら、体験的に理解を深める授業です。積極的に参加してください。
・基本的に遅刻はしないでください。15 分を過ぎると欠席になります。
・提出物の締め切りは、厳守してください。

到 達 目 標

①ストレスについての理論やその対処法について説明することができる。
②自分自身のストレスや感情の状態に気づき、適切に言語化・対処することができる。
③他者の立場や感情を理解し、尊重する態度を持つことができる。
④円滑な人間関係を築くための基本的コミュニケーションスキルを使うことができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ完全に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限理解をしている。	内容についてほとんど理解できていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他者に伝わるように論理的に記述できる。	自分の考えを含めて記述できる。	不足する点があるが、課題に沿った文章を書ける。	最低限の内容について文章で説明できる。	内容について文章でほとんど説明できない。
積極性（20%）	率先して自分の考えを発言できる。	自分の考えを発言できる。	自分の考えを発言しようと努力できる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	ほとんど人と関わろうとしない。

評価方法

・学期末試験 50%、授業内レポート 30%、受講態度 20%

テキスト

・テキストは使用しません。
・毎回、資料を配布します。
・適宜、参考図書を紹介します。

医療情報システム論

～医療情報のシステム化による医療の質向上への貢献～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

情報テクノロジーの進歩に伴い、医療現場における医療情報システム化が進んできている現状を理解することにより、どのようなことが医療者―患者関係および医療従事者間において変化してきているかについて講義する。電子カルテシステムにはどのような情報が含まれているか、医療情報のシステム化が医療の質の向上にどのように貢献可能であるかについて理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	医療情報の特性、医療情報の量と質
第 2 回	医療情報倫理、プライバシー保護とセキュリティ
第 3 回	標準化と EBM（Evidence- Based Medicine）
第 4 回	病院情報システム（診療、看護、薬剤含む）
第 5 回	基幹システム①オーダシステム
第 6 回	基幹システム②電子カルテシステム（1）
第 7 回	基幹システム②電子カルテシステム（2）
第 8 回	部門システム①医事会計システム
第 9 回	部門システム②検査系システム
第 10 回	部門システム③医用画像システム
第 11 回	部門システム④栄養システム
第 12 回	部門システム⑤物流システム
第 13 回	部門システム⑥リスク管理システム
第 14 回	地域医療連携情報システム
第 15 回	医療の質の向上と医療情報システムの未来

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1. 医療情報とは何かについて理解できる。
2. 医療情報のシステム化の意味することを理解できる。
3. 医療情報システムについて説明できる
4. 基幹システムや部門システムについて説明できる。
5. 医療情報システムの未来について思考できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度 （ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力 （ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
思考する力 （ 20 %）	具体的に自ら思考して表現できる。	ほぼ 100%思考することができる。	思考できるが、十分ではない。	あまり思考できない。	思考できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：医療情報　第 6 版　医療情報システム編
・著 者 名：日本医療情報会医療情報技術育成部会編
・出版社名：篠原出版新社
・出 版 年（ISBN）：2020 年（978－4867058015）

産業心理学　～社会で働き、生きていくことを考える～	赤城　知里

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

産業心理学の観点から、社会で働き生きていくために必要な知識を学び、社会人として適切に対応する力を高めることを目的とする。会社組織で働く上で重要となる自立、モチベーション、リーダーシップ、職場のメンタルヘルスおよびストレス対処といった基本的テーマを扱い、公認心理師・臨床心理士として心理カウンセリングを実施してきた実務経験に基づき、実際の事例を用いながら実践的に指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　授業のねらい、意図を伝え、受講にあたり心構えを共有する
第 2 回	自立とは何かを考える１　自立について考える
第 3 回	自立とは何かを考える２　経済的自立　精神的心理的自立について考える（解説とワーク）
第 4 回	自立とは何かを考える３　社会的自立について考える（解説とワーク）
第 5 回	ワークモチベーション１　モチベーションとは何か考える（解説とワーク）
第 6 回	ワークモチベーション２　想像性を生み出す働き方を考える（解説とワーク）
第 7 回	ワークモチベーション３　ワークモチベーションの理論（解説とワーク）
第 8 回	リーダーシップ１　リーダーシップとは何か理解する（解説とワーク）
第 9 回	リーダーシップ２　自分らしさを活かしたリーダーシップスタイルを考える（解説とワーク）
第 10 回	職場のストレスとメンタルヘルス１　ストレスとは　ストレス対処法を知る（解説と実習）
第 11 回	職場のストレスとメンタルヘルス２　職場のストレスについて事例検討する（解説とワーク）
第 12 回	職場のストレスとメンタルヘルス３　ハラスメントについて事例検討する（解説とワーク）
第 13 回	職場のストレスとメンタルヘルス４　メンタルケア（解説と実習）
第 14 回	キャリアビジョン　発達段階を踏まえて「キャリア」を考える（解説とワーク）
第 15 回	まとめ

予習・復習

・予習：毎回の授業テーマについて、ネットで調べ自分なりに理解し、疑問点を明確にする。
・復習：授業での学びをリアクションペーパーで整理し理解する。

履修上の注意

・人と関わることや発言・発表の機会が多い授業である。
・教員と学生が双方向でやりとりしながら運営し、グループワーク等体感的なカリキュラムであり、主体的に参加することを求める。
・交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡)。
・提出物の締め切り厳守。

到 達 目 標

・自立について理解し自分自身の自立について向き合う事ができる。
・社会で働く上で必要な理論や考え方を知ることで、職場で適応できる力を育む。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
文章で説明する力（レポート）（30%）	自分の考えを他人に伝わるように論理的に記述する事ができる。	自分の考えを含めて記述する事ができる。	不足する点があるが、課題に沿った文を書く事ができる。	最低限の内容について文章で説明ができる。	内容について文章で説明ができない。
積極性（40%）	率先して自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する事ができる。	自分の考えを発言する努力ができる。	リアクションを取るなど、人と関わろうという意思がある。	人と関わろうとしない。

評価方法

授業での積極性（発言、他者との関わり、意欲）３０％
毎回の授業レポート課題（リアクションペーパー）２０％
定期試験（レポート）５０％

テキスト

必要に応じてプリントを配付する

観光ビジネス論

～観光ビジネスを分類別に学び、就活や社会生活で活かそう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、観光産業の様々な会社や組織との実務経験に基づき、観光ビジネスを分類し、具体的な業務内容や日本経済、環境に与える影響について、実例を交えて講義する。また観光関連の仕事に興味を持ち就職先の選択肢の一つとしたり、消費者目線で観光サービスを利用する際にも役立ちます。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光ビジネスの概要と歴史
第 3 回	観光ビジネス①　〔運輸関連：ＪＲ、私鉄〕
第 4 回	観光ビジネス②　〔運輸関連：航空、観光バス他輸送〕
第 5 回	観光ビジネス③　〔運輸関連：クルーズ〕
第 6 回	観光ビジネス④　〔宿泊：ホテル、旅館、レストラン施設〕
第 7 回	観光ビジネス⑤　〔テーマパーク、他アミューズメント関連〕
第 8 回	理解度小テストの実施、課題レポートの提出
第 9 回	日本の観光政策と地域における観光ビジネス（地方創生）
第 10 回	観光ビジネス⑥　〔着地型テーマ旅行関連、他〕
第 11 回	観光ビジネス⑦　〔イベント〕
第 12 回	観光ビジネス⑧　〔ＭＩＣＥ〕
第 13 回	観光ビジネス⑨　〔ロードサイド〕
第 14 回	海外の観光ビジネス〔欧米、東南アジア、オセアニア他〕
第 15 回	まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。

・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光ビジネス（航空、鉄道、宿泊、テーマパーク、イベントなど）関連に興味を持って、日常的に情報収集（テレビ、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以降の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・観光ビジネスを分類別に学び、興味を持って、就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で利用する際に役立てる）
・「観光ビジネスが日本経済や環境に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案出来るようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０％）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%）、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ホスピタリティ概論

～社会に出て役立つホスピタリティを習得する～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「ホスピタリティ」はさまざまな業界・業種で必要とされる接客や対人関係の心構えにあたり、日本での「おもてなし」に通じるものでもある。旅行会社と航空会社に在籍し、お客様の満足度を高めるために実践してきた実務上の経験を元に取り上げる「ホスピタリティ」の基本を習得しながら、様々な業種・業界におけるマナー・ホスピタリティ・おもてなしの理解につなげていく。とりあげる「ホスピタリティ」の事例から企業やビジネス上の「顧客満足」とは何かを習得することも重要である。就活、実社会の仕事上、いずれにおいても本授業が非常に重要な意味を持つことを理解して履修すること。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、ホスピタリティとは？
第 2 回	ホスピタリティの基本①　ビジネスマナーの基本、言葉使い、対応方法のマナー
第 3 回	ホスピタリティの基本②　電話のマナー、会話のマナー
第 4 回	ホスピタリティの基本③　メール、PC、スマホ、インターネット、SNS のマナー
第 5 回	ホスピタリティの基本④　国際儀礼（プロトコール）・冠婚葬祭のマナー
第 6 回	ホスピタリティの基本⑤　外国人・ムスリムの受入対応のマナー
第 7 回	業界別ホスピタリティスの考察①　ブライダルのホスピタリティ
第 8 回	業界別ホスピタリティスの考察②　ホテルのホスピタリティ
第 9 回	業界別ホスピタリティスの考察③　テーマパークのホスピタリティ
第 10 回	業界別ホスピタリティスの考察④　医療事務のホスピタリティ
第 11 回	業界別ホスピタリティスの考察⑤　観光（インバウンド）におけるホスピタリティ
第 12 回	業界別ホスピタリティスの考察⑥　「和食・日本酒」のホスピタリティと会食マナー
第 13 回	日本伝統文化のホスピタリティ①　「金継ぎ」、本学の SDGs 活動
第 14 回	日本伝統文化のホスピタリティ②　体験授業「浴衣の着付け・生け花」
第 15 回	振り返り、小論文の提出　　小テスト

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・外部講師を招いての特別講義を行うことがあり、体験・実習に参加するグループと、それを視聴するグループに分かれることがある。また、それに伴い実費が発生する場合は各自負担となる。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・体験授業は授業時間内で行わずに「オープンキャンパス開催時」に実施することがある。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．　ホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案することができる。
２．　ホスピタリティに溢れた利用すべきサービスやビジネスモデルを客観的に捉えることができる。
３．　ホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・小テスト　５０%
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０%
・小論文　２０%

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

ホテルビジネス基礎

～宿泊業の実務を知り主要部門の業務が分かる～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

ホテルや日本旅館を中心とした宿泊サービスおよびホテルでのブライダル実務を様々な角度から考察し、基礎となる知識を習得する。今後計画されている外資系５ツ星ホテルの日本開業にも対応可能な基礎知識の向上に役立てる。成功したビジネス事例・ホテ経営の数々を取り上げて講義する。人気のある「ホテルブライダルスタッフ」になるためのホテル分析の仕方やブライダル・コーディネーターを目指す方法にも触れる。即戦力として接客業務に従事できる「ホテルビジネス実務検定：ベーシック２級・１級」の受験対策も取り入れる。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、ホテル検定に対する理解
第 2 回	宿泊業研究①　大人気ディズニーランド：「ミリアルリゾートホテルズ」の魅力と応募
第 3 回	宿泊業研究②　都市型総合ホテル：帝国ホテル、西武プリンスホテルズワールドワイド等
第 4 回	宿泊業研究③　日本旅館：旅館の魅力、倒産の危機からＶ回復しＤＸを活用優良企業へ
第 5 回	宿泊業研究④　外資系ホテル：加速する日本への進出、外資系ホテルの魅力と就職機会
第 6 回	宿泊業研究⑤　今注目のホテル
第 7 回	宿泊業研究⑥　ＭＩＣＥビジネス：国際イベント、ＩＲ（統合型リゾート）
第 8 回	宿泊業研究⑦　宿泊で地方創生：町まるごと＆駅まるごとホテル、古民家再生事業
第 9 回	宿泊業界の実務①　ホテルの概要、ホテル英語の解説
第 10 回	宿泊業界の実務②　宿泊部門の業務、ホテルの接客の基礎
第 11 回	宿泊業界の実務③　料飲部門、調理部門、宴会部門の業務
第 12 回	宿泊業界の実務④　ホテルブライダル部門の仕事
第 13 回	宿泊業界の実務⑤　FB（Food & Beverage）・レストラン・企業の宴会（東京會舘、等）
第 14 回	宿泊業界の実務⑥　ニューオータニ「即位の礼」日本を表す祝賀パーティからの学び
第 15 回	振り返り、小論文の提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・フィールドワーク、企業訪問、オンライン特別授業等により、授業計画は変更になることがある。
・「ホテルビジネス実務検定ベーシック 2 級」取得の対策を取り入れた講義も一部含まれるが、検定試験の対策は資格講座（エクステンションセンターで募集するもの）を受講すること。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．宿泊業界の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．ホテルビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．ホテルでの「ブライダル・コーディネーター」に応募するための就活戦略が習得できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・定期試験　５０%
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０%
・小論文　２０%

テキスト

参考図書として、「ホテルビジネス実務検定」にも使える以下の書籍をすすめる。
・教科書名：ホテルビジネス基礎編 －ベーシックレベル 2 級・1 級準拠－（税込 6,600 円）
・著者名：日本ホテル教育センター
・出版社名：日本ホテル教育センター
・出版年：2026 年 改訂版
・ISBN：記載なし

ホテル経営論　～ホスピタリティーマインド（思いやりを持って優しく温かく接する心）を学び社会生活でも役立てよう！！	齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社の重要なビジネスパートナーであるホテルとの実務経験を基づき、この授業では、ホテルの歴史や分類、代表的なホテルやホテルチェーンの概要に加え、ホテルビジネスにおける経営の基礎知識、各部門の特徴・役割・実務、さらにホスピタリティに関する内容を学びます。さらに、この授業ではホテルビジネス実務検定試験に対応できるよう、必要な知識も講義する。
「ホスピタリティーマインド」とは思いやりを持って優しく温かく接する心のことです。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	ホテルの歴史（江戸時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 3 回	日本旅館の歴史（奈良時代から始まる宿泊業の役割と変遷）
第 4 回	ホテルと日本旅館の経営形態の違い
第 5 回	ホテル宿泊部門の組織と業務役割、施設と設備の知識
第 6 回	ホテル料飲（フード&ビバレッジ）部門のサービスと経営
第 7 回	ホテルレストランの業態と役割
第 8 回	ホテル宴会部門の組織と業務役割、サービスと宴会の種類、MICE に関する知識
第 9 回	調理部門の組織と業務内容、各国料理の知識
第 10 回	マーケティング部門の組織と業務役割、マーケティング実務
第 11 回	レベニューマネージメント（収益管理）と各担当者の業務
第 12 回	総務・人事部門、施設管理部門、仕入・購買部門、経理・会計部門の各概要
第 13 回	ラグジュアリーホテルや旅行会社におけるホスピタリティーの事例
第 14 回	西洋料理（フランス料理）の歴史と基本ならびに各国料理について
第 15 回	ホテル業界を取り巻く環境、まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・関連する事（ホテル、レストラン、パーティー、各国料理、食文化、ホスピタリティー）に興味を持って日常的に情報収集（テレビ、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以降の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「ホテル実務・経営」がどのようなものかを理解して、ホテル関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線でホテルを利用する際に役立てる）
・「ホテルビジネス実務検定」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
・ホテル関連の知識（ホテルチェーン、各国料理、料理関連の基礎知識など)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
・「ホテルや旅行業界におけるホスピタリティー」を学ぶことによって、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識＜宿泊、企画、経営＞（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識＜料飲、宴会、調理＞（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%)、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

旅行業法　～国家試験にチャレンジしよう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行の企画・販売など旅行業法関連の資格が必要とされる旅行会社における実務経験に基づき、この授業では旅行業務取扱業者（旅行会社）に関する法律や規程（旅行業法及びその関連命令）について学びます。旅行会社の特徴は、形の無い商品を扱うことから、特に信用が重視される点を理解してもらいます。旅行会社の業務全般の知識を身につけ、旅行業務取扱管理者資格取得に必要な項目を講義する。なお旅行業法の修得は、実際に旅行をする際にも役立つ知識となります。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	旅行業法の基礎知識
第 3 回	登録制度と営業保証金制度
第 4 回	旅行業務取扱管理者と外務員
第 5 回	旅行業務取扱料金、旅行業約款、標識
第 6 回	取引条件の説明・書面の交付、広告・旅程管理、受託契約
第 7 回	禁止行為・業務改善命令・罰則、旅行サービス手配業、旅行業協会、弁済業務保証金
第 8 回	標準旅行業約款〔総則、企画旅行契約の締結・変更・解除〕
第 9 回	標準旅行業約款〔旅程管理・責任、旅程保証、特別補償規程、手配旅行契約〕
第 10 回	運送・宿泊約款〔国内旅客運送約款、モデル宿泊約款〕
第 11 回	国内旅行実務〔JR 運賃・料金〕
第 12 回	国内旅行実務〔国内航空運賃・料金〕
第 13 回	国内旅行実務〔国内地理：世界遺産、国立公園、ラムサール条約、伝統行事、郷土料理〕
第 14 回	国内旅行業務取扱管理者試験（国家試験）と過去問題研究
第 15 回	旅行業界を取り巻く観光ビジネス、まとめ及び課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いため、特に復習が大事です。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・国内の地理や歴史、世界遺産などに興味を持ち、普段から情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web サイト）に取り組んでください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以降の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「旅行業法及びこれにも基づく命令」の各科目を修得する。
・「旅行業務取扱管理者試験（総合、国内)」の合格を目指し、引き続き資格講座（エクステンションセンター）を受講する。
・消費者目線で実際に旅行をする際に役立てる。
・「国内旅行実務（国内地理、JR、航空)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識 ＜旅行業法・関連法令＞ （５０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識 ＜国内旅行実務：国内地理＞ （２５％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
理解・知識 ＜国内旅行実務：JR、航空＞ （２５％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（50%)、受講態度（30%)、期末定期試験（20%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配布します。

観光マーケティング論

～観光産業で楽しみながら仕事をしよう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社での多彩な販売・企画業務の実務経験に基づき、この授業では、観光業界の事例を通じてマーケティングの基本を学びます。具体的には、観光地にどのようにして多くのお客様を誘客・集客し、その地域の交流人口を増やすことで観光消費額の拡大ができるのかについて考察します。またこれまで魅力的な観光素材が無かった地域でも、アイデア次第で観光資源の発掘し、磨きをかけることによって新たな観光素材を創造し、地域経済の発展（＝地方創生）に繋げる方法を講義する。さらに、近年では他業種においても地方創生（地域共創）事業に積極的に取組む企業が増えており、就職活動や就職後の業務においても活かせる知識を紹介します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	国家的な観光政策と観光マーケティングの変遷
第 3 回	マーケティングのおける分析方法（PEST 分析、STP 分析、SWOT 分析、VRIO 分析）ほか
第 4 回	マーケティングのおける分析方法（3C 分析、4P・4C 分析、ｻｰﾋﾞｽﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞの７P 分析）ほか
第 5 回	観光マーケティングの考え方（観光消費による地域経済への波及効果：好循環のしくみ）
第 6 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（インフラ・ツーリズム）
第 7 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（コンテンツ・ツーリズム）
第 8 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（ヘルス・ツーリズム）
第 9 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （エコ・ツーリズムとサステイナブル・ツーリズム）
第 10 回	観光マーケティング事例研究：新しい観光地「道の駅」による地域の活性化
第 11 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム （スポーツツーリズムとスポーツホスピタリティービジネス）
第 12 回	フィルムコミッションとコンベンションビューローの役割と MICE ビジネス
第 13 回	観光マーケティング事例研究：高付加価値なオリジナルイベント実施例
第 14 回	観光マーケティング事例研究：ニューツーリズム（ＹＡＫＥＩ・ツーリズム）
第 15 回	まとめ、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。

・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。

・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光や様々なイベントに興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以上の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「観光が経済に与える影響」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「地方創生と国の様々な観光政策」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「ニューツーリズムの種類と役割」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「観光におけるマーケティング分析の種類と内容」について修得して、説明できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（50%）、受講態度(30%)、期末定期試験(20%)を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

かしこい旅行実務論　～旅行プランナーの実務を学ぼう～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における国内外の企画・提案・販売などの多彩な実務経験に基づき、この授業では実際の旅行会社が国内、海外、訪日旅行のマーケットを対象にどのようなビジネスを行っているのか、具体的な仕事内容を楽しく、面白く学びます。皆さんも旅行会社の社員目線また消費者目線で受講してください。どのように旅行企画商品が作られ、どの様に旅行が実施されるのかなど、現場における実務を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	観光産業の概要、旅行会社の仕事の内容を知る
第 3 回	旅行会社社員（ホスピタリティー産業）に求められる創造力と企画力、人物像と業務知識
第 4 回	旅行業務知識　ヨーロッパ編①（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 5 回	旅行業務知識　ヨーロッパ編②（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 6 回	旅行業務知識　オセアニア編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 7 回	旅行業務知識　東南アジア編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 8 回	旅行業務知識　ハワイ、南太平洋編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 9 回	旅行業務知識　アメリカ、カナダ編　（地理、歴史、世界遺産、観光地、ほか）
第 10 回	旅行企画作成（日程表作成：資料収集、テーマ、ストーリー、主なポイントなど）
第 11 回	旅行企画作成（企画をパワーポイントに）
第 12 回	発表　各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 13 回	発表　各チーム旅行企画プレゼンテーション
第 14 回	旅行会社、関係諸機関（宿泊業、運輸業等）で使用される業界専門用語などを学ぶ
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示します。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・旅行に関連する様々な事（名勝、史跡、歴史、文化、芸術、世界遺産、地理、ホテル、食）などに興味を持って情報収集（旅番組、ニュース、雑誌、旅行パンフレット、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以降の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「旅行実務」がどのようなものかを理解して、観光関連の仕事に興味を持って就職先の選択肢のひとつにする（消費者目線で旅行をする際に役立てる）
・「観光知識（地理、歴史、文化、芸術、食、世界遺産、ホテルなど)」について修得して、社会常識としての知識を身に付ける。
・「旅行企画書の作成」を通して企画力、情報収集力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力を身に付けて、他業界でも活用できるようにする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０％）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０％）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案ができる。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０％）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

旅行企画書の作成及びプレゼンテーション（40%）、受講態度（20%）、授業内の理解度テスト（20%）、課題レポート（20%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

エアライン・ビジネス

～エアラインのビジネスモデルから航空事業の魅力を発見～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

最先端のテクノロジー、様々な関連業務、高いホスピタリティの複合体である「エアライン・ビジネス」の基礎知識を多角的・多面的に履修する。空港マネジメント・旅行会社とも密接につながっており、さらにAIとの親和性も高いため、広く観光産業を学ぶ導線と位置付けた航空ビジネス全体を捉える。講師のカンタス航空グループに在籍した実務経験を反映した現場感覚を中心とした講義により、社会人としての一般常識、就活アドバイスを含んだ幅広い航空業界の基礎を学ぶ。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、エアライン・ビジネスとは
第 2 回	航空業界と航空自由化の歴史、コロナ禍の分析
第 3 回	国内航空ビジネス①　ＪＡＬの歴史、コロナ前のポジション
第 4 回	国内航空ビジネス②　ＪＡＬのコロナ後の事業戦略
第 5 回	国内航空ビジネス③　ＡＮＡの歴史、コロナ前のポジション
第 6 回	国内航空ビジネス④　ＡＮＡのコロナ後の事業戦略
第 7 回	国内航空ビジネス⑤　ＭＣＣ・ＬＣＣのビジネスモデル
第 8 回	国内航空ビジネス⑥　空港ビジネス・エアライン関連ビジネス
第 9 回	外資系航空会社研究①　アメリカ・ヨーロッパ（欧米）主要キャリアの魅力と特徴
第10回	外資系航空会社研究②　アジア・オセアニア（豪亜）主要キャリアの魅力と特徴
第11回	エアライン・ビジネスの業務知識①　エアラインプロダクト
第12回	エアライン・ビジネスの業務知識②　ＣＲＳ（予約システム）・国際線予約、各種コード
第13回	エアライン・ビジネスの業務知識③　空港グランドハンドリング
第14回	エアライン・ビジネスの業務知識④　航空貨物事業、貿易事務
第15回	振り返り、小論文の提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワーク・ゲストスピーカーの招聘・オンライン授業等の実施によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・後期選択科目「エアライン・ホスピタリティ」との関連が深いため、可能であれば一緒に受講することが望ましい。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

1．　エアラインの知識を身に付け、それに基づいたビジネスの問題点や課題を指摘することができる。
2．　エアライン・ビジネスの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
3．　エアライン・ビジネスの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・定期試験　５０%
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０%
・小論文　２０%

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する

エアライン・ホスピタリティ

～洗練されたエアラインのホスピタリティを知り、それを生かしていこう～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授 業 概 要

エアラインの使命は、『お客様を「安全」で「快適」に、そして「スケジュールどおり（定時運航）」に目的地にお連れすること』であり、その実現のためにチームとして部門毎に様々な業務を担っている。本講義では、講師のカンタス航空グループに在籍した豊富な実務経験を踏まえ、エアラインをホスピタリティの観点から掘り下げるとともに、求められるエアライン・ホスピタリティとは何か、を解き明かす講義とする。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価方法、エアライン・ホスピタリティとは
第 2 回	部門別ホスピタリティ①　プロダクトの違いによるホスピタリティ
第 3 回	部門別ホスピタリティ②　キャビンアテンダント（ＣＡ）のホスピタリティグ
第 4 回	部門別ホスピタリティ③　グランド・スタッフ（ＧＳ）のホスピタリティ
第 5 回	部門別ホスピタリティ④　グランドハンドリングのホスピタリティ①　ランプ・貨物
第 6 回	部門別ホスピタリティ⑤　グランドハンドリングのホスピタリティ②　運航管理・オペレーション業務
第 7 回	部門別ホスピタリティ⑥　最新の空港サービスによるホスピタリティ
第 8 回	部門別ホスピタリティ⑦　日本が誇る先端技術による空港のホスピタリティ
第 9 回	エアライン別ホスピタリティ①　国内顧客満足度 No.１エアライン
第 10 回	エアライン別ホスピタリティ②　空の安全　英国「コメット」の失敗と教訓、航空機事故減少に貢献した日本人科学者
第 11 回	エアライン別ホスピタリティ③　ＪＡＬフィロソフィーからの学び、ＪＡＬのＤＥＩ戦略
第 12 回	エアライン別ホスピタリティ④　２０２６エアラインランキング・空港ランキング
第 13 回	エアライン別ホスピタリティ⑤　超音速旅客機、プライベートジェットの新マーケット
第 14 回	エアライン別ホスピタリティ⑥　持続可能な航空燃料（ＳＡＦ）への取り組み
第 15 回	振り返り、小論文の提出

予 習 ・ 復 習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・前期選択科目「エアライン・ビジネス」と一緒に受講することが望ましい。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到達目標

１．エアラインに関するホスピタリティの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．エアライン・ホスピタリティの実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．エアライン・ホスピタリティの現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・定期試験　５０％
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０％
・小論文　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

観光交通論　～持続可能な観光のために変革し進歩する交通運輸業の現状と未来を学ぶ～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

観光の中で移動に関わる各交通運輸機関の機能、役割、特性、そして未来形を講義する。観光交通ビジネスにおける様々な移動手段は、幾多の歴史を経て、旅行形態の多様化やAI・IoTの進歩との高い親和性により、観光産業の重要な一部として進化し続けている。一方で地球温暖化防止はこれからの交通輸送とは切っても切れない重要な課題である。持続可能な観光産業のために交通運輸機関のテクノロジーの進歩と人との関わりを講義し、講師の航空業界・旅行業界に在籍した実務経験に基づく講義は、新しい気づきと学びが溢れたものとなっている。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明　観光と交通・環境保護の関係性
第 2 回	観光と交通の係わりと歴史
第 3 回	鉄道と観光交通①　鉄道の歴史と観光との関わり
第 4 回	鉄道と観光交通②　脱輸送ビジネス、エキナカビジネス
第 5 回	鉄道と観光交通②　夜行列車の復活、ラグジュアリートレイン戦略、鉄道各社の連携
第 6 回	モータリゼーションと観光交通①　自動車の歴史的変革、ライドシェア、自動運転
第 7 回	モータリゼーションと観光交通②　高速バス、特徴のあるバス会社の経営
第 8 回	航空と観光交通①　「空飛ぶクルマ」の時代
第 9 回	航空と観光交通②　ＳＡＦ・環境にやさしい航空燃料、超音速旅客機
第10回	観光地と交通①　観光におけるＤＸの導入事例（JTBの取組み①　国内）
第11回	観光地と交通②　観光におけるＤＸの導入事例（JTBの取組み②　海外）
第12回	テーマ別考察①　クルーズ旅行、日本版ディズニークルーズ
第13回	テーマ別考察②　観光促進に貢献した世界の大工事（パナマ運河、黒部ダム、他）
第14回	テーマ別考察③　海外事例：「モンブラン」の観光開発と公共事業開発
第15回	振り返り、小論文の提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．観光交通の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．観光に与える交通の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．観光交通の現状や課題を客観的に捉えることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０%）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０%）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０%）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・定期試験　５０%
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０%
・小論文　２０%

テキスト

・テキストの指定はしない。
スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

観光政策論　～観光政策が経済と環境に与える影響を学ぶ～

齋藤　篤史

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

旅行会社における、関連省庁や自治体との実務経験に基づき、観光が経済に与える影響が極めて大きい事を理解して、国の観光政策が今後の日本の経済（特に地方創生における地域の活性化）に重要な役割を果たすことを講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	授業オリエンテーション　授業の進め方と評価方法についての説明
第 2 回	日本の観光産業の概要
第 3 回	日本の観光政策の歴史❶〔明治～第 2 次世界大戦前〕
第 4 回	日本の観光政策の歴史❷〔戦後～高度経済成長期～バブル経済崩壊後～現代〕
第 5 回	国土交通省の観光政策❶〔観光庁：アクションプログラム〕
第 6 回	国土交通省の観光政策❷〔観光庁：観光地域づくり〕
第 7 回	国土交通省の観光政策❸〔観光庁：国際観光〕
第 8 回	国土交通省の観光政策❹〔港湾局、道路局、総合政策局：クルーズ振興ほか〕
第 9 回	関係省庁の観光政策①〔内閣府、復興庁〕
第 10 回	関係省庁の観光政策③〔農林水産省、経済産業省〕
第 11 回	関係省庁の観光政策②〔外務省、文部科学省、環境省〕
第 12 回	自治体の観光政策〔各都道府県観光協会、DMO，コンベンションビューロー〕
第 13 回	海外の観光政策①〔アメリカ、ヨーロッパ、ほか〕
第 14 回	海外の観光政策②〔東南アジア、オセアニア、ほか〕
第 15 回	まとめ、理解度小テストの実施、課題レポートの提出

予習・復習

予習・復習は授業内で適宜指示しますが、業法は覚える範囲が広いため、特に復習が大事です。
・予習：次回以降取り上げるテーマに関しての予習や情報収集を指示します。
・復習：授業の復習レポートや理解度小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・観光に関する様々な分野（航空、クルーズ、鉄道、宿泊、インバウンド、地方創生、環境）に興味を持って、関連の情報収集（TV、新聞、雑誌、Web）を心掛けてください。
・授業の内容や進行順序は、変更になる場合があります。
・遅刻は授業開始後 30 分未満とし、30 分以降の場合は欠席扱いとなります。
・授業中に注意しても、引き続き寝ている場合は欠席扱いとなります。
・遅刻 3 回で欠席 1 回の扱いとなり、欠席の累計が 6 回以上の場合は、単位認定を致しません。

到 達 目 標

・「各省庁の観光関連の政策」を理解して、概略を説明できるようにする。
・「観光政策と地方創生（経済に与える影響)」について修得して、課題に対して情報収集・提案できるようにする。
・「観光政策と環境に与える影響」について学び、課題に対して情報収集・提案できるようする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解・知識（４０%）	授業内容を十分に理解しており知識も身についている。	授業内容を十分に理解している。	授業内容の理解は十分ではないが、概ね満足できる。	授業内容の理解度・知識の習得がともに不足している。	授業内容の理解が極めて不十分であり、期待する状態にない。
発想力・創造力（４０%）	課題に対して期待以上の独創的なアイデアを生み出して提案ができている。	課題に対して期待通りの提案が出来る。	創造力がやや不足気味ではあるが、概ね満足できる。	自分自身の発想が反映されていないが、最低限の内容で提案ができている。	課題に沿った提案がほとんど出来ておらず、内容も貧弱。
情報収集力・探求心（２０%）	自発的に探究心を持って積極的な情報収集の取組みができている。	情報収集が十分にできている。	情報収集力がやや不足しているが、概ね満足できる	課題に対する最低限の情報収集はできている。	課題に沿った情報集がほとんどできていない。

評価方法

課題レポート及び授業内の理解度テスト（70%)、受講態度（30%）を総合的に判断して評価します。

テキスト

使用しません。毎回授業資料を配付します。

ブライダルビジネスⅠ

～ブライダルの基礎からブライダル産業までを知ろう～

岡本　尚也

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

少子化に伴う結婚件数の減少等で縮小傾向といわれるブライダル市場ですが、他業種の進出による多角化等による新たなるサービス提供も急激に進んでいます。本講座はブライダルの歴史から市場の現況、関連産業等ブライダルビジネスを俯瞰して見られるよう講義します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法の説明）
第 2 回	ブライダルの歴史を知る（日本編）
第 3 回	ブライダルの歴史を知る（欧米編）
第 4 回	ブライダルの基礎①（見合い・婚約・結納）
第 5 回	ブライダルの基礎②（挙式・披露宴）
第 6 回	ブライダルビジネス関連産業を学ぶ
第 7 回	ブライダル関連の職種と資格の紹介
第 8 回	小テスト、まとめ（前半の振り返り）
第 9 回	コーディネーター業務とは
第 10 回	打ち合せ業務とは
第 11 回	手配業務及び当日業務とは
第 12 回	ブライダルアイテムについて①（衣装・装花・ヘアメイク）
第 13 回	ブライダルアイテムについて②（テーブルコーディネート・ペーパーアイテム・料理）
第 14 回	ブライダルアイテムについて③（基本演出・引き出物・引き菓子）
第 15 回	小テスト、まとめ（後半の振り返り）、課題レポートの提出

予習・復習

予習：次回取り上げるテーマに関して、書籍・Web 等での情報収集
復習：レポートの提出や小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・授業計画は変更となることがあります。
・フィールドワーク等の実施によりシラバスが変更となる場合があります。
・フィールドワーク実施の際に必要となる交通費は実費負担となります。
・授業開始から 30 分以内までの入室は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとします。
なお、遅刻 3 回で 1 の欠席扱いとし、欠席が 5 回を超えた場合は単位付与を行ないません。

到 達 目 標

ブライダルの歴史を学び、なぜ現在のような挙式スタイルになったのかを知ることで、ブライダル業界の可能性を考える基礎知識の習得を目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	おおむね理解はしているものの、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	内容についての理解ができていない。
積極性（50%）	ディスカッション等において、積極的な発言を行うなど、中心的な役割ができている。	ディズカッション等において、積極的な参加姿勢が認められる。	ディスカッション等において、適切に発言をし、興味を持った取り組み姿勢が認められる。	授業内での発言等、積極性が薄くやや不十分と見受けられる。	欠席が目立ち、授業への参加意思が見られない。

評価方法

・小テスト、課題レポート（50%）
・受講態度及びディスカッション参加の積極性（50%）

テキスト

スライドでの授業のためテキストは使用しません。
必要に応じて資料配布をします。

ブライダルビジネスⅡ

～ブライダルビジネスの現場を知り、新たな可能性を模索する～

岡本　尚也

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

ブライダルビジネスⅠで学んだ基礎を基に、より実務的な内容を掘り下げます。実際の現場を視察することで実務を理解し、ブライダルビジネスへの知識を深めていきます。ビジネス現場でも役に立つ「考える力」や「対人能力」等のビジネススキルも合わせて指導します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション（授業の目的、進め方、評価方法の説明）
第 2 回	挙式スタイルについて①（キリスト教式）
第 3 回	挙式スタイルについて②（神前式・仏前式）
第 4 回	挙式スタイルについて③（人前式・シビルマリッジ）
第 5 回	海外ウェディングと新婚旅行
第 6 回	ブライダル現場におけるＳＤＧｓを考える
第 7 回	披露宴の進行と演出について、小テスト
第 8 回	式場見学（予定）※見学先都合で日にちは変更になる場合があります
第 9 回	ディスカッション（式場見学での気づきの発表）
第 10 回	ブライダルプランナー検定２級問題にチャレンジ
第 11 回	関連資格問題にチャレンジ（色彩検定・食空間コーディネーター　等）
第 12 回	ウェディングプランナーに必要なビジネスマナーとコミュニケーションを学ぶ
第 13 回	ディスカッション（ブライダル業界の課題点を考える）
第 14 回	ディスカッション（新しいブライダルビジネスを考える）
第 15 回	まとめ、課題レポートの提出

予習・復習

予習：次回取り上げるテーマに関して、書籍・Web 等での情報収集
復習：レポートの提出や小テストを定期的に実施します。

履修上の注意

・前期「ブライダルビジネスⅠ」を履修していることが望ましい。
・授業計画は変更となることがあります。
・フィールドワーク等の実施によりシラバスが変更となる場合があります。
・フィールドワーク実施の際に必要となる交通費は実費負担となります。
・授業開始から 30 分以内までの入室は遅刻扱いとし、それ以降の入室は欠席扱いとします。
なお、遅刻 3 回で 1 の欠席扱いとし、欠席が 5 回を超えた場合は単位付与を行ないません。

到 達 目 標

ブライダル現場を実際に訪問し、自分なりに課題点を見つけ出し、解決方法や発展を考察し話し合うことで、ビジネス現場に必要なコミュニケーション能力や思考力を養うことを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（50%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	おおむね理解はしているものの、多少の不足がある。	最低限の授業内容を理解している。	内容についての理解ができていない。
積極性（50%）	ディスカッション等において、積極的な発言を行うなど、中心的な役割ができている。	ディズカッション等において、積極的な参加姿勢が認められる。	ディスカッション等において、適切に発言をし、興味を持った取り組み姿勢が認められる。	授業内での発言等、積極性が薄くやや不十分と見受けられる。	欠席が目立ち、授業への参加意思が見られない。

評価方法

・小テスト、課題レポート（50%）
・受講態度及びディスカッション参加の積極性（50%）

テキスト

スライドでの授業のためテキストは使用しません。
必要に応じて資料配布をします。

アニメで学ぶ環境論　～アニメ・漫画から読み解く環境問題～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

近年の日本のアニメや漫画は、その独創性やクオリティの高さから「クール・ジャパン」と評され、国内外で絶大な人気を誇っています。産業、科学、教育、芸術など多岐にわたる分野を緻密に描くこれらの作品群の中には、複雑な利害が絡み合う現代社会を映し出す良質な物語が数多く存在します。

本講義では、その中でも特に環境問題を考察する上で適した作品を厳選し、その細部を注意深く読み解いていきます。作品の分析を通じて、厳しくも温かい「人と自然との共生社会」のあり方や、複雑怪奇な環境問題の実態へと迫る、知的探求の扉を開くような講義を展開します。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	アニメで描かれる自然１ 『ピーターラビット』で描かれる動物観
第 3 回	アニメで描かれる自然２ 『鬼滅の刃』で描かれる自然の緻密さと誤り
第 4 回	アニメで描かれる自然３ 『ゴールデン・カムイ』で描かれるアイヌ文化とマタギ文化の違い
第 5 回	アニメで描かれる自然４ 『ゴールデン・カムイ』で描かれる北海道の野生動物の真偽
第 6 回	アニメで描かれる自然５ 『美味しんぼ』で描かれる世界と現実との乖離
第 7 回	日本人の自然観１ 『ミヨリの森』の世界観を分析する
第 8 回	日本人の自然観２ 『ミヨリの森』の世界観を分析する
第 9 回	日本人の自然観３ 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 10 回	日本人の自然観４ 『もののけ姫』の世界観を分析する
第 11 回	未来の地球のゆくえ１ 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第 12 回	未来の地球のゆくえ２ 『風の谷のナウシカ』の世界観を分析する
第 13 回	環境を題材にしたアニメや漫画は現状を伝えられているのか？ YouTube 動画で見られる環境系動画の分析
第 14 回	科学の進歩と環境問題１ ドラえもんは「何世紀」から来ていたのか？想定された未来と現在との矛盾
第 15 回	科学の進歩と環境問題２ 環境問題は科学で解決可能なのか？

予習・復習

・予習：次回の講義で扱うテーマのチェックをしておいてください。授業内で予習や事前準備等の指示をすることもあります。

・復習：原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらいます。講義時間内に行ないますが、これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにする訓練だと考えてください。まれに復習の一環としてレポート提出をしてもらう時があります。

履修上の注意

本講義を履修したのちは、環境問題への理解をより深めることができる『自然科学』や『環境論』を履修することを是非お勧めします。むろん、それらをまず履修してからあるいは並行して履修しながらでも構いません。なお、遅刻については公共交通機関の遅延を除き、授業開始 20 分以上が経過した際の入室は認めていません。授業中のスマホも厳禁です。

到 達 目 標

講義の目的は、①アニメや漫画で描かれる虚実を通じて、現実的に起こっている「環境問題」への興味・関心へとつなげ、自身を取り巻く自然や社会が密接につながっていることを実感できるようになること、②アニメや漫画をきっかけに知的好奇心を刺激し、新書や文庫へ、さらにその先の専門的な書籍へと関心を広げてもらうといった「学問的探究心の向上」、にあります。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解力（30%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解してい る。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしてい る。	内容についての理解ができていな い。
発展力（40%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め、それを使って社会の発展に貢献しようと考えている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち他の社会問題などと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える、	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内実施レポート 70%、定期テスト 30%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

動物愛護　～動物たちの現状と課題～	山田佐代子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

日本の動物愛護活動は東日本大震災を境に犬猫の保護団体が飛躍的に増加し、愛護活動が盛んに行われ「保護犬猫」という言葉が広く認知されるようになっている。2019 年の動物愛護法改正では飼養施設基準など数値規制も取り入れられ動物たちが置かれる状況にも徐々に改善が見られる。しかし一方では、活動内容の問題を指摘される保護団体もある。5 年を目途に改正される動物愛護法、その他の動物関連法など犬猫以外の動物にも目を向け、当然整備されていると思われている事が手つかずであることや、一般の認識と異なる点など動物たちを取り巻く現状を紐解き、動物の好き嫌いに関わらず全ての人に関係する社会的問題として理解と関心を深めていくことを目的に講義する。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（授業の進め方、履修上の注意）：神奈川県動物愛護協会について
第 2 回	動物を取り巻く環境　　：法律で区分されている動物種を知る
第 3 回	なぜノラ猫がいるのか？　：猫の歴史、犬と猫の問題の違い、TNR・地域猫活動について
第 4 回	犬猫の多頭飼育、飼育放棄：多頭飼育崩壊・飼育放棄のプロセスと課題
第 5 回	巨大化したペット産業①　：犬猫の流通、遺伝性疾患、動物取扱業の法規制
第 6 回	犬猫殺処分ゼロ　　：スローガンと現実のギャップ、しつけ、飼育者の問題
第 7 回	巨大化したペット産業②　：犬猫以外の動物たちの取扱い
第 8 回	動物輸入大国ニッポン　：外来生物問題の拡大放置の歴史と外来生物法
第 9 回	展示動物とは？　　：動物園の問題とエンリッチメントについて
第 10 回	家畜の福祉とは？　　：日本の畜産業の現状とアニマルウエルフェア
第 11 回	実験動物の福祉とは？　：動物実験の歴史と現状
第 12 回	動物虐待と法規制　　：動物虐待とは何か、動物愛護法改正と動物法医学の必要性
第 13 回	海外の動物福祉　　：動物愛護先進国の歴史と考え方
第 14 回	動物愛護と動物福祉　　：動物愛護団体の変遷、客観的な視点と想像力の重要性
第 15 回	動物愛護法の改正と今後：法改正の規制範囲と飼育者責任等について

予 習 ・ 復 習

・予習：次回講義に関する課題を出し、講義前にレポート記載してから講義を受けていただきます。

・復習：前回の講義内容から 2 問程度の小テストを行います。

履修上の注意

・授業中にワークショップを取入れたいと思います。
・動物愛護は現在進行形の問題をお話ししますので、現状や課題を知り改善策を自分で考えて頂くことが大切です。レポートは自分の言葉で記載して頂くようお願いします。
・疑問や質問はできるだけ授業中に発言して頂くようお願いします。
・30 分以上の遅刻は欠席とします（但し、交通機関の遅延や通院等の証明がある場合を除く）。

到 達 目 標

・動物の問題は動物の好き嫌いに関わらず、社会に組み込まれて起きている事を理解していただくこと。
・単に「可愛い」「可哀そう」などの表面的な視点ではなく、何故この状態があるのかに疑問を感じ、原因や関係性に興味を持って考えていただくこと。
・疑問を感じた時に質問できることや放置せず調べ、考えることを身につけていただくことも目標です。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（30%）	授業内容を超えた自主的な学修ができている	授業内容をほぼ100%理解している	授業内容を８割程度理解している	授業内容の理解に不足がある	授業内容が理解できていない
多角的視野（30%）	客観的な複数の視点で物事を論理的に捉えた上で自分の意見を明確に述べることができている	客観的な視点と自分の意見を論理的に述べることができている	客観的な視点と自分の意見を述べることができているが論理性に欠ける	客観的に見る努力は感じられるが論理性に欠ける	偏った立場から自分の意見を展開している
考察力と説明する力（40%）	課題に関する情報収集と考察に加え自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問を明瞭に表現できている	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現がやや不明瞭	課題に関して考察した自分の意見や疑問の表現が不明瞭	課題に関する考察や意見が表現されていない

評価方法

授業内レポート及び小テスト 60%、学期末レポート 30%、受講態度 10%

テキスト

・資料配布

ソーシャルメディア　～ユーザーからプランナーへ：SNS でビジネスを動かす実践思考～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

今や SNS は、単なるコミュニケーションツールを超え、ビジネスの成否を分ける最強の集客エンジンです。「バズる」現象の裏には、緻密な戦略が隠されています。

本授業では、LINE、YouTube、Instagram など、皆さんが普段使っている主要 SNS を「ビジネスの道具」の視点から講義します。企業の活用事例や運用の仕組み、各プラットフォームのアルゴリズムを学ぶことで、ただの「ユーザー」から、SNS を活用しビジネスを動かす「プランナー」へと進化することを目指して講義します。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：授業の狙い、全体像、評価方法
第 2 回	ネット社会の覇者：Web の歴史における SNS の立ち位置と進化
第 3 回	企業はどう使っている？：SNS の種類別に見るビジネス活用のリアル
第 4 回	「刺さる」投稿の作り方：目的別のコンテンツ制作とターゲット設定
第 5 回	最強の「売れる仕組み」を作る：ファンを増やし、購買につなげる SNS 活用
第 6 回	広告と投稿の境界線：インフルエンサーや PR 案件の裏側を知る
第 7 回	どれを使えば勝てる？：ビジネス目線での SNS 比較と賢い選び方
第 8 回	【LINE】日本最強のインフラ：顧客と直接つながる「公式アカウント」戦略
第 9 回	【YouTube】動画時代の王様：再生回数を稼ぐロジックと収益化モデル
第 10 回	【X (Twitter)】拡散力の覇者：リアルタイム情報と「炎上」のリスク管理
第 11 回	【Facebook】中小企業の救世主：実名制が生む信頼とターゲットへの接近法
第 12 回	【Instagram】映えから共感へ：ビジュアルで世界観を売るブランディング
第 13 回	【TikTok】ショート動画の衝撃：無名でもバズるアルゴリズムの秘密
第 14 回	プラットフォームの儲けのカラクリ：各社のビジネスモデルと決算分析
第 15 回	総まとめ：SNS 戦略を自分の就活に活かす

予 習 ・ 復 習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ソーシャルメディアの基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ソーシャルメディアの知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点・受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
・期末試験：３０%（配付資料やノート等は持込可）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

生命の尊重 ～他者との共生を考える～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

「生命の尊厳」とは、単に「命を大切にする」ということなのでしょうか。私たちは日々、多くの「いのち」に囲まれて生きています。しかし、自分とは異なる存在の声や感覚、その置かれている状況に気づくことは、容易ではありません。
本講義では、まず命の声を「聴く」ことに着目し、サウンドマップの作成を通して、自分を取り巻く環境や、普段は意識することのない他者の存在に目を向けます。そのうえで、水俣病をはじめとする公害問題、動物をめぐる問題、昔話や妖怪、先住民の世界観、人間社会における多様性や生物多様性などを取り上げます。これらを通して、科学や経済、文化、歴史、自然環境などの視点から「いのち」のあり方を見つめ直し、私たちは何を「命」として扱い、何をその外側に置いているのかを考えます。そして、異なる存在とともに生きるとはどういうことなのかを考えることを、本講義の目的とします。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：本講義の概要説明
第 2 回	サウンドマップの作成１：科学と宗教、外部環境と内部環境
第 3 回	サウンドマップの作成２：他者の声に耳を傾けるということ
第 4 回	サウンドマップの作成３：サウンドマップを作成してみよう
第 5 回	サウンドマップの作成４：サウンドマップの作成を終えて
第 6 回	サウンドマップの作成５：聴覚から視覚へ・・・五感を拡大するということ
第 7 回	水俣病１：日本における公害問題、環境問題の原点である MINAMATA について学ぶ
第 8 回	水俣病２：日本における公害問題、環境問題の原点である MINAMATA について学ぶ
第 9 回	水俣病３：日本における公害問題、環境問題の原点である MINAMATA について学ぶ
第 10 回	動物から学ぶいのち：ペットから畜産動物、野生動物等の現状と課題を考える
第 11 回	負のベクトルをなくすために：ゲストスピーカーによる講義
第 12 回	昔話におけるいのち：昔話、妖怪、民俗学、アイヌ等の先住民の世界観等を知る
第 13 回	多様性を生きる①：人間社会における多様性、生物多様性を考える
第 14 回	多様性を生きる②：多様性を世界へ拡大して考える
第 15 回	総括～過酷な現代社会を共に生きるということ

予習・復習

予習・復習については、授業のなかで提示するようにします。講義ごとに、レポート（意見・感想・質問等含む）を必ず提出してもらいます。質問や意見については次の講義の冒頭で返答するようにします。

履修上の注意

「なぜだろう、どうしてだろう？」という気持ちを常に大事にしてください。質問があれば、講義中でも講義後でも遠慮なくどうぞ！なお、ゲストスピーカーの講義については、都合により講義の順番が替わる可能性があることをご承知ください。

到達目標　**到達目標**

自分とは異なる生命や存在の声に耳を傾け、自分を取り巻く環境や他者の存在に気づく感性を身につけることを目指します。また、動物や野生生物、公害、多様性など様々な問題を通して、私たちは何を「命」として扱い、何をその外側に置いているのか、その線引きがどのような社会の仕組みや価値観のなかで生まれているのかを考えます。こうした学びを通して、生命を一面的に捉えるのではなく、多様な視点から「いのち」と社会との関わりを考察し、異なる存在とともに生きることの意味を自ら考える力を身につけることを到達目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準 期待している 以上である	十分に満足 できる	やや努力を 要する	努力を要する	相当の努力を 要する
理解度 （40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力 （30%）	解法が分からない他人にアドバイス ができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート） （30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

講義ごとの提出レポート　８０％
講義内での発表その他　２０％

テキスト

特になし。必要な場合には、こちらで資料等を配付します。

テーマパーク論

～毎回ワクワク、テーマパークを知り尽くして、そして目指そう～

冨吉　光則

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

持続可能な観光産業の育成において旅行消費額を増加させるには、「モノ」消費から「コト」消費へのシフトが重要である。エンターテイメント分野の中で身近で人気のあるテーマパークをマネジメントの観点から深く考察することで「コト」消費の促進へとつなげることが可能となる。成功と失敗を繰り返してきた歴史、成長しているテーマパークと運営企業の戦略ポイントを始めとしたエンタメ産業を、講師の旅行会社在籍時の実務経験を生かして分かりやすく、さらに人気の職業に就くための構成とした他にはないテーマパーク論を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	オリエンテーション　授業計画と成績評価の方法の説明、テーマパークとは
第 2 回	世界・日本のテーマパーク産業の成り立ちと発展の歴史、テーマパークランキング
第 3 回	東京ディズニーリゾート（TDR）の考察①　誘致のドラマと SCSE
第 4 回	TDR の考察②　非日常空間と独自の世界観
第 5 回	TDR の考察③　コロナ後の戦略、大型投資による今後の成長
第 6 回	TDR の考察④　日本版ディズニークルーズの実態とチャンス
第 7 回	ユニバーサルスタジオジャパン（USJ）の考察①　誘致～開園、そして低迷
第 8 回	USJ の考察②　USJ を蘇らせた V 字回復マーケティング戦略
第 9 回	USJ の考察③　USJ を再生したスタッフたちが手掛ける数々の事業戦略
第 10 回	沖縄新テーマパーク「ジャングリア沖縄」①　開園までの苦難
第 11 回	沖縄新テーマパーク「ジャングリア沖縄」②　開園後の動向、今後の戦略
第 12 回	サンリオピューロランドの考察　女性社長の改革による V 字回復、新テーマパーク開発
第 13 回	ハウステンボス（HTB）の考察　倒産からカリスマ経営者による再生、そして今後は
第 14 回	テーマパークの課題：どうする？真夏の暑さを乗り切れ
第 15 回	振り返り、小論文の提出

予習・復習

・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に臨むこと。
・復習：小論文の形で実施する。

履修上の注意

・授業計画は変更になることがある。
・フィールドワークの実施、ゲストスピーカーの招聘によりシラバスの変更が生じることもある。
・フィールドワーク、企業訪問を実践する際の交通費など実費は学生負担となる。安全対策に留意して行う。
・講義の理解を深めるため、講義テーマと関連する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
・授業開始から 30 分までは遅刻として受講を認める。30 分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席の累計が 5 回を超えると単位付与は行わない。
・受講中の以下の行為には厳正に対処する。1 回目の注意のあと改善しない場合は受講させない処置をとる。〇私語、〇必要のないスマホ視聴、〇無届による退出行為、〇机に突っ伏しての爆睡状態

到 達 目 標

１．テーマパークの知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘することができる。
２．テーマパーク運営の実践に向けて、その方法を構想、立案ができる。
３．テーマパークの現状や課題を客観的に捉えることができる。
４．テーマパークに応募する準備や就活戦略を計画することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（５０％）	授業内容を十分理解し、設定した課題の全てを学修している。	授業内容をほぼ理解できており課題も一通り対応できる。	授業内容と課題は理解してはいるが、課題対応が十分でない。	最低限レベルの理解のため、課題の対応ができない。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（３０％）	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	問題の趣旨を理解し、概ね回答を導くことができる。	授業のファイルを参照しながら解決箇所を探すことができる。	課題の意味は把握しているが授業内容の一部にも理解ができていない。	授業の内容も課題に対する理解もなく課題解決能力がない。
解法を文章で説明する力（レポート）（２０％）	課題の趣旨を完全に理解し独自の視点から説得力のある記述ができる。	主張したい事柄に対する根拠をデータや先行研究で明記し、説得力がある。	理路整然とした記述ができず論理に飛躍があるため十分な説得力がない。	主張したい事柄に対する根拠を示すことはできるが記述にまとまりがない。	最低限の内容について説明ができる。

評価方法

以下の３項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。
・定期試験　５０％
・平常点（毎回の授業内課題シート、予習課題の提出）　３０％
・小論文　２０％

テキスト

・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配付する。

健康ビジネス論　～新たな健康ビジネスで地球上の人々を幸福に～

一戸　真子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

生活習慣病が死因の上位を占める中、毎日のライフスタイルそのものが病気の原因や予防に深く関わっていることが次第に明らかにされつつある。急成長する健康ビジネスの実態について講義し、良質な健康ビジネスの発展は、世界中の人々を健康に導くことができることについても理解を深められるよう講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	健康ビジネスとは？
第 2 回	ヘルスプロモーション、プライマリ・ヘルスケア、健康増進法
第 3 回	セルフケア、セルフメディケーション時代への突入
第 4 回	五感に働きかける健康ビジネス
第 5 回	衣・食・住のすべてに関連する健康ビジネス
第 6 回	食、運動、休養・睡眠
第 7 回	人間関係と健康ビジネスーストレス・コーピング
第 8 回	フード・ビジネス①和食のグローバル化、メディカル・ハーブ
第 9 回	フード・ビジネス②トクホと栄養機能食品、サプリメント
第10回	フィットネスビジネス
第11回	ヒーリング・ビジネス、リラクゼーション・ビジネス
第12回	アミューズメント・レクリエーションビジネス
第13回	生活関連（日用品・衛生用品)、フレイル予防ビジネス
第14回	アンチエイジング・ビジネス、
第15回	グローバル・ヘルス・ビジネスー健康ビジネスの未来

予習・復習

・予習：次回の単元についての教科書部分の予習を 1 時間程度毎回行うこと。

・復習：授業での実施内容について、1 時間程度の振り返りのための復習を毎回行うこと。

履修上の注意

遅刻（20 分まで）3 回で欠席 1 回とする。

到 達 目 標

1．健康ビジネスの対象について理解できる。
2．健康ビジネスの種類と内容について説明できる。
3．健康ビジネスの必要性について理解できる。
4．人々の健康に必要な要素について説明できる。
5．時代のニーズに合った新たな健康ビジネスを創造することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（ 50 %）	深い理解に基づき自身の言葉で置き換えて表現きる。	ほぼ 100%理解している。	理解はしているが、十分ではない。	あまり理解していない。	理解できていない。
説明する力（ 30 %）	具体的な例も取り上げ、きちんと説明できる。	ほぼ 100%説明することができる。	説明はできるが、内容は十分ではない。	やや不十分である。	説明できない。
創造する力（ 20 %）	独創的に創造することができる。	ほぼ 100%創造することができる。	創造することはできるが、不十分である。	十分に創造することができない。	創造できない。

評価方法

授業内レポート 40%、期末試験 60%

テキスト

・教科書名：医療情報システム入門
・著 者 名：保健医療福祉情報システム工業会　JAHIS 編
・出版社名：社会保険研究所
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978 - 4789428705）

スポーツマネジメント論～スポーツ組織の経営活動を知る～	大野　貴司

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

本講義では、プロスポーツクラブ、スポーツ NPO、スポーツ用品メーカー、フィットネスクラブ、スポーツ小売店、スポーツイベント会社など、スポーツを「事業」として行う活動の総称である「スポーツマネジメント」について講義する。具体的には、「事業」としてのスポーツの特性のみならず、事業としてスポーツを取り扱う組織の経営活動や管理方法について、実際の企業や組織の経営活動を事例に挙げながら講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマネジメントとは何かを理解する。
第 2 回	東北楽天ゴールデンイーグルスの事例からスポーツマネジメントの基本原理を理解する。
第 3 回	アシックスの事例からスポーツ企業の経営戦略について理解する。
第 4 回	アルビレックス新潟の事例からスポーツ企業のマーケティングについて理解する。
第 5 回	スポーツ企業の事例からスポーツ企業の組織構造について理解する。
第 6 回	北海道日本ハムファイターズの事例からスポーツ組織のミクロ組織的側面について理解する。
第 7 回	大松博文と岩出雅之の事例からスポーツ組織のリーダーシップについて理解する。
第 8 回	アシックスの事例からスポーツ企業の国際経営について理解する。
第 9 回	マンチェスター・ユナイテッドの事例からスポーツ企業の多角化について理解する。
第 10 回	ミズノの事例からスポーツ企業の経営者に求められる企業家精神について理解する。
第 11 回	カーブスの事例からスポーツ企業におけるイノベーションについて理解する。
第 12 回	ビジネスとしての日本プロ野球（NPB）の特徴、現状、課題について理解する。
第 13 回	ビジネスとしての J リーグの特徴、現状、課題について理解する。
第 14 回	ニッポンランナーズの事例からスポーツ NPO のマネジメントの特徴について理解する。
第 15 回	IOC を事例としてスポーツイベントのマネジメントの特徴について理解する。

予習・復習

・予習：教科書の該当箇所を読み込んで、疑問点を整理しておくこと。

・復習：教科書の該当箇所を読むこと。講義で配布したプリントやノートを読み返すこと。

履修上の注意

・同時間帯に開講されている科目数の関係から少人数授業になることが予想されるので履修者確定後、指定座席制とするので、前列着席を希望する者は事前に申告すること。
・就職活動による欠席は欠席届の提出と課題の提出により出席扱いとする。
・欠席回数の合計回数が 6 回に達した者には単位を認定しない。就職活動や法定伝染病により休んだ者はそれ以外では極力休まないこと。

到 達 目 標

・「スポーツマネジメント」とは何か、自分の言葉で説明できるようになること。
・スポーツ企業・組織の経営事例を、理論を用いながら説明できるようになること。
・スポーツマネジメント現象を分析するためのフレームワークを獲得すること。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
授業の理解度（ 50%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ完全に理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
課題解決能力（ 30%）	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考え、報告書を作成し、人前でプレゼンすることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりの解決策を考えることができる。	スポーツビジネスが抱える問題について自分なりにではあるが現状分析ができる。	自分が関心のあるスポーツについてはビジネス的な側面について自分なりに現状分析ができる。	スポーツビジネスが抱える問題について関心が無く、全く考えることができない。
論理的な文章作成能力（ 20%）	スポーツビジネスの実務家及び研究者に対して提言性と論理性の高い内容のレポートを作成することができる。	論理性を有し、スポーツビジネスの実務家及び研究者に対し、多少の提言性のあるレポートを作成することができる。	不足する部分があるが論理性を備えたレポートを作成することができる。	不足する部分はあるが、自分の言いたいことは読み手に最低限伝えることができる文章を作成できる。	内容について自分でも理解できておらず、読み手にも伝えることができない。

評価方法

・授業内課題　60%（授業中に提示）
・レポート　15%（教科書から出題）
・期末試験　15%（教科書のみ持ち込み可）

テキスト

・教科書名：スポーツ経営学入門―理論とケース―（第 4 版）
・著 者 名：大野貴司
・出版社名：三恵社
・出 版 年（ISBN）：2023 年（978-4-86693-724-3）

スポーツマーケティング論

～ｽﾎﾟｰﾂﾋﾞｼﾞﾈｽﾓﾃﾞﾙの理解とﾏｰｹﾃｨﾝｸﾞ戦略立案のための発想法～

織戸　恒男

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	後期	2	選択	専門科目　選択

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

スポーツビジネスの新奇性や特殊性のみに焦点を当てることなく、スポーツビジネスの実務で活用できるマーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）とスポーツビジネスのマネジメントに欠かせないマーケティング戦略立案・戦術策定のための発想法を、担当教員の広告会社及びリサーチ会社でのスポーツビジネス実務経験に基づいて、具体的な事例を取り上げて講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	スポーツマーケティングとは？ スポーツマーケティングの定義／スポーツビジネスモデルとトリプルミッション
第 2 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ① 日本プロ野球の概略／横浜 DeNA ベイスターズにみるスポーツビジネスの特徴
第 3 回	スポーツビジネスとマーケティングの基本 ② 横浜 DeNA ベイスターズのマーケティング戦略と戦術
第 4 回	スポーツビジネスとスタジアム・アリーナのマーケティング スタジアム・アリーナの重要性／プロスポーツチームによるスタジアムの所有・管理
第 5 回	スポーツビジネスとメディア テレビ放映権／ネット配信事業者・SNS プラットフォーマーが獲得した放映権
第 6 回	スポーツビジネスと広告・プロモーション スポーツとスポンサーシップ／若者とつながるための新しい潮流（e スポーツ）
第 7 回	オリンピックのマーケティング 世界 No.1 のイベントブランド／オリンピックのブランドエクイティと課題
第 8 回	FIFA ワールドカップのマーケティング 世界 No.1 のスポーツコンテンツ／FIFA ワールドカップのマーケティング課題
第 9 回	ヨーロッパのサッカーリーグ・クラブのマーケティング プレミアリーグ／ブンデスリーガ／ラ・リーガ／セリエ A／リーグ・アン
第 10 回	アメリカのプロスポーツのマーケティング NFL／MLB／NBA／NHL／MLS
第 11 回	日本のプロスポーツのマーケティング プロ野球／J リーグ／バスケットボール／ラグビー
第 12 回	スポーツ用品メーカーのマーケティング アディダス／ナイキ／アシックス／プーマ
第 13 回	スポーツビジネスによる地方創生 地域マーケティング／e スポーツによる地方創生
第 14 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を調べる（グループワークによる資料作成） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか
第 15 回	スポーツ関連企業のマーケティング活動の実例を発表する（ｸﾞﾙｰﾌﾟによるﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ） どのような人に・どのような価値を・どのように届けているのか

予習・復習

・予習：講義で取り上げるテーマは、必ずチェックすること（授業内で事前準備の指示あり）。
・復習：興味や関心を持ったこと／理解できなかったこと／感想や要望／質問などを、毎回配布するシート（ミニットペーパー）に記入し、次回講義までに必ず提出すること（他に、授業内で提出課題の指示あり）。
※予習・復習ともに、指示した課題については、授業内で発表・討議する時間を設ける。

履修上の注意

1. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等のマーケティング活動を想定し、講義で解説するテーマに当てはめて考える習慣を身につけること。
2. 受講者の理解度などに応じて、授業内容を変更することがある。
3. 交通機関の遅延等を除き、遅刻は原則認めない（やむを得ない事由の場合には要事前連絡）。
4. 常識を逸脱したり、社会のルールを守れない場合には退室を命じる。

到 達 目 標

1. スポーツビジネスモデルを理解し、スポーツビジネスの現状と課題・将来性を説明することができる。
2. マーケティングの考え方の枠組み（フレームワーク）を理解し、スポーツビジネスに応用することができる。
3. 身近なプロスポーツチームやクラブ、スポーツ用品メーカー・小売店、スポーツ施設、スポーツイベント等の「マーケティング戦略と戦術」を説明することができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
スポーツビジネスの課題・将来性の説明（30%）	スポーツビジネスモデルの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	スポーツビジネスモデルの基本とフレームワークを説明できる。	スポーツビジネスモデルの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	スポーツビジネスモデルの基本もフレームワークも十分に説明できない
マーケティングのスポーツビジネスへの応用（30%）	マーケティングの知識の習得にとどまらず、分析力や創造力を発揮して、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングのフレームワークを用いて、スポーツビジネスに関する説明ができる。	マーケティングの基本とフレームワークを説明できる。	マーケティングの基本を理解しているが、フレームワークまでは説明できない。	マーケティングの基本もフレームワークも十分に説明できない
スポーツ関連企業のマーケティング活動の説明（40%）	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠と論理的な説明に基づき、正確かつ説得力のある結論を導いている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠に基づき、論理的な説明がほぼできている。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠を示して概ね正確に説明しているが、読み手を納得させる書き方や結論となっていない。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、一部根拠を示しているが、参照したデータや文章の意味を取り違えたり、論理的な説明ができていなかったりする。	スポーツ関連企業のマーケティング戦略と戦術について、根拠がまったく示されておらず、情緒的な文章が続き、論理的な説明ができていない。

評価方法

後期定期試験 40%、グループワークによる資料作成とプレゼンテーション 30%、受講態度 30%

テキスト

- 特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。
- 講義で用いた資料は Microsoft Teams の「スポーツマーケティング論」のチームにある「クラスの資料」のフォルダーにアップロードする（必要に応じてダウンロードすること）。

スポーツ心理学　～理論と実践的活用～

相羽枝莉子

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

スポーツ心理学の基礎知識を幅広く身につけ，健康・スポーツにおける課題に対して，スポーツ心理学の観点から対処法を理解できるよう講義する。また，学んだ理論を自身の日常生活や競技場面に応用し，健康増進や競技力向上に役立てられるよう，実践的な素養を養うことを目指す。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス
第 2 回	スポーツ心理学の概要と小史
第 3 回	動機づけ・目標設定
第 4 回	体育と心理
第 5 回	運動学習・運動制御
第 6 回	運動学習の過程と練習法
第 7 回	運動指導の心理学
第 8 回	試合前の心理的準備
第 9 回	メンタルトレーニング
第 10 回	イメージの活用
第 11 回	アスリートのメンタルヘルス
第 12 回	ストレス対処とカウンセリング
第 13 回	スポーツと心理社会的発達
第 14 回	運動による心理的効果
第 15 回	総括（記述式の小テスト）

予習・復習

・予習：各回の資料やメモした内容などを読み返すこと。

・復習：各回の最後に，次回の講義に向けたキーワードを伝えるので，それについて調べること。

履修上の注意

30 分以上遅刻した場合には欠席扱いとする。また，授業中の私語，スマートフォン等による授業と無関係な操作は，学修効果を著しく低下させるため慎むこと。

到 達 目 標

①運動・スポーツにおける心理学的課題に対して問題意識をもち，理解できる。
②スポーツ心理学の知識を基に，運動・スポーツにおける課題の解決に向けた自分の考えについて，ディスカッションやレポート課題で説明できる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修が認められる。	講義内容をほとんど理解している。	講義内容は理解しているが，やや不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。
思考力・独自性（60%）	課題に対する解決方法について，心理学の専門用語を用いて説明できる。	課題に対する解決方法について，心理学的視点で考えることができる。	資料を参考にすれば，独自で課題解決方法について説明できる。	他者のアドバイスがあれば，課題解決方法について説明できる。	他者のアドバイスがあっても，課題解決方法について説明することができない。

評価方法

・知識・理解度（30%）：レポートおよびリアクションペーパーで評価する
・思考力（50%）：レポートおよびリアクションペーパーで評価する
・積極的な参加（20%）：授業への参加態度，授業の出席率で評価する

テキスト

教科書は指定しない。各授業のはじめに授業資料を配布する。

特殊講義Ⅰ　～ビジネス社会と環境保全～	劉　　博

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2	後期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

「環境問題」と聞くと、「何かを我慢しなければならない」「ボランティア活動」というイメージを持っていませんか？現代のビジネスにおいて、環境への配慮は重要な「競争戦略」であり、莫大なマネーが動く「成長市場」です。

本授業では、「脱炭素（カーボンニュートラル）」を切り口に、企業が生き残るための環境経営戦略を学びます。EV 戦略、ESG 投資、次世代エネルギーの水素など、これから伸びる業界やビジネスモデルについて講義し、皆さんの「ビジネス社会と環境保全の視点」を養います。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス：授業の狙い、全体像、評価方法
第 2 回	なぜ世界は「脱炭素」へ急ぐのか：気候変動と国際ルールの裏側
第 3 回	環境を守ると儲かる仕組み？：「カーボンプライシング」と「ESG 投資」
第 4 回	再生可能エネルギーの最前線（1）：太陽光・風力・水力の可能性と限界
第 5 回	再生可能エネルギーの最前線（2）：地熱・バイオマスから、水素・原子力まで
第 6 回	モビリティ革命のゆくえ（1）：電気自動車（EV）と燃料電池車（FCV）
第 7 回	モビリティ革命のゆくえ（2）：空飛ぶ燃料（SAF）とゼロエネルギービル（ZEB）
第 8 回	CO_2 を消してしまう技術（1）：地中に埋める？ 再利用する？（CCS・CCU）
第 9 回	CO_2 を消してしまう技術（2）：森と海が持つ吸収力（森林管理・ブルーカーボン）
第 10 回	業界はどう変わる？（1）第一次産業：スマート農業と食料生産の未来
第 11 回	業界はどう変わる？（2）第二次産業：ものづくりのグリーン革命
第 12 回	業界はどう変わる？（3）第三次産業：GAFA も取り組む脱炭素サービス
第 13 回	自社だけでは許されない：「サプライチェーン」全体で挑む CO2 削減
第 14 回	あの企業はどう動いている？：脱炭素経営のリアルな成功・失敗事例
第 15 回	総まとめと期末課題の作成・提出

予習・復習

・予習：次回授業で取り上げるテーマについて予習や情報収集を指示する。
・復習：前回授業で学習した内容の復習問題と解説を定期的に実施する。

履修上の注意

・授業計画（テーマや順番など）は変更になることがある。
・授業開始から 30 分以内は遅刻として受講を認める。（遅延証明や体調不良等の証明がある場合を除く）
・遅刻 3 回で 1 回の欠席扱いとし、欠席が累計６回以上の場合、単位付与は行わない。

到 達 目 標

・ビジネス社会と環境保全の基礎知識を理解し、関連分野の現状、特徴や諸課題について説明できる。
・ビジネス社会と環境保全の知識を応用し、自らの視野と可能性を広げることができる。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（４０%）	基礎学習の理解度が十分であり知識も身についている。	基礎学習の内容を十分に理解している。	基礎学習の内容を概ね理解している。	基礎学習の理解度が不足している。	基礎学習の理解度が極めて不足している。
応用力（３０%）	応用学習の理解度が十分であり活用スキルも身についている。	応用学習の内容を十分に理解している。	応用学習の内容を概ね理解している。	応用学習の理解度が不足している。	応用学習の理解度が極めて不足している。
受講姿勢（３０%）	強く興味をもって常に授業に出席し、自発的に関連知識を探求している。	興味と探究心をもって積極的に授業に出席している。	やむを得ない事情により一部欠席があり、探究心がやや弱い。	無断欠席があり、授業への参加は不十分なところがある。	無断欠席が多く、授業への参加意欲が見られない。

評価方法

・平常点・受講姿勢：７０%（授業内小課題またはリアクションペーパーの提出）
・期末課題：３０%（第 15 回授業内で作成・提出）

テキスト

・テキストの指定はしない。毎回授業資料を配付する。
・授業ごとのテーマに沿った参考文献等は適宜紹介する。

特殊講義Ⅱ　～SPI（非言語）対策講座～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2年	前期	2	選択	専門科目　選択

授業概要

本講義は、多くの企業が採用する入社試験「SPI試験（非言語分野）」の対策を目的とした授業です。特に文系学生が苦手意識を持ちやすい分野に焦点を絞り、頻出および必出の問題について、基礎的な解法パターンを丁寧に解説します。社会人として必要とされる数学的な教養を身に付けるため、また、これまで数学を避けてきたことで基礎知識に不安を感じている方にとっては、その遅れを取り戻す絶好の機会です。特に数学を苦手とする方は、将来の進路選択を確かなものにするためにも、積極的に受講してください。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	SPI とは何か？/ガイダンス 講義の進め方や成績の評価方法などについて
第 2 回	習熟度判定テスト 中学生レベルの数学でどの分野の知識が欠落しているのかを知るためのテストを実施
第 3 回	基本的な計算の復習その２ 倍数，約数、公倍数，公約数
第 4 回	基本的な計算の復習その３ 分数計算，四則計算
第 5 回	基本的な計算の復習その４ 文字式
第 6 回	基本的な計算の復習その５ 方程式
第 7 回	基本的な計算の復習その６ 割合/比率/分数【応用】
第 8 回	割合/比率/分数【基礎】
第 9 回	割合/比率/分数【応用】
第 10 回	料金計算【基礎】
第 11 回	料金計算【応用】
第 12 回	速さと距離【基礎】
第 13 回	速さと距離【応用】
第 14 回	濃度計算【基礎】
第 15 回	濃度計算【応用】

予習・復習

・予習：次回の授業内容について各自事予習するようにしてください。
・復習：講義毎に配布されるプリントを基に必ず復習をするようにしてください。

履修上の注意

本授業は、「基礎的な問題への理解」を第一目標に掲げた、特に数学に対して苦手意識を持つ方を対象とした内容になっています。社会人として必要とされる教養としての数学知識を習得できる、貴重な機会であると捉えて受講してください。なお、公共交通機関の遅延を除き、授業開始から 20 分以上経過した際の入室は認めません。講義の円滑な進行を妨げるため、時間厳守を徹底してください。また、授業中のスマートフォン使用についても、教員が許可した場合を除き一切禁止いたします。学修に集中できる環境づくりに協力してください。

到 達 目 標

①数学への苦手意識をなくし実力をつける、②SPI 非言語分野の基礎的問題について理解できる、③講義後は復習を行ない、試験にチャレンジできるレベルにまで到達する、ことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	計算の意味を理解した上で、他の項目にも応用できるか常に考えている。	計算だけでなくその意味を深く理解している。	計算はできる。	計算ができるようになろうと努力している。	計算が全くできない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め，SPI 対応もできている。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味をもち簿記会計やなどと結びつけて考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（　%）					
（　%）					

評価方法

講義時間内提出物 20%，定期テスト 80%

テキスト

・教科書名：なし
　授業毎に用意した問題用紙を配布します。

特殊講義Ⅲ　～基本的なパソコン操作の再確認～

小島　望

年次	時期	単位	卒業	区分
1・2 年	前期	2	選択	専門科目　選択

授 業 概 要

本講義は、パソコンの操作に自信がない方を対象とした、完全な初心者向けの授業です。パソコンの基本操作から、Word や Excel といったビジネスに不可欠な Office ソフトの活用方法まで、一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと丁寧に指導します。過去に「情報処理」の講義を受けたものの、十分にスキルが身につかなかったと感じている方や、自分の操作に不安が残っている方にとっては、基礎を固め直すための最適な機会となります。特にパソコンに対して苦手意識を持っている方は、将来の社会人生活を支える確かなスキルを習得するために、ぜひ受講してください。

授 業 計 画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについての説明）
第 2 回	パソコンの基本操作（PC の各種基本設定と変更方法など）
第 3 回	パソコンの基本操作（簡単な文字入力とタイピング練習）
第 4 回	インターネット検索（ネット検索による情報収集方法）
第 5 回	電子メールの設定と使用（メール交換・ルールとマナー）
第 6 回	電子メールの設定と使用（フリーメールの取得）
第 7 回	インターネット・電子メールを利用する際の注意（ウイルス対策ほか）
第 8 回	Word を使ったイラスト作成（簡単なイラストの書き方）
第 9 回	Word を使った文章作成（文字の大きさや色，書体などの使い分け）
第 10 回	Word を使った文章作成（長文タイピング）
第 11 回	Word を使った文章レイアウト（チラシ作成）
第 12 回	Excel を使った表作成と表計算（表作成）
第 13 回	Excel を使った表作成と表計算（表計算）
第 14 回	Excel を使った表作成と表計算（グラフ作成）
第 15 回	テスト対策

予 習 ・ 復 習

・予習：「キータッチの練習を毎日必ず 30 分以上すること」を予習の代わりとします。
・復習：講義で学んだ内容について必ず復習をするようにしてください。

履修上の注意

本講義は、必修科目である「情報処理」の内容を十分に理解できなかった方や、より緩やかなペースで学びたい方、操作方法に不安が残る方など、基礎から再確認したい方を対象とした内容となっています。社会に出る前に、ビジネスシーンで不可欠なパソコン操作を習得できる最後の機会であると捉え、真摯な姿勢で受講してください。なお、公共交通機関の遅延を除き、授業開始から 20 分以上経過した際の入室は認めません。講義の円滑な進行を妨げるため、時間厳守を徹底してください。また、授業中のスマートフォン使用についても、教員が許可した場合を除き一切禁止いたします。学修に集中できる環境づくりに協力してください。

到 達 目 標

①手元をあまり見なくてもキーボードの操作ができるようになる、②パソコンへの苦手意識をなくし基本的操作方法を身につける、③資格試験にチャレンジできるレベルにまで到達する、ことを目標とします。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
基礎力（40%）	授業内容を越えた自主的な取り組みができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが 授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
発展力（30%）	与えられた内容以上に自らすすんで学習を進め，資格取得にも挑戦できるレベルに至る。	学習したものを強みとして就活などで利用することを考えている。	学習内容の意味を見出すことを考えている。	単位だけ取れればよいと考えている。	単位だけ取れればよいとさえも考えていない。
受講姿勢（30%）	強く興味を持ち資格取得を念頭に考えていることが質問内容などから窺える。	強く興味を持っている様子が質問内容などから窺える。	興味を持っている様子が受講態度などから窺える。	興味を持とうと努力する様子が受講態度などから窺える。	興味を全くもっていない様子が受講態度などから窺える。
（ %）					
（ %）					

評価方法

講義時間内課題提出 50%、定期テスト 50%

テキスト

必要があれば、その都度資料を配布します。

国語(書写を含む)　～言語活動で国語力を高めよう～

佐内　信之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校における国語という教科の位置づけと内容の概略を理解する。さらに、言葉の手本となるべき教員自身の国語に対する意識を高め、思考力・判断力・表現力につながる言葉の力（話す力・聞く力、書く力、読む力）を確かなものにし、具体的な言語活動を通して各技能を磨き高めるように指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス　国語「概説」
第 2 回	ことばの力1　話す力・聞く力
第 3 回	ことばの力1　書く力1－文字を書く－
第 4 回	ことばの力1　書く力2－文章を書く－
第 5 回	ことばの力1　読む力
第 6 回	文章のいろいろ　説明的文章
第 7 回	文章のいろいろ　文学的文章
第 8 回	文章のいろいろ　言語文化
第 9 回	ことばの理解　表記
第10回	ことばの理解　ことばのきまり
第11回	ことばの理解　語と意味
第12回	ことばの力2　音読の力
第13回	ことばの力2　コミュニケーションの力
第14回	ことばの力2　情報活用の力
第15回	ことばの力2　論理の力

予習・復習

・予習：授業計画にしたがって、事前に教科書の該当箇所を読んでおく。

・復習：課題には自分の感想や意見を自由に表出し、各自の課題解決能力を評価する。

履修上の注意

・授業の中に演習形式の内容を多用していきたいと考えている。積極的な参加意欲を期待したい。
・遅刻は３０分以内、遅刻３回で欠席１回の扱いとする。

到 達 目 標

・言語活動を通して国語力を構成する「考える力」「感じる力」を深める。
・日常の言語生活において「聞く・話す」「読む」「書く」という具体的な言語活動のスキルを高める。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を越えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	理解はしているが授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容を最低限は理解している。	内容についての理解ができていない。
課題解法能力（30%）	解法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	参考書や教科書を参考にすれば、独自に課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。
解法を文章で説明する力（レポート）（30%）	他人を説得する内容を記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点はあるが、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。
（　%）					
（　%）					

評価方法

授業内レポート 70%、学期末レポート 30%

テキスト

・教科書名：言語活動中心　国語概説　改訂版－小学校教師を目指す人のために－
・著 者 名：岩崎淳ほか
・出版社名：学文社
・出 版 年（ISBN）：2022 年（9784762031274）

生活　～体験を通して気づきの質を高める～

中野　英之

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	後期	2	選択	－	選択必修	－

授業概要

小学校低学年で設定されている教科「生活科」について、その成立、目標、学習活動例についての学習を通して、低学年期の児童の学びについて考える。特に、本授業においては、生活科の９つの内容について、実際に具体的な活動を通して各内容の理解を深めるとともに、児童の気づきを促す環境構成の在り方について深く考察することを重視する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	ガイダンス、生活科の歴史的背景と意義について講義する。
第 2 回	「生活」の内容と目標について講義する。
第 3 回	（1）「学校と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 4 回	（2）「家庭と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 5 回	（3）「地域と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 6 回	（4）「公共物や公共施設の利用」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 7 回	（5）「季節の変化と生活」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 8 回	（6）「自然や物を使った遊び」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 9 回	（7）「動植物の飼育・栽培」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 10 回	（8）「生活や出来事の伝え合い」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 11 回	（9）「自分の成長」の内容について講義し、活動を通して理解を深める。
第 12 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める①
第 13 回	科学原体験について講義を行うとともに、活動を通して理解を深める②
第 14 回	生活科の授業づくりの基礎について講義する。
第 15 回	授業全体の振り返りを行う。

予習・復習

・予習：学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでおいてください（週１時間）。
・復習：毎回の授業に関する振り返りシートを仕上げ、授業の振り返りを行ってください（週１時間）。

履修上の注意

・学習内容に関する学習指導要領の内容を事前に読んでください（週 1 時間）。授業後は授業で紹介する参考文献等も参考にしながら振り返りを行ってください（週 1 時間）。
・天候、履修者数などの理由で活動内容が前後あるいは変更になる場合もあります。
・ハサミ、のり、カッターナイフ、色鉛筆などが必要になりますので各自で用意しておくこと。
・20 分以内の遅刻は出席扱いとしますが、3 回の遅刻（各 20 分以内）で 1 回欠席したものとして扱います。

到 達 目 標

１．生活科の創設の過程と生活科のねらいを理解する。
２．生活科の目標、学習内容を理解する。
３．低学年における体験的な学習活動の事例について理解する。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
理解度（40%）	授業内容を超えた自主的な学修ができる。	授業内容をほぼ100%理解している。	授業内容を理解はしているが、授業内容の理解に多少不足がある。	授業内容について最低限の理解をしている。	内容についての理解ができていない。
活動への積極的な参加（30%）	積極的に活動に参加し他者の学びや授業の充実に大きく寄与した。	積極的に活動に参加している。	概ね積極的に活動を行っているが多少の不足がある。	最低限の活動を行っている。	活動に参加できていない。
解決を文章で説明する力（振り返りシート）（30%）	他人を説得する内容が記述することができる。	論理が通った説明文を記述することができる。	不足する点があるものの、説明文を書くことができる。	最低限の内容について説明ができる。	内容についての説明ができない。

評価方法

各授業で行う発表・授業の終わりに提出する振り返りシート（50%）※授業態度も含まれます。
試験（50%）

テキスト

・教科書名：小学校学習指導要領解説 生活編
・著 者 名：文部科学省
・出版社名：東洋館出版社
・出 版 年（ISBN）：2018 年 ISBN:978-4491034645
※指導要領は各自でダウンロードして印刷したものを使用してもよい。参考文献は適宜紹介します。

栽培　～主な野菜の作り方を学ぼう～	橋本　敏幸

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1年	前期	1	選択	−	−	−

授業概要

基本的な野菜を取り上げ、その栽培方法を習得することを指導する。また、幼児教育での農業体験の重要性を講義する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	科目「栽培」についてのガイダンス（菜園での心得・姿勢について）
第 2 回	トマトなどの定植（野菜苗の植え付けの基本を覚える）
第 3 回	エダマメ・トウモロコシの播種（種まきの基本を知る）
第 4 回	土壌の性質と施肥（豊かな土壌を作る有機物・化学肥料の施肥量を計算する）
第 5 回	ジャガイモの管理（除草と芽掻きの要領を体験する）
第 6 回	トマトの整枝（美味しいトマトを収穫するための技術を習得する）
第 7 回	キュウリ・ナスなどの管理の仕方を学ぶ（肥料・水の管理）
第 8 回	葉菜類栽培の基礎を学ぶ（コマツナ・ホウレンソウなど）
第 9 回	根菜類栽培の基礎を学ぶ（ダイコン・ニンジン・サツマイモ）
第 10 回	ジャガイモの収穫と保存の仕方を学ぶ
第 11 回	エダマメ・トウモロコシの収穫と調整の仕方を学ぶ
第 12 回	菜園の片づけ（栽培した菜園に感謝を込めてきれいにする）
第 13 回	地球温暖化と食糧危機に今、私たちにできることを考える（講義）
第 14 回	幼児教育と農業（自然や生命を通して子供の発達を考える）（講義）
第 15 回	栽培授業のまとめ

予習・復習

・予習：用意した資料等を事前に熟読すること。指示した課題についてはノートにまとめる。

・復習：特に実習で学んだ事柄をまとめて記録する。

履修上の注意

栽培は実習中心の授業です。天候（雨・高温）の影響を受けやすいので体調管理が重要です。また、除草など地味で根気のいる作業が多くあります。相応の覚悟が必要です。そのために実習に適した服装を用意してください。正当な理由がない場合は始業時に遅れた者は遅刻とします。

到 達 目 標

誰でもが一つの野菜を栽培できることを目指す。
栽培（農業）が子どもの発達に影響を及ぼすことについて考えられるようになる。
地道に野菜作りに取り組める姿勢を身に着ける。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
栽培方法についての理解度（４０%）	栽培方法を理解し次に行う管理を自ら判断し正確に行うことができる。	栽培方法を理解し指示に従って正確に管理を行うことができる。	栽培方法はほぼ理解できているが正確な管理を行うことが困難である。	栽培方法がやや理解不足のため指導のもとある程度の管理ができる。	栽培方法が理解不足のため指導のもとでも管理が困難である。
栽培実習能力についての到達度（４０%）	機械や道具を正しく使いこなし作業手順について先を見ながら率先して行うことができる。	機械や道具を正しく使いこなし指示通りに作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があるが積極的に作業を行うことができる。	機械や道具の使い方にやや難があり作業が消極的で時間がかかる。	消極的で実習を行う姿勢が見られない。
文章で説明する力（２０%）	栽培手順や重点箇所を理路整然と正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや大まかであるが正しくまとめることができる。	栽培手順や重点箇所をやや正確さに欠けるがまとめることができる。	栽培手順や重点箇所が説明不足なまとめ方である。	栽培手順や重点箇所をまとめる力が劣っている。

評価方法

学期末考査　４０%
実習態度　　４０%
レポート　　２０%

テキスト

教科書は使いません。必要に応じて資料を配布します。

演劇　～演技・演出の体験とファシリテーション～

中村一規

年次	時期	単位	卒業	免許・資格		
				幼稚園	小学校	保育士
1・2年	後期	1	選択	−	−	−

授業概要

身体を使って実践的に演劇を体験する。「短編作品を創作し発表すること」「シアターゲームとそのファシリテーション」の２項目を中心に、演劇という表現方法について体系的に学ぶ。自らの表現を獲得すること、他者とのコミュニケーションを理解することについて指導する。

授業計画

授業回	授業内容
第 1 回	演劇とは何か？①　演劇について考えてみる
第 2 回	演劇とは何か？②　シアターゲームを体験する
第 3 回	演劇とは何か？③　インプロを体験する
第 4 回	演技演出体験①　発声体験　人に届く声とはなにか？
第 5 回	演技演出体験②　短編戯曲の読み合わせと発表
第 6 回	演技演出体験③　演出を付けてみる、付けられてみる
第 7 回	演技演出体験④　短編作品のストーリーを考える
第 8 回	演技演出体験⑤　短編作品の創作と練習
第 9 回	演技演出体験⑥　短編作品の発表とフィードバック
第 10 回	ファシリテーションとは何か？①　さまざまなシアターゲーム
第 11 回	ファシリテーションとは何か？②　ワークショッププログラムの組み方、進め方
第 12 回	ファシリテーションとは何か？③　実践とフィードバック
第 13 回	ファシリテーションとは何か？④　今、必要とされている表現とは？
第 14 回	ファシリテーションとは何か？⑤　今、必要とされているコミュニケーション力とは？
第 15 回	授業のまとめ

予習・復習

・予習：必要に応じて、テキスト・動画などの事前課題を課す。
・復習：振り返りシートの記入と提出。連続課題の場合は創作や練習、プレゼンテーションの準備

履修上の注意

動きやすい服装で参加すること。
実技を中心とした授業だが、体調がすぐれない場合は見学も可（要相談）
グループでの作業が多いため、遅刻はできる限り無いように。

到 達 目 標

演技スキルの向上や知識の習得だけが目的ではなく、演劇を通じて「なぜ表現するのか」「表現にどのような力があるのか」「幼児・児童に表現をどう促し導くべきか」などについて、思考し自覚ができるようになることを目指す。
芸術という答えがないことについて、身体を通じて創作し、他者と協働できるようになるために必要な、心と身体を整えることを目標とする。

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	期待している以上である	十分に満足できる	やや努力を要する	努力を要する	相当の努力を要する
知識・理解（４０％）	演劇についての知識と理解があり、それを応用し発展させることができている	演劇についての知識と理解があり、それを活用する術に自覚的である	演劇について知識を身につけ理解している	演劇に対して最低限の知識を身に付け、理解している	演劇に対する知識と理解が不十分である
意識・関心（３０％）	授業課題に他者と協働して取り組み、優れた成果をあげている	授業課題に自覚的に取り組み、成果をあげている	授業課題に集中して取り組んでいる	授業課題に最低限、取り組んでいる	授業課題への取り組みが不十分である
技能・表現（３０％）	演劇を表現・説明するための能力が十分にあり、それを活用しオリジナルの形に昇華できている	演劇を表現・説明するための能力が十分に備わっている	演劇を身体を通じて、他者に伝わるように表現・説明できている	演劇を身体を通じて最低限、表現・説明している	演劇を表現・説明するための能力が不十分である

評価方法

（知識・理解）学期末試験、レポートなど　40%
（思考・関心）振り返りシート、授業態度など　30%
（技能・表現）授業内発表、プレゼンテーションなど　30%

テキスト

必要に応じて、その都度テキストを配布する。
参考図書については、授業内で紹介する。